



2021年4月14日

各 位

会 社 名 ハイアス・アンド・カンパニー株式会社  
 代表者名 代 表 取 締 役 福島 宏人  
 (コード番号：6192 東証マザーズ)  
 問 合 せ 執 行 役 員 西田 祐  
 責 任 者 経 営 管 理 本 部 長  
 (TEL. 03-5747-9800)

**株式会社くふうカンパニーによる当社株券に対する公開買付けに関する意見表明、同社との資本業務提携、及び同社を割当予定先とする第三者割当による新株式発行に関するお知らせ**

当社は、本日開催の取締役会において、後記「I. 本公開買付けに関する意見表明について」に記載のとおり、株式会社くふうカンパニー（以下「公開買付者」又は「くふうカンパニー」といいます。）による当社の普通株式（以下「当社株式」といいます。）に対する公開買付け（以下「本公開買付け」といいます。）に関して、賛同の意見を表明するとともに、本公開買付けに応募するか否かについては当社の株主の皆様のご判断に委ねること及び後記「II. 本資本業務提携契約について」に記載のとおり、公開買付者との間で資本業務提携契約（以下「本資本業務提携契約」といい、当該契約に基づく資本業務提携を「本資本業務提携」といいます。）を締結することを決議いたしましたので、お知らせいたします。また、当社は、同日開催の取締役会において、本資本業務提携契約に基づき、後記「III. 第三者割当増資による新株式発行について」に記載のとおり、公開買付者を割当予定先として第三者割当の方法による新株式の発行を行うこと（以下「本第三者割当増資」といい、本公開買付け及び本第三者割当増資を総称して、以下「本取引」といいます。）についても決議いたしましたので、お知らせいたします。なお、後記「I. 3. (2) ①本公開買付けの概要」に記載のとおり、公開買付者は、本取引により、当社を子会社とすることを目的としておりますが、当社株式の上場廃止を企図するものではなく、本公開買付け成立後も引き続き当社株式の株式会社東京証券取引所（以下「東京証券取引所」といいます。）マザーズ市場における上場は維持される方針です。

I. 本公開買付けに関する意見表明について

1. 公開買付者の概要

(1) 名 称	株式会社くふうカンパニー
(2) 所 在 地	東京都港区三田一丁目4番28号
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役 堀口 育代 代表取締役 新野 将司
(4) 事 業 内 容	グループ全体の経営戦略策定、経営管理及びそれに付帯する業務 グループ会社における事業活動の推進及び支援に係る業務 起業家、若手経営者、ベンチャー企業の支援に係る業務
(5) 資 本 金	81百万円(2020年12月31日現在)
(6) 設 立 年 月 日	2018年(平成30年)10月1日
(7) 発 行 済 株 式 数	18,051,361株(2020年12月31日現在)
(8) 決 算 期	9月
(9) 従 業 員 数	36名(2020年9月30日現在)
(10) 主 要 取 引 先	持株会社につき、当該事項はありません。
(11) 主 要 取 引 銀 行	株式会社三菱UFJ銀行

(12)  大株主及び持株比率 (2020年9月30日現在 (注1))	穂田 誉輝 : 56.81% 山崎 令二郎 : 2.16% 石渡 進介 : 1.83% Y J 1号投資事業組合 : 1.66% 飯尾 慶介 : 1.63% 渡邊 一生 : 1.55% 株式会社日本カストディ銀行 (信託口) : 1.35% UBS AG SINGAPORE (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店) : 1.33% RBC ISB A/C LUX NON RESIDENT/DOMESTIC RATE-UCITS CLIENTS ACCOUNT (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店) : 1.17% 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口) : 0.96%
--	--

(13) 上場会社と公開買付者の関係

資 本 関 係	該当事項はありません。
人 的 関 係	該当事項はありません。
取 引 関 係	該当事項はありません。
関連当事者への該当状況	該当事項はありません。

(14) 最近2年間の経営成績及び財政状態 (単位:百万円。特記しているものを除く。(注2))

決算期	2019年9月期	2020年9月期
連 結 純 資 産	4,882	4,431
連 結 総 資 産	5,842	6,374
1株当たり連結純資産(円)	265.40	240.69
連 結 売 上 高	4,493	4,548
連 結 営 業 利 益	270	235
連 結 経 常 利 益	264	247
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	16	△94
1株当たり連結当期純利益又は1株当たり連結当期純損失(△)(円)	0.91	△5.27
1株当たり配当金(円)	0	0

(注1) 「大株主及び持株比率」における持株比率の記載は、公開買付者の発行済株式総数から自己株式を除いた総数に対する所有株式数の割合(表示桁未満の端数を切り捨て)を記載しております。

(注2) 公開買付者は2018年10月1日に設立されたため、2019年9月期及び2020年9月期に係る経営成績及び財政状態のみ記載しております。

2. 買付け等の価格

普通株式1株につき、138円(以下「本公開買付価格」といいます。)

3. 当該公開買付けに関する意見の内容、根拠及び理由

(1) 意見の内容

当社は、本日開催の取締役会において、後記「(2)意見の根拠及び理由」に記載の根拠及び理由に基

づき、本公開買付けに関して、賛同の意見を表明するとともに、本公開買付けに応募するか否かについては、当社の株主の皆様のご判断に委ねることを決議いたしました。

なお、上記取締役会決議は、後記「(6) 公正性を担保するための措置」の「②当社における利害関係を有しない取締役全員による決議及び監査役全員による異議のない旨の意見」に記載の方法により決議されております。

## (2) 意見の根拠及び理由

### ①本公開買付けの概要

公開買付者が本日公表した「ハイアス・アンド・カンパニー株式会社（証券コード6192）との資本業務提携契約の締結並びにハイアス・アンド・カンパニー株式会社株式に対する公開買付けの開始及び第三者割当増資の引受けに関するお知らせ」によれば、今般、公開買付者は、2021年4月14日の取締役会において、本公開買付けに関連して、(i) 当社との間で、2021年4月14日付で後述の本資本業務提携契約（注1）を締結すること、及び(ii) (a) 当社の共同創業者であり2020年9月30日まで当社の代表取締役社長であった濱村聖一氏（以下「濱村氏」といいます。）及び濱村氏が支配（議決権割合：100%）する資産管理会社である株式会社HAMAMURA HD（以下、濱村氏と合わせて「濱村氏ら」といいます。）、(b) 当社の共同創業者であり2020年9月30日から同年12月15日まで当社の代表取締役社長（2020年9月30日以前は当社の取締役）であった川瀬太志氏（以下「川瀬氏」といいます。）、並びに(c) 当社の共同創業者であり2020年12月23日まで当社の常勤監査役であった大津和行氏（以下「大津氏」といい、濱村氏ら、川瀬氏及び大津氏を総称して「応募予定株主」といいます。）との間で応募予定株主が所有する東京証券取引所マザーズ市場に上場している当社株式の全てを本公開買付けにより取得すること、並びに、(iii) 本公開買付け及び後述の本第三者割当増資を組み合わせることにより、公開買付者が応募予定株主の所有する当社株式を取得し、最終的に当社の議決権の過半数を取得して当社を公開買付者の連結子会社とすることを目的として、東京証券取引所マザーズ市場に上場している当社株式を対象とした本公開買付けを実施するとともに、本公開買付けの成立等の一定の前提条件（注2）の充足を条件として、当社が全社・グループ間におけるガバナンスの再構築及び強化、財務基盤の強化及びデジタルトランスフォーメーション（以下「DX」といいます。）（注3）強化のためのWeb事業の構築、新規ツールの開発のために実施する本第三者割当増資により発行される当社株式を引き受けることを決議したとのことです。なお、公開買付者は、本日現在、当社株式を所有しておりません。

（注1） 本資本業務提携契約の概要は、後記「II. 本資本業務提携契約について」をご参照ください。

（注2） 前提条件は、後記「II. 2. (iii) 本第三者割当増資に関する事項」をご参照ください。

（注3） デジタルトランスフォーメーション（DX）とは、企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立することをいいます。

また、公開買付者は、2021年4月14日、本公開買付けに関連して、応募予定株主との間で、それぞれ公開買付応募契約（以下「本応募契約」といいます。）を締結しているとのことです。応募予定株主は、本応募契約に基づき、(a) 濱村氏が所有する当社株式2,222,080株（所有割合（注3）：9.52%）及び同氏が支配する資産管理会社である株式会社HAMAMURA HDが所有する当社株式1,200,000株（所有割合：5.14%）の全て、(b) 川瀬氏が所有する当社株式1,241,650株（所有割合：5.32%）の全て、並びに、(c) 大津氏が所有する当社株式1,082,400株（所有割合：4.64%）の全て（以下、濱村氏ら、川瀬氏及び大津氏が所有する当社株式の合計5,746,130株（所有割合：24.62%）を「応募予定株式」といいます。）を、それぞれ本公開買付けに応募することに合意しているとのことです。本応募契約の概要については、後記「4. 公開買付者と自社の株主との間における公開買付けへの応募に係る重要な合意に関する事項」をご参照ください。なお、当社の旧経営陣である柿内和徳氏（以下「柿内氏」といいます。）及び西野敦雄氏（以下「西野氏」といいます。）については、応募契約は締結していないとのことです。2021年4月14日に、本公開買付けに応じるよう当社より打診を行う予定ですが、本公開買付けに応じるか否かは未定です。

（注4） 「所有割合」とは、当社が2021年3月15日に提出した第17期第3四半期報告書（以下「当社四半期報告書」といいます。）に記載された2021年1月31日現在の発行済株式総数（23,343,900株）

から、当社四半期報告書に記載された 2021 年 1 月 31 日現在の当社が所有する自己株式数（172 株（当社の「役員向け株式交付信託」及び「従業員向け株式交付信託」の信託財産として、同日現在のみずほ信託銀行株式会社（再信託受託者：株式会社日本カストディ銀行）が所有する当社株式 445,620 株を除いた株式数です。以下同じとします。））を控除した株式数（22,898,108 株）に対する割合（小数点以下第三位を四捨五入。以下、比率の計算において同じです。）をいい、本第三者割当増資の払込みに伴う希薄化前の割合をいいます。

公開買付者は、本取引により公開買付者が最終的に当社を連結子会社化すること（増資後完全希薄化ベース株券等所有割合（注 4）にして 50.10%）、並びに、本公開買付けは当社株式の上場廃止を企図するものではなく、公開買付者及び当社は本公開買付け成立後も当社株式の上場を維持する方針であること、また、本公開買付けにおいては応募予定株主が所有する当社株式の全てを取得することを目的とし、応募予定株主が所有する当社株式を、本公開買付けの実施についての公表日の前営業日である 2021 年 4 月 13 日の当社株式の東京証券取引所マザーズ市場における終値である 153 円より 10%（小数点以下第三位四捨五入。以下同じ。）ディスカウントした価格から 1 円未満を切り上げた価格（138 円）で取得することを目的としたものであり、当社の一般株主の皆様への売却を予定しているものではないものの、本公開買付けによる売却を希望する応募予定株主以外の当社株主の皆様にも売却の機会を提供する観点から、本公開買付けにおいては、公開買付者の本公開買付けにおける取得分及び本第三者割当増資による取得分に関して、仮に本公開買付けに当社が所有する自己株式を除く発行済株式総数（23,343,728 株）の全ての応募があった場合においても増資後完全希薄化ベース株券等所有割合が 50.10% となるよう、買付予定数の上限を 12,608,200 株（所有割合：54.01%）としているとのことであり、本公開買付けに応じて売付け等がなされた株券等（以下「応募株券等」といいます。）の総数が買付予定数の上限（12,608,200 株）を超える場合は、その超える部分の全部又は一部の買付け等を行わないものとし、発行者以外の者による株券等の公開買付けの開示に関する内閣府令（平成 2 年大蔵省令第 38 号。その後の改正を含みます。）第 32 条に規定するあん分比例の方式により、株券等の買付け等に係る受渡しその他の決済を行うとのことです。この場合、応募予定株主は本公開買付けの後も、当社株式を一部所有することになりますが、応募予定株主によるその後の当社株式の保有方針について、公開買付者と応募予定株主との間に特段の取決めはなく、応募予定株主の保有方針についても伺っていないとのことです。なお、本公開買付けが買付予定数の上限で成立した場合、公開買付者は、本第三者割当増資の払込みは行わず、当社株式は新たに発行されないこととなりますので、本公開買付け成立後に公開買付者が所有することとなる当社株式数（12,608,200 株）に係る議決権数は 126,082 個となり、かかる議決権増資後完全希薄化ベース株券等所有割合は 50.10% となるとのことです。他方、本公開買付けにおいては、応募予定株主からの応募を念頭に、買付予定数の下限を当該応募予定株主が所有する応募予定株式と同数である 5,746,130 株（所有割合：24.62%）としており、応募株券等の総数が買付予定数の下限（5,746,130 株）に満たない場合には、応募株券等の全部の買付け等を行わないとのことです。なお、公開買付者は、本公開買付けの実施にあたり、応募予定株主との間で 2021 年 4 月 14 日付でそれぞれ本応募契約を締結しており、本応募契約に基づき、応募予定株主が所有する応募予定株式（5,746,130 株）について本公開買付けに応募する旨の合意を得ていることから、応募予定株主が本応募契約に従い応募予定株式（5,746,130 株）を本公開買付けに応募した場合、応募株券等の総数が買付予定数の下限（5,746,130 株）以上となることから、本公開買付けは成立することとなるとのことです。なお、応募予定株主の所有する応募予定株式の全てのみ応募があり、その結果本公開買付けが買付予定数の下限で成立した場合、公開買付者は、後述の本第三者割当増資による最大発行株式数（13,751,600 株、議決権数：137,516 個）について払込みを行う予定とのことであるため、その場合、本公開買付け成立後に公開買付者が所有することとなる当社株式数（19,497,730 株）に係る議決権数は 194,977 個となり、増資後完全希薄化ベース株券等所有割合は 50.10% となるとのことです。

（注 5） 「増資後完全希薄化ベース株券等所有割合」とは、本公開買付け及び本第三者割当増資の結果新たに発行されることとなる当社株式に係る議決権数を踏まえた株券等所有割合であって、具体的には、当社四半期報告書に記載された 2021 年 1 月 31 日現在の発行済株式総数（23,343,900 株）に、本日現在の当社が発行する第 4 回新株予約権、第 5 回新株予約権、第 9 回新株予約権及び第 10 回新株予約権の各新株予約権（以下、これらの新株予約権を総称して「本新株予約権」といいます。詳細は下記をご参照ください。なお、本新株予約権は本公開買付けの対象とされておりません。）の合計 43,329 個の目的となる当社株式数の合計数（1,822,200 株）を加算し、さらに本第三者割当増資の引受けによりくふうカンパニーが所有することになる当社株式数を加算した株式数（38,917,700 株）に、当社四半期報告書に記載された 2021 年 1 月 31 日現在の当社が所有する自己株式数（172 株）を控除した株式数（最大で 38,917,528 株）に係る議決権数（最大で 389,175 個）に対する割合をいい

ます。なお、本公開買付けが買付予定数の上限で成立した場合、本取引が本資本業務提携を目的とするものであるため公開買付者は本第三者割当増資の払込みを行わないことから、増資後完全希薄化ベース株券等所有割合の分母は、当社四半期報告書に記載された2021年1月31日現在の発行済株式総数(23,343,900株)に、本日現在の当社が発行する本新株予約権の合計43,329個の目的となる当社株式数の合計数(1,822,200株)を加算した株式数(25,166,100株)に、当社四半期報告書に記載された2021年1月31日現在の当社が所有する自己株式数(172株)を控除した株式数(25,165,928株)に係る議決権数(251,659個)となります。

回号	2020年4月30日現在の残存個数	2020年4月30日現在の残存個数の目的となる株式数	本日現在の残存個数	本日現在の残存個数の目的となる株式数
第4回新株予約権	461個	829,800株	220個	396,000株
第5回新株予約権	37,300個	335,700株	31,700個	285,300株
第9回新株予約権	1,910個	191,000株	1,740個	174,000株
第10回新株予約権	10,400個	1,040,000株	9,669個	966,900株

(注) 2020年4月30日現在の各新株予約権の残存個数及びその目的となる株式数は、当社が2020年9月30日に提出した第16期有価証券報告書(以下「当社有価証券報告書」といいます。)に記載された数値となります。また、本日現在の各新株予約権の残存個数及びその目的となる株式数は、第4回新株予約権、第9回新株予約権及び第10回新株予約権については2020年4月30日以後の付与対象者の退職による失権分を除いた結果の数値であり、第5回新株予約権については2020年4月30日以後の付与対象者による行使による減少及び付与対象者の退職に失権分を除いた結果の数値です。

## ②本公開買付けの実施を決定するに至った背景、目的及び意思決定の過程

### (a) 公開買付者グループの概要

公開買付者は、共同株式移転の方法により、2018年10月1日付で株式会社オウチーノ及び株式会社みんなのウェディングの完全親会社として設立され、同日付で東京証券取引所マザーズ市場に上場したとのことです。

公開買付者グループは、持株会社である公開買付者及びその子会社14社(2020年12月31日現在)で構成され、「くふうで生活を賢く・楽しく」を経営理念とし、ユーザーが様々なライフイベントにおいて、より賢く、楽しく意思決定を行えるようサービスの提供を目指しているとのことです。公開買付者グループでは、主にインターネットを介して結婚関連事業、不動産関連事業、金融関連事業、メディア関連事業を展開しているとのことです。結婚関連事業は株式会社エニマリによるウェディング総合情報メディア「みんなのウェディング」、会費制結婚式プロデュースサービス「会費婚」、新しい生活様式に合わせた“結婚を祝う新しいカタチ”を提案するサービス「エニマリ」、株式会社フルスロットルズによるインポートブランドを中心としたウェディングドレス販売「DRESS EVERY」等で構成されているとのことです。不動産関連事業は株式会社オウチーノによる住宅・不動産専門メディア「オウチーノ」、株式会社おうちのくふうによる生活者向けの買取再販サービス、株式会社Seven Signatures Internationalによる富裕層向けコンサルティングサービス、その他子会社2社で構成されているとのことです。金融関連事業は株式会社Zaimによる900万ダウンロードを超えるオンライン家計簿サービス「Zaim」、並びにくふう少額短期保険株式会社及び株式会社保険のくふうによる保険サービス等で構成されているとのことです。メディア関連事業は株式会社くらしにくふうによるくらしに関する総合情報メディア「ヨムノ」及びグループ内外の各メディアの企画・制作・運営支援等で構成されているとのことです。その他、株式会社Da Vinci Studio、株式会社くふうキャピタル、その他子会社1社により、グループ内各事業に対する支援業務等を行っているとのことです。公開買付者グループでは、上述のとおり、主にインターネットを介して結婚や不動産といったライフイベントに関連した事業テーマを扱っ

ているとのことです。これらの事業領域は、ユーザーと事業者間の情報格差の大きい領域であると認識しているとのことです。公開買付者グループは、「ユーザーファースト」を徹底し、これらの情報格差の解消と利便性の高いサービスづくりに注力しているとのことです。同時に、各領域において「メディア+サービス」のビジネスモデルを展開することで、ユーザーの検討段階における情報収集からサービスの利用段階まで、一気通貫にサポートできるサービスづくりを推進しているとのことです。また、公開買付者は、ユーザーニーズへの対応をより一層強化していくとともに、さらなる事業規模拡大及び持続的成長により企業価値の向上を図るため、新規事業開発やM&A等も機動的に実施しているとのことであり、直近では2021年1月4日付で株式会社キッズスターの株式を取得し、新たに「子ども関連事業」を開始しているとのことです。中期では各事業領域における事業成長を重視し、2020年8月12日に公表した中期の経営定量目標（EBITDA）として2023年9月期に20億円を目指しているとのことです（コロナ禍に伴う戦略変更により、従来の中期経営企画を2年先送りとしているとのことです。）。

結婚関連事業においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、「みんなのウェディング」のサイト利用者数及び有料掲載式場数が減少した他、結婚式プロデュースサービス「会費婚」における結婚式の開催や新規受付件数は大きく落ち込んだとのことです。2020年10月1日付で株式会社みんなのウェディングと株式会社アールキューブを合併（株式会社みんなのウェディングを存続会社とする吸収合併）し、株式会社エニマリに商号を変更、さらに2021年1月1日付で株式会社フルスロットルズを合併（株式会社エニマリを存続会社とする吸収合併）し、経営リソースを最適化した新たな体制の下、結婚にまつわる様々なシーンを祝う新たなサービスの開発を推進し、「エニマリ」ブランドによる展開に注力しているとのことです。

不動産関連事業においては、株式会社オウチーノでは、不動産会社等に向けて住宅・不動産専門メディア「オウチーノ」での物件掲載サービスを提供しているほか、近年は営業支援ツール「オウチーノくらすマッチ」の販売が順調に拡大しているとのことです。株式会社おうちのくふうは、2020年6月19日、国内におけるオフィス賃貸を中心とした不動産仲介を提供していた株式会社おうちのアドバイザーから株式会社おうちのくふうへ商号変更を行うとともに、事業内容を生活者向けの買取再販サービスに刷新することで、事業を本格始動したとのことです。一都三県を中心に、駅から徒歩10分圏内、60平米前後のファミリー層向け居住用中古マンションを仕入れ、新築同様のフルリノベーションを行い、3,000万円台を中心としたリーズナブルな価格帯で販売しているとのことです。2020年12月31日現在、物件の仕入れ及びリフォームにかかる費用が売上に先行して発生しているとのことです。今後の販売に向けて計画通りに進捗しているとのことです。株式会社Seven Signatures Internationalは、国内外における新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う渡航規制等により、米国ハワイ州における事業活動への影響が続いているとのことです。コスト削減に取り組むとともに、国内外における富裕層顧客のニーズに応えた取引案件を獲得しているとのことです。

金融関連事業においては、オンライン家計簿サービス「Zaim」は、有料課金ユーザーを対象に長期的な資産形成・ライフスタイルの変化に寄り添う基盤として、ライフプラン管理ツール等の開発を推進している他、大手企業や官公庁等からのデータ連携ニーズへの対応を強化することで、収益が拡大しているとのことです。また、保険サービスはグループ内連携による保険提案に注力しているとのことです。

メディア関連事業においては、くらしに関する総合情報メディア「ヨムーノ」のユーザー数の増加とともに広告収入が伸長する一方、新たな収益源の獲得に向けたコンテンツ強化やメディアの開発等に注力しているとのことです。

その他、支援機能として株式会社Da Vinci Studioによる公開買付者グループ内外向け技術支援等を展開しているとのことです。

#### (b) 当社グループの概要

一方、当社は、資産価値が維持できる高性能住宅商品の企画開発、住消費者のリスクを最小化するための住宅不動産取引の実現による資産価値の維持向上を理念に掲げ2005年3月に創業し、2016年4月に東京証券取引所マザーズ市場に上場いたしました。2020年7月21日に東京証券取引所市場第一部に上場市場を変更した後、当社において、後述のとおり特別調査委員会を設置し過去の不適切な会計処理について調査しておりましたが、2020年8月31日に当社独立役員も委員となっている特別調査委員会から、

当社から独立した中立・公正な社外委員のみで構成される第三者委員会への移行等について開示し、また、同年9月29日に開示した新規上場前からの不適切会計に関する第三者委員会の中間調査報告書を開示し、更に、同年9月30日に監査報告書の意見不表明について開示し、これらの開示及び東京証券取引所によるこれまでの審査の結果を受け、同年9月30日、東京証券取引所から、当社が提出した新規上場申請及び上場市場の変更申請に係る宣誓書において宣誓した事項について重大な違反を行ったおそれがあると判断され、当社株式は監理銘柄（審査中）の指定を受け、2020年11月26日付で監理銘柄の解除及び特設注意市場銘柄の指定を受け、上場市場の変更（2020年12月27日付で市場第一部からマザーズ市場への変更）が行われております。

当社は、連結子会社である株式会社ans、一般社団法人住宅不動産資産価値保全保証協会、株式会社K-コンサルティング、株式会社アール・プラス・マテリアル、株式会社ウェルハウジング、ハイアス・プロパティマネジメント株式会社、ハイアス・キャピタルマネジメント株式会社、株式会社LHアーキテクチャ、SUNRISE株式会社、株式会社HCマテリアル、GARDENS GARDEN株式会社及び株式会社家価値サポートの合計13社の企業集団（以下「当社グループ」といいます。）で構成されており、「コンサルティング事業」及び「建築施工事業」を主たる事業としています。

「コンサルティング事業」は、住関連産業（住宅、不動産、建設業界）に特化した経営コンサルティング事業であり、地域の中小企業を会員組織としてネットワーク化することによって、事業提携先と協力し、業界のノウハウを分析、標準化し、ビジネスモデルとしてパッケージ化した商品を顧客（会員企業）に提供しております。当該商品には、そのブランドを使って営業・販売するのに必要なシステム、ノウハウ、営業ツールなどが全て含まれています。当社グループは、企業が置かれている状況に応じて、収益構造改善や新規事業展開を含む業態転換の必要性をもつ企業には「ビジネスモデルパッケージ」を、経営（事業）におけるプロセスや機能の効率化が必要な企業には「経営効率化パッケージ」を提供しており、トータルの商品数は20を超え、住宅環境のハードインフラから情報インフラまでをトータルでサポートしています。

「建築施工事業」ではパッケージ化した商品を活用し、一般消費者向けに住宅の建築・施工等を行っており、開発したノウハウは、コンサルティング事業において、商品開発や会員企業への支援に活かしています。

なお、コンサルティング事業、建築施工事業に含まれない事業としては、宿泊施設に関する運営及び管理業務、不動産投資型クラウドファンディングの企画及び運営等があります。

当社グループの事業領域にかかわる住宅不動産業界においては、2019年から続く消費増税の反動減の影響及びコロナ禍における外出自粛や消費者マインドの低下により、新設住宅着工戸数は前年比でマイナスとなりました。1回目の緊急事態宣言後には、経済活動の再開とともに新設住宅着工戸数にも回復の兆しが見えましたが、2021年1月の再度の緊急事態宣言の発令により、消費マインドの低下が懸念され、依然として先行きは不透明な状況となっております。

このような状況の下、当社グループは、2020年6月15日に発表した「2021年4月期-2023年4月期中期経営計画」（以下「本中期経営計画」といいます。）に基づき、主力の高性能デザイン住宅「R+house」事業（合理化された部材流通と設計施工ルールにより、長期優良住宅基準を上回る機能性と建築家による高いデザイン性を備えた住宅を廉価に提供できるようパッケージ化したもの。）の更なる強化と伸長、新たなコアビジネスの確立といった2つの成長戦略、また、安定した収益基盤の構築という安定化戦略に基づいて事業活動を行ってまいりました。

コロナ禍の状況においても、消費者ニーズの変化を捉えた「新しい生活様式」に対応する建築家プランの提案及び会員企業等とオンライン面談を積極的に進めた結果、2020年6月以降は受注実績については、ほぼ前年の水準まで回復しています。もっとも、当社は、後記「III. 3. (2) 調達する資金の具体的な使途」のとおり、「R+house」のエンドユーザー（当社の提供する不動産を購入する生活者をいいます。）の認知度は未だ十分であるとはいえず、認知度の向上に向けて更なるブランド広告活動が必要となると考えております。かかる広告活動に際しては、従前実施してきたTV・CM等を通じた一部地域での広告活動に加えて、メディア運営、インターネット等のエンドユーザーとの新たなチャネルの創出に向けた投資を行う必要があると考えておりました。

また、安定した収益基盤の構築に向けた取組みとしては、導入サービスの成果報酬である「ロイヤルテ

イ等」を主な収益とするため、会員企業（顧客）の受注促進を通じた収益拡大に向けて注力する必要があると考えております。そのために、「R+house」のマーケティング活動を強化するほか、会員企業のエンドユーザーへの提案力向上のための新規サービスの開発・提供を強化していく必要があると考えております。具体的には、近年の特定地域での大規模自然災害、コロナ禍以降においては、地方での住まいのニーズやテレワークのニーズが生じる等、住宅・不動産業界において求められる商品・サービスなどのニーズが多様化しており、そのような多様かつ新たな住宅ニーズ（リモートワーキングスペース、地方での戸建てニーズ等）を的確に把握するツールや、エンドユーザーへの高付加価値の商品・サービスの提供を実現するツールなど、従来よりもエンドユーザーとのチャネルツールの開発を迅速に行い、拡充していく必要性が高まってきております。

さらに、当社からの会員企業へのコンサルティング・業務支援における業務負担の軽減や、建築・購入を検討するエンドユーザーへの相談サービス「ans（住まいづくりの相談窓口）」のリモート相談のインフラ構築・充実などにおいても、メディア・コミュニケーションの開発・利用のノウハウの確保の必要性が高まってきております。

当社グループにおいては、2020年10月頃から、上記のとおり、コロナ禍の下、安定的な収益構造の構築と持続的な成長のために、本中期経営計画の着実な遂行を行うためには、エンドユーザー向けのオンライン領域のメディアツール、その開発・活用を自ら行うにとどまらず、そのようなノウハウを豊富に有する企業とのアライアンスにより事業シナジーを獲得する可能性についても模索し始めておりました。

他方で、当社グループにおいては、当社が、2020年7月28日に公表した「当社における不適切な会計処理に係る特別調査委員会の設置に関するお知らせ」及び2020年9月30日に公表した「第16期有価証券報告書の提出、並びに過年度の有価証券報告書等、決算短信等の訂正に関するお知らせ」のとおり、過去の売上高や売上原価その他の費用等の計上処理に関連して、不適切な会計処理（以下「本不適切会計」といいます。）が行われていたことが、2020年7月下旬頃に判明し、その後、同年9月29日に新規上場前からの不適切会計に関する第三者委員会の中間調査報告書を開示し、また、同月30日には過年度の決算短信等の訂正を開示するとともに、監査報告書の意見不表明等について開示しました。本不適切会計を受け、同日、東京証券取引所において、当社が提出した新規上場申請及び上場市場の変更申請に係る宣誓書における宣誓事項について重大な違反を行ったおそれがあると判断され、当社株式は、監理銘柄（審査中）に指定され、その後、同年11月27日付で、東京証券取引所から特設注意市場銘柄に指定されました（注1）。

（注1） 特設注意市場銘柄の指定期間は、2020年11月27日から原則1年間となっており、期間内に東京証券取引所に内部管理体制確認書を提出する必要があると認められず、提出を受け、東京証券取引所において、内部管理体制等の審査を行い、内部管理体制等に問題があると認められない場合には、指定が解除となります。一方、内部管理体制等に問題があると認められる場合、原則として上場廃止となります。但し、その後の改善が見込まれる場合には、特設注意市場銘柄の指定を継続し、6ヶ月間改善期間が延長されます。なお、特設注意市場銘柄指定中であっても内部管理体制等の改善見込みがなくなったと認められる場合には、上場廃止となる可能性があります。

当社は、上記の状況を解消すべく、2020年9月11日に当社の役職員を委員とする自主再生委員会を発足させ、執行レベルで具体的な再発防止策及びその実施体制の検討を進め、経営ガバナンス強化に向けた抜本的改革として、2020年9月30日に経営体制を刷新し、その後、自主再生委員会は、同年10月17日にその検討結果を第三者委員会及び当社取締役会に提言し、同年10月30日に当社としての再発防止策を策定しております。さらに社外取締役の拡充やガバナンスの強化を図るため、2020年12月23日開催の臨時株主総会を経て新経営体制に移行いたしました。また、新経営体制の下、経営ガバナンス強化に向けた抜本的改革、業務処理統制の強化及び管理体制の増強、上場会社としての役職員の意識改革を含む再発防止の実行を主導するに努めるべく、2020年11月2日にリスタート委員会（注2）を社内組織として設置しております。また、当社が2020年12月22日に公表した「旧経営陣の持株比率の低下に向けた方針に関するお知らせ」のとおり、当社は、本不適切会計に関する再発防止策の一環として、旧経営陣の法的責任の明確化のための対応を検討する一方、旧経営陣の株主としての当社への影響力を解消するため、旧経営陣の持株比率を低下させることを試み、旧経営陣のうち当社の前々代表取締役であった濱村氏ら及び2020年10月31日現在において当社の第2位株主であって当社の共同創業者であり2020年9月30日まで当社取締役であった柿内氏との間で、それぞれ誓約書を締結し、同氏らが所有する当社株式を早期に処分す

るよう努める旨の合意をしております。

(注2) リスタート委員会の設立の経緯としては、再発防止策の確実な実行が策定後の重要なテーマとなる中で、自主再生委員会に、再発防止策の実行面に直接関わる実務者を加える形で体制強化を図っております。具体的には、内部統制の見直しを行う業務統制課・財務経理課・経営企画課、規程の整備や全社的な意識改革を行う総務部の中核メンバーがリスタート委員会に加わり、構成しております。発足以降、リスタート委員会は、現在まで、職務権限の見直し、業務フローの見直しと関連規程の変更、コンプライアンスの浸透のための基本方針の策定、役職員向けの研修計画と実施などに取り組んできております。

(注3) 当社は、本日現在、本不適切会計に関する再発防止策の一環として、旧経営陣の法的責任の明確化のための対応として、旧経営陣に対して法的責任を追及するための訴えの提起を検討しております。

しかしながら、当社が2021年2月1日に公表した「第三者委員会設置に関するお知らせ」及び同月4日に公表した「(開示事項の経過) 第三者委員会設置に関するお知らせ」のとおり、その後、当社の前代表取締役であった川瀬氏が2020年10月1日付で所定の手続を経ることなく独断で代表取締役の職務権限を超える金額の支払約定書に署名した可能性が判明いたしました。当社は、本不適切会計を踏まえて経営陣が交代した直後において、新たに代表取締役就任した前代表取締役であった川瀬氏が関与して上記のような事態が生じたことを極めて深刻に受け止め、当社から独立した中立・公正な外部専門家のみで構成される第三者委員会により、類似事象の有無を含む徹底した事実調査、発生原因の分析及び再発防止策の提言をいただくことが必要であると判断し、2021年2月1日開催の当社取締役会において第三者委員会の設置を決議いたしました。当社が2021年3月12日に公表した「第三者委員会の調査報告書公表に関するお知らせ」のとおり、当社取締役会は、第三者委員会より調査報告書を受領したことを受け、2020年10月26日に受領した第三者委員会からの調査報告書に示された内容を踏まえた再発防止策に統合の上で、大要以下を内容とする改善計画を策定する予定です。なお、当社における一連のガバナンス上の問題点に関する一連の経緯については、別紙をご参照ください。

#### I. 「経営ガバナンス強化に向けた抜本的改革」に関する再発防止策

##### ① 経営陣の刷新

- ・監督機能を担う取締役と業務執行を担う執行役員を明確に分離します。
- ・独立社外取締役の比率が3分の1以上となる経営体制とします。

##### ② 取締役会の改革

- ・社内外の取締役間また、独立社外取締役と独立社外監査役の間の連携強化を図ります。
- ・任意の諮問委員会を設置します。

##### ③ 監査役会の改革

- ・監査役会と内部監査部門の連携強化を図る他、新規に監査に精通した専門家を選任します。

##### ④ 意思決定フローの明確化

- ・取締役、執行役員の権限と責任の明確化を図ります。

##### ⑤ 中長期的企業価値向上をベースとした中期経営計画の策定

- ・事業を通じた社会貢献と中長期的な企業価値向上を意識した経営計画の策定・推進を行います。

#### II. 「業務処理統制の強化及び管理体制の増強」に関する再発防止策

##### ① 業務フローの再構築・改善

- ・職務権限の見直しと各種稟議フローの改善を進めてまいります。

##### ② 業務管理部門の新設

- ・財務報告に係る内部統制の構築・運用に関する第1のディフェンスライン部門を新設します。

##### ③ 財務管理部門の新設

- ・財務に精通した経営管理トップが管理する組織体制を構築してまいります。
- ・研修受講によるメンバースキルアップ及び専門性の高い人材の新規採用を行います。

##### ④ 内部監査の強化

- ・内部監査室を部に昇格、増員する他、監査法人との定期的な情報共有を図ってまいります。

##### ⑤ 内部通報制度の周知

- ・内部通報制度の十分な活用のため、役職員に制度の理解、周知・徹底を図ってまいります。

#### III. 「上場会社としての当社役職員の意識改革」に関する再発防止策

- ・「コンプライアンス基本方針」の策定を進めてまいります。
- ・コンプライアンスや内部統制の研修、e-ラーニング等の教育を継続実施してまいります。

このような、再発防止策のうち、経営ガバナンス強化に向けた抜本的改革を実現するにあたり、旧経営陣の

影響力の排除は極めて重要な課題であると認識しております。そのため、当社は、2020年11月上旬から、旧経営陣が保有する当社株式の引受先として、当社の金融機関、取引先など複数の関係先を通じ、幅広く保有株式の引受先の候補選定を開始しました。

当社は、上記のような経営課題及びガバナンス上の課題を有する状況下において、当社の経営課題の解決に資する事業パートナー及び旧経営陣が所有する当社株式の引受先を検討しておりましたところ、2020年12月17日、公開買付者より、旧経営陣が所有する当社株式を引き受けることを検討するとともに、資本業務提携の可能性について模索したいとの提案を受領しました。

#### (c) 当社及び応募予定株主との協議・交渉

公開買付者は、2018年10月の設立以降より多くのユーザーニーズに応える価値提供を行うためには、公開買付者グループが展開する不動産関連事業において、サービス提供可能エリアを全国へ拡大すること、並びにサービスで取り扱う物件の種類を中古住宅マンションから戸建住宅を含む多種多様な物件へ広げていくことが必要であると考えているとのことです。また、住まいの検討段階における情報収集から住まいの購入段階まで、より付加価値の高いサービスを一気通貫に提供していくには、新しいサービスの開発も推進していくことが必要であると考えているとのことです。公開買付者は、公開買付者の目指すサービスの付加価値をより高めていくために、当社のような全国の工務店にネットワークを持つサービス提供事業者との連携を、当社と面談する以前より模索しており、公開情報を中心に当社の事業についても認識していたとのことです。公開買付者は、当社が2020年12月15日に公表した「代表取締役の異動に関するお知らせ」及び2020年12月16日に公表した「新経営体制に関するお知らせ」を受け、公開買付者の新たな事業パートナー候補として新体制となった当社との連携の可能性を検討するため、当社のリーガル・アドバイザーである森・濱田松本法律事務所を通して、当社へ面談の申し入れを行ったとのことです。その後、公開買付者は、当社が2020年12月22日に公表した「旧経営陣の持株比率の低下に向けた方針に関するお知らせ」を通じて、当社が過去の不適切な会計処理に関する再発防止の一環として旧経営陣の影響力の解消のため、旧経営陣が保有する株式について市場外相対取引を前提に複数の事業会社と協議を進める方針であることを知ったとのことであり、2020年12月25日に当社と初めて面談を行った際に、当社の事業について理解を深めるとともに、2021年1月13日に再度当社と面談を行った際に、当社におけるガバナンスの強化及び公開買付者との事業上のシナジーによる企業価値向上を目指した資本業務提携により、当社の注文住宅販売に係るノウハウや、全国の約1,400社に及ぶ会員企業とのネットワークを活用することによる公開買付者グループのユーザーに向けたサービスの多様化が期待できると考えに至ったとのことです。その後、2021年1月中旬から同年4月上旬にかけて当社と公開買付者との間で複数回に亘って協議を行い、公開買付者は、柔軟かつ戦略的な施策を迅速に実施していく業務提携を実現すること及び、当社の上場維持を前提とし、自主的な再建を尊重しつつ、特設注意市場銘柄の指定の解除に至るためには、当社の内部管理体制に係る課題の改善が急務であると認識したとのことであり、旧経営陣の影響力を早期に排することが必要不可欠であるところ、後述のとおり、柿内氏が株主として存続する可能性もあることから、その場合にも備えてガバナンスの強化を図る必要があると判断し、持分法適用会社化ではなく、当社の議決権の過半数を取得して当社を公開買付者の連結子会社とすることで、ガバナンス及び経営の安定性を確保すべきと判断し、当社の議決権の過半数を取得して当社を公開買付者の連結子会社とすることにより、厳しい競争環境にある住宅・不動産市場動向やユーザーニーズの変化に対して適時適切に対処していくための迅速な意思決定が実現できるのではないかと考えたとのことであり、2021年3月上旬、正式に旧経営陣の所有する当社株式を可能な限り公開買付けで取得し、第三者割当増資で当社の議決権の過半数取得を前提とした資本業務提携の可能性を打診し、当社においても2021年3月上旬に公開買付者の提案を受諾することで考えが一致いたしました。

当社は内部管理体制の改善を急務としており、12月22日に公表した「旧経営陣の持株比率の低下に向けた方針に関するお知らせ」のとおり、当社は、不適切会計に関する再発防止策の一環として、旧経営陣の経営責任及び法的責任を検討する一方、旧経営陣の株主としての当社への影響力を解消するため、旧経営陣の持株比率を低下させることを試み、旧経営陣のうち当社の前々代表取締役であった濱村氏及び2020年9月30日まで当社の取締役であった柿内氏との間で、それぞれ誓約書を締結し、同氏らが所有する当社株

式を早期に処分するよう努める旨の合意をしており、当社としては、市場外相対取引による処分が可能となるよう複数の事業会社と協議を進め、早期に濱村氏及び柿内氏の持株比率の低下が実現できるよう努めていく方針でした。かかる方針から、当社は、公開買付者に対し、まずは当社の主要株主兼筆頭株主であり、前々代表取締役であり、当社が本取引を進めることに対して協力的であった濱村氏らの所有する当社株式につき可能な限り取得することを最優先事項として提示しました。また、当社には、共同創業者の一人である濱村氏らが本公開買付けに応じた場合、他の旧経営陣への説明も容易になるとの考えがありました。これを受け、公開買付者は、2021年3月中旬より、当社とは別に、濱村氏らとの間で複数回の協議を行ったとのことであり、当社との資本業務提携に関する基本方針を説明するとともに、公開買付者が当社株式を過半数取得することの是非及び濱村氏らの所有する当社株式の譲渡等について交渉を行ったとのことです。2021年3月下旬、公開買付者は、本第三者割当増資における引受価格と同一価格にて本公開買付けを実施する予定であることを濱村氏に説明したとのことです。濱村氏らは、2021年4月上旬、当社が前向きに交渉を進めている公開買付者が実施予定の本公開買付けに応募することで当社に協力したいとの意思を表明されたとのことです。公開買付者は、2021年4月上旬、本公開買付価格について濱村氏らに打診し、本公開買付価格については、本第三者割当増資における引受価格と同一で市場株価からの一定のディスカウントを行った価格とし、本応募契約に合意する旨の意思を確認したとのことです。次に、濱村氏との当該交渉を踏まえ、2021年4月上旬より、公開買付者は順次、当社を通じて、旧経営陣のうち第三者委員会におけるヒアリングにも協力的であり、当社の再建を後押しする姿勢を示していた川瀬氏及び大津氏に対し、本公開買付けに関する説明の機会を得て、その内容を説明し、川瀬氏及び大津氏から本応募契約に合意する旨の回答を得たとのことです。

他方、当社は、柿内氏が、当社役員を退任した後、当社従業員の複数と接触していることが確認されたため、柿内氏に本公開買付けを事前に共有した場合に、当社従業員に対してインサイダー情報が流出するおそれがあり、また、柿内氏が結果として当社が上場廃止となることも厭わず、当社株式を早期に処分するよう努めるという誓約書での合意に反する可能性があると考え、柿内氏に対しては本公開買付け開始後に、誓約書の履行として、応募の打診をすることにいたしました。また、西野氏については、柿内氏と前職において同期という関係にあり、西野氏に本公開買付けを打診した場合、柿内氏に本公開買付けの事実が伝わることを当社が懸念したため、西野氏に対しても本公開買付け開始後に、応募の打診をすることにいたしました。本取引成立後は、柿内氏とは何ら関連がなく柿内氏の影響を受けない公開買付者が当社の議決権過半数を得ることとなり、柿内氏の当社に対する影響力は低下することとなるため、柿内氏及び2020年9月退任時までの取締役であった西野氏については、2021年4月14日に、本公開買付けに応じるよう当社より打診を行う予定ですが、本公開買付けに応じるか否かは未定です。これと並行して、当社と公開買付者との間で、緊密に経営戦略・事業戦略についての協議を行い、以下の事業シナジー及びメリットが見込めることになるとの考えに至り、公開買付者は、2021年4月14日、本取引により、公開買付者が最終的に当社の議決権の過半数を取得して当社を公開買付者の連結子会社とすることで、当社グループ間におけるガバナンスの再構築及び強化、財務基盤の強化及び新規事業開発を実現できるものと判断したとのことです。

(i) 当社及び公開買付者の共同によるエンドユーザーに向けた認知及び価値提供の拡大

当社は、「個人が住宅不動産を納得し安心して取得（購入）、居住（運用）、住替（売却）できる環境をつくること」を理念に掲げ、住宅・不動産のプラットフォームを提供する会社として、全国の住宅・不動産・建設会社の支援を通じてその理念の実現を目指しております。したがって、当社が直接的に価値を提供する先は、主に地域の工務店をはじめとする事業会社ですが、主力の「R+house」事業等のブランディング活動を行うことで、会員企業の受注の後押しを図ることも必要であると考えております。公開買付者が保有するメディア運営のノウハウを活用することで、多額な広告宣伝費を要することなく、住まいを検討するユーザーとの接点を創出し、当社が展開する「R+house」事業等の住宅モデルシリーズに関するエンドユーザーの認知拡大が期待されます。また、公開買付者が保有するインターネットサービスのノウハウを活用することで、エンドユーザーに対して直接提供する新たなサービスも含めた事業展開が可能になることが期待されます。公開買付者グループにおいても、当社の企業会員ネットワークを活用することで、新たに全国エリアで戸建住宅という住まいの選択肢の提供が可能となること

で、より広範なユーザーニーズに応じていくことが実現できるものと考えているとのことです。

(ii) 住まいのワンストップサービスの提供によるユーザー満足度の向上

公開買付者は、ユーザーの様々なライフイベントにおいて、「メディア+サービス」のビジネスモデルを展開することで、ユーザーの検討段階における情報収集からサービスの利用段階まで、一気通貫にサポートできるサービスづくりを推進しているとのことです。当社及び公開買付者が、連携することで、全国で戸建住宅を検討したいユーザーに対して、メディアを通じた情報収集のサポートと併せて、当社が展開する「R+house」事業の住宅モデルシリーズを住まいの選択肢として提案していくことが可能となり、住宅の検討から購入までをスムーズに支援することが可能になるものと考えています。また、住宅購入後においては、快適なくらしを維持していくためのメンテナンスに加え、売却可能性も踏まえた資産価値の向上をサポートしていくことも、住宅購入者にとって重要な要素であり、この点においては、公開買付者グループが保有するインターネットサービスのノウハウを活用することで、ユーザーとの継続的な接点の創出や、オンライン査定サービス等の各種サービスを効果的に提供していくこと、あるいは「ユーザーファースト」視点のサービス開発力を活用した新しいサービスを当社と共同で開発・提供していくことを通じて、購入前から購入後も含めた住まいに関するワンストップサービスを提供していくことによるユーザー満足度の向上が期待されます。

(iii) 地域に根差したライフイベント事業の開発

公開買付者グループは、ライフイベントに関するテーマを中心に、社会変化に対応する多様なメディアの開発と、くらしを豊かにするサービスの提供に注力するとともに、これらの価値創出を実現するためのテクノロジー・デザイン機能を保有しているとのことです。ライフイベントに関するサービスにおいては、地域に根差したサービスの提供が不可欠であると認識しているとのことです。当社グループが全国各地で構築してきた会員企業とのネットワークを活用することで、公開買付者グループの不動産関連事業並びにその他の事業領域において、ユーザーの生活圏に応じた最適な情報とサービスを提供していくことが可能になるものと考えているとのことです。

(iv) 当社会員企業向けの業務支援ツールの開発と収益基盤の拡大

ユーザーにとって付加価値の高いサービスを提供していくためには、ユーザーのニーズを的確に捉え、それらを提供サービスに反映していくことが肝要であります。公開買付者グループでは、各事業領域において、事業会社に対して接客支援ツール等をはじめとするユーザーとのコミュニケーションツールを提供することで、事業会社とユーザー間の有益な関係構築をサポートしているとのことです。これらのツールを当社グループの会員企業に対して開発・展開していくことで、会員企業がより一層ユーザーに寄り添いながら付加価値の高いサービスを提供していくことや、ユーザーとのコミュニケーションにおける会員企業の業務負担を軽減していくことを可能にするるとともに、当社グループ及び公開買付者グループの収益基盤の拡大が期待されます。

(v) グループ経営体制による内部管理体制の強化と効率的な経営の実現

公開買付者グループは、2018年10月の設立以来、公開買付者グループ全体が安定したサービス提供を維持するとともに継続的に成長していくためには、内部統制の整備、強化に継続して取り組んでいくことが必須であると考え、グループ全体のガバナンス機能を統括する立場として、グループ組織が健全かつ有効、効率的に運営されるように、コンプライアンス体制の強化を含め、統制環境の整備、強化、見直しを継続して行っているとのことです。また、子会社に対して、経営管理業務、経理業務、法務業務、人事採用業務、情報システム業務、内部監査業務等の間接業務を提供することにより、効率的な執行の体制を構築しているとのことです。当社グループを公開買付者グループに迎え、当社グループも含めたグループ経営体制を実行することで、当社グループのガバナンス体制や効率的な経営管理体制の強化を早期に実現していく

ことが可能になるものと見込まれます。また、当社グループが強固なガバナンス体制と効率的な経営体制の下に、売上・収益を持続的に拡大していくことを通じて、企業価値の向上に資することが見込まれます。

### ③当社における意思決定に至る過程

前記「②公開買付者における意思決定に至る過程」に記載の経過により、当社は、公開買付者との間で、本資本業務提携の内容、本第三者割当増資の必要性及びその条件、並びに公開買付価格その他本公開買付けの諸条件について慎重に協議・検討を行ってまいりました。なお、当社はこのような協議・検討の過程で、後記「(6) 公正性を担保するための措置」に記載のとおり、当社リーガル・アドバイザーとして、森・濱田松本法律事務所から法的助言を得ました。

当社は、前記「②公開買付者における意思決定に至る過程」に記載のとおり、当社が公開買付者の子会社となることで、(i) 当社及び公開買付者の共同によるエンドユーザーに向けた認知及び価値提供の拡大、(ii) 住まいのワンストップサービスの提供によるユーザー満足度の向上、(iii) 地域に根差したライフイベント事業の開発、(iv) 当社会員企業向けの業務支援ツールの開発と収益基盤の拡大、(v) グループ経営体制による内部管理体制の強化と効率的な経営の実現といったメリットがあると考えております。

また、前記「②公開買付者における意思決定に至る過程」に記載のとおり、本公開買付けは当社の旧経営陣が保有する当社株式の売却を目的として行われるものであり、本公開買付けを行うことは、当社のガバナンスの強化にも寄与すると考えております。

したがって、当社は、公開買付者が当社の議決権の過半数を取得して当社を公開買付者の連結子会社とすることで、当社と公開買付者との間で安定的かつ強固な関係を構築し、旧経営陣の影響力を排除することが、当社の財務基盤の強化及びガバナンスの強化を可能にするとともに、当社の収益力の強化ひいては当社の企業価値向上に資するとの判断に至ったことから、本日開催の当社取締役会において、全ての取締役が本公開買付けを含む本取引に係る審議に参加し、参加した取締役の全員の一致により、本公開買付けに賛同する旨の意見を表明することを決議いたしました。

また、当社は、本公開買付価格については、本公開買付けが、応募予定株主から、応募予定株主が保有する当社株式を、本公開買付けの実施についての公表日の前営業日である 2021 年 4 月 13 日の当社株式の東京証券取引所マザーズ市場における終値より 10%ディスカウントした価格から 1 円未満を切り上げた価格 (138 円) で取得することを目的としたものであり、当社の一般株主の皆様の売却を予定しているものではないこと、また、本公開買付けには買付予定数に上限が設定され、本公開買付け後も引き続き当社株式の上場を維持していく方針であることから、当社株主の皆様が本公開買付けに応募するか否かについては、中立の立場を取り、当社株主の皆様のご判断に委ねるべきとの判断に至ったことから、本日開催の当社取締役会において全ての取締役が本公開買付けを含む本取引に係る審議に参加し、参加した取締役の全員の一致により、その旨を決議いたしました。

また、上記の取締役会には、当社の監査役 3 名全員が本公開買付けを含む本取引に係る審議に参加し、上記決議につき異議なく賛同する旨の意見を述べております。

### ④本公開買付け後の経営方針

当社及び公開買付者は、上記「②本公開買付けの実施を決定するに至った背景、目的及び意思決定の過程」に記載のとおり、2021 年 1 月中旬の公開買付者から当社に対する資本業務提携の可能性についての打診以降、2021 年 4 月上旬までの間、本公開買付け後の経営方針について、両社間で協議を重ねて参りました。公開買付者は、当社取締役会に対して、上記「②本公開買付けの実施を決定するに至った背景、目的及び意思決定の過程」の「(i) 当社及び公開買付者の共同によるエンドユーザーに向けた認知及び価値提供の拡大」、「(ii) 住まいのワンストップサービスの提供によるユーザー満足度の向上」、「(iii) 地域に根差したライフイベント事業の開発」、「(iv) 当社会員企業向けの業務支援ツールの開発と収益基盤の拡大」及び「(v) グループ経営体制による内部管理体制の強化と効率的な経営の実現」の内容について説明を行い、その後、当社においても公開買付者と共通の認識を持つに至りました。

公開買付者による当社の連結子会社化後の当社グループ及び公開買付者グループの具体的な事業戦略については、当社及び公開買付者が今後協議の上決定していくこととなりますが、公開買付者は、より多くのユーザーニーズに応える価値提供を行うためには、公開買付者グループが展開する不動産関連事業において、サービス提供可能エリアを全国へ拡大すること、並びにサービスで取り扱う物件の種類を中古住宅マンションから戸建住宅を含む多種多様な物件へ広げていくことが必要であると考えているとのことです。また、公開買付者は、住まいの検討段階における情報収集から住まいの購入段階まで、より付加価値の高いサービスを一貫通貫に提供していくには、新しいサービスの開発も推進していくことが必要であると考えているとのことです。公開買付者は、当社との資本業務提携の実施により、当社の注文住宅販売に係るノウハウや、全国会員企業とのネットワークを活用することで、公開買付者グループがユーザーに提供可能なサービスの多様化が期待できるとともに、当社をグループに迎えることで、公開買付者の事業基盤の更なる強化が可能になると考えているとのことです。

なお、公開買付者による当社の連結子会社化後の経営体制につきましては、本日現在において未定であるとのことです。本取引後の当社の経営方針としては、本資本業務提携契約において、公開買付者は、本取引完了日以降3年間、当社の事前の書面による承諾なく（但し、当社がかかる承諾を不合理に遅延、留保又は拒絶しない。）、(i)公開買付者及び公開買付者グループによる当社の株式の所有割合の合計が、本取引完了時点における当該所有割合から5%以上変動することとなる行為（当社の株式の取得（組織再編行為による承継を含む。）又は売却その他の処分を含むが、これらに限られない。）又は、(ii)当社グループを対象とする合併を行わず、かつ、公開買付者の関係会社をして行わせないこととされており、当社株式の東京証券取引所マザーズ市場への上場を維持するとともに、上述のとおり当社の経営体制は既に刷新されているという認識から当社の経営の自主性を維持・尊重し、当社と協議の上で、最適な体制の構築を検討していく予定とのことです。また、公開買付者は当社の特設注意市場銘柄指定解除に向けた取り組みに協力するため、当社からの要請を受けた事業計画、並びに、ガバナンス及び内部統制に関する人員2名をアドバイザーとして、本取引完了後に当社に派遣する予定とのことです。

### (3) 算定に関する事項

#### ①公開買付者による算定の概要

公開買付者は、本公開買付価格を決定するにあたり、公開買付者、当社及び応募予定株主から独立した第三者算定機関として東京フィナンシャル・アドバイザーズ株式会社（以下「東京FA」といいます。）に対して、当社株式の株式価値の算定を依頼したとのことです。なお、東京FAは、公開買付者、当社及び応募予定株主の関連当事者には該当せず、本公開買付けに関して、重要な利害関係を有していないとのことです。

東京FAは、複数の株式価値算定手法の中から当社株式の株式価値の算定にあたり採用すべき算定手法を検討の上、当社が東京証券取引所マザーズ市場に上場しており、市場株価が存在することから市場株価法及び将来の事業活動を評価に反映するためにDCF法の各手法を用いて当社株式の株式価値の算定を行い、公開買付者は東京FAから2021年4月14日付で当社株式の株式価値に関する株式価値算定書（以下「本株式価値算定書」といいます。）を取得したとのことです。なお、東京FAによれば、株式価値算定手法のうち過去事例で多く用いられている類似会社比較法については、上記「(2)②本公開買付けの実施を決定するに至った背景、目的及び意思決定の過程」に記載のとおり、当社が置かれた特殊な状況に鑑みて、当社株式の価値算定は馴染まないと判断したため採用していないとのことです。また、公開買付者は東京FAから、本公開買付価格の妥当性に関する意見（フェアネス・オピニオン）を取得していないとのことです。

東京FAによる当社株式の1株当たり株式価値の算定結果は以下のとおりとのことです。

市場株価法： 153円～159円  
DCF法： 133円～163円

市場株価法では、算定基準日を2021年4月13日として、東京証券取引所マザーズ市場における当社株式の算定基準日までの直近1ヶ月間（2021年3月15日から2021年4月13日まで）の終値の単純平均値

154円、直近3ヶ月間（2021年1月14日から2021年4月13日まで）の終値の単純平均値153円及び直近6ヶ月間（2020年10月14日から2021年4月13日まで）の終値の単純平均値159円を基に、当社株式1株当たりの株式価値の範囲を153円から159円までと算定しているとのことです。

DCF法では、当社から提出された事業計画（2021年4月期から2023年4月期の3年分）に基づき、営業利益（EBIT）から営業利益ベースでの法人税を控除した税引後営業利益（NOPLAT）に減価償却費の増減を加算したものをフリー・キャッシュ・フローとして定義しているとのことです。当該事業計画は大幅な増益を見込んでいる事業年度が含まれており、具体的には、当社が2020年6月15日に公表した「中期経営計画策定に関するお知らせ」に記載のとおり、2021年4月期から2023年4月期までを拡大期として、これまで提供してきた商品・サービスのさらなる強化を図り、2023年4月期において営業利益10億円超の達成を目指しております（当社が2020年10月26日に公表した2021年4月期第1四半期決算短信のとおり2021年4月期の営業利益は3.8億円を見込んでおります。）。当該事業計画の経営数値目標を参考に、直近までの業績の動向、公開買付者が2021年1月中旬から2021年3月下旬の間に当社に対して行ったデュー・デリジェンスの結果、想定されるシナジー、一般に公開された情報等の諸要素を考慮して公開買付者において調整を行った当社の将来の収益予想に基づき、当社が2021年4月期第3四半期以降において創出すると見込まれるフリー・キャッシュ・フローを、一定の割引率で現在価値に割り引くことにより、当社の企業価値や株式価値を算定し、当社株式の1株当たりの株式価値の範囲を、133円から163円までと算定したとのことです。

公開買付者は、東京FAから取得した本株式価値算定書の算定結果に加え、公開買付者において2021年1月中旬から2021年3月下旬の間に実施した当社に対するデュー・デリジェンスの結果、当社取締役会による本公開買付けへの賛同の可否、当社株式の市場株価の動向及び本公開買付けに対する応募の見通し等を総合的に勘案し、当社及び応募予定株主との協議・交渉の結果等も踏まえ、本第三者割当増資の払込金額により応募予定株主が応募することの合意を得られた価格として、最終的に2021年4月14日の取締役会において、本公開買付け価格を1株当たり138円とすることを決議したとのことです。

本公開買付け価格（138円）は、本公開買付けの実施についての公表日の前営業日である2021年4月13日の当社株式の東京証券取引所マザーズ市場における終値153円に対して9.80%、同日までの過去1ヶ月間の終値の単純平均値154円（小数点以下を四捨五入しております。以下、ディスカウント率の計算において同じです。）に対して10.39%、同日までの過去3ヶ月間の終値の単純平均値153円に対して9.80%、同日までの過去6ヶ月間の終値の単純平均値159円に対して13.21%のディスカウントをした価格とのことです。

## ②当社による算定の概要

当社は、本公開買付けが、応募予定株主から、応募予定株主が保有する当社株式を東京証券取引所マザーズ市場における本公開買付けの公表日の前営業日の終値から10%ディスカウントした価格から1円未満を切り上げた価格（138円）で取得することを目的としたものであり、当社の一般株主の皆様の売却を予定しているものではないことから、本公開買付けに当たり、第三者算定機関から算定書を取得していません。

## （4）上場廃止となる見込み及びその事由

当社株式は、本日現在、東京証券取引所マザーズ市場に上場されておりますが、本公開買付けは当社株式の上場廃止を企図するものではなく、公開買付者は、買付予定数の上限を12,608,200株（所有割合:54.01%。また、上記「3.（2）①本公開買付けの概要」に記載のとおり、本公開買付けが成立し、かつ、本第三者割当増資の払込みが完了した場合においても、本取引後において公開買付者が所有することとなる当社株式の合計数の増資後完全希薄化ベース株券等所有割合は最大で50.10%）と設定しているため、本公開買付け後も当社株式の東京証券取引所マザーズ市場における上場を維持する方針とのことです。

## （5）いわゆる二段階買収に関する事項

本公開買付けは、応募予定株主から、応募予定株主が保有する当社株式を取得することを目的として実施するものであり、現時点において、公開買付者は、本第三者割当増資を含む本取引後、当社株式を追

加で取得することは予定していないとのことです。

#### (6) 公正性を担保するための措置

##### ①外部の法律事務所からの助言

当社は、当社取締役会における意思決定の公正性及び適正性を担保するため、外部のリーガル・アドバイザーとして森・濱田松本法律事務所を選任し、本取引に関する諸手続を含む当社取締役会の意思決定の方法及び過程等について法的助言を受けております。

##### ②当社における利害関係を有しない取締役全員による決議及び監査役全員による異議のない旨の意見

当社は、本取引の実施を通じて、公開買付者が当社の議決権の過半数を取得して、当社を公開買付者の連結子会社とすることで、当社と公開買付者との間で安定的かつ強固な関係を構築することが、当社の財務基盤の強化及びガバナンスの強化を可能にするとともに、当社の収益力の強化ひいては当社の企業価値向上に資するとの判断に至ったことから、本日開催の当社取締役会において、全ての取締役が本公開買付けに係る審議に参加し、参加した取締役の全員の一致により、本公開買付けに賛同する旨の意見を表明することを決議いたしました。

また、当社は、本公開買付価格（138 円）については、本公開買付けが、応募予定株主から、応募予定株主が保有する当社株式を、市場株価より 10%ディスカウントした価格から 1 円未満を切り上げた価格（138 円）で取得することを目的としたものであり、当社の一般株主の皆様への売却を予定しているものではないこと、また、本公開買付けには買付予定数に上限が設定され、本公開買付け後も引き続き当社株式の上場を維持していく方針であることから、当社株主の皆様が本公開買付けに応募するか否かについては、中立の立場を取り、当社株主の皆様のご判断に委ねるべきとの判断に至ったことから、本日開催の当社取締役会において全ての取締役が本公開買付けに係る審議に参加し、参加した取締役の全員の一致により、その旨を決議いたしました。

また、上記の取締役会には、当社の監査役 3 名（うち社外監査役 3 名）全員が本公開買付けに係る審議に参加し、上記各決議につき異議なく賛同する旨の意見を述べております。

#### 4. 公開買付者と自社の株主との間における公開買付けへの応募に係る重要な合意に関する事項

公開買付者は、応募予定株主との間で、2021年4月14日付でそれぞれ公開買付応募契約を締結し、当社の共同創業者であり2020年9月30日まで当社の代表取締役社長であった濱村氏及び濱村氏が支配する資産管理会社である株式会社HAMAMURA HDが所有する当社株式の合計3,422,080株（所有割合：14.66%）の全て、当社の共同創業者であり2020年9月30日から同年12月15日まで当社の代表取締役社長（2020年9月30日以前は当社の取締役）であった川瀬氏が所有する当社株式1,241,650株（所有割合：5.32%）の全て、及び当社の共同創業者であり2020年12月23日まで当社の常勤監査役であった大津氏が所有する当社株式1,082,400株（所有割合：4.64%）の全てをそれぞれ本公開買付けに応募する（以下「本応募」といいます。）旨を合意しているとのことです。

本応募契約では、いずれの応募予定株主との契約においても、応募予定株主による応募の前提条件として、本公開買付けの開始日及び本応募を行う日において、(a) 公開買付者による表明及び保証（注1）が重要な点において真実かつ正確であること、(b) 公開買付者が本応募契約上の義務（但し、軽微なものを除く。）（注2）に違反していないこと、(c) 本公開買付けにおける売付けの申込みを禁止し又は制限する旨の法令等又は司法・行政機関等の判断等が存在せず、かつ、これらに関する手続が係属していないこと、(d) 当社において本公開買付けに賛同する旨の取締役会決議がなされ、賛同意見が公表され、かつ、かかる賛同意見が変更又は撤回されていないことが定められているとのことです。なお、応募予定株主は、その任意の裁量により、これらの前提条件のいずれも放棄することができることとなっているとのことです。

また、応募予定株主は、本公開買付けの決済の開始日以前を基準日とする当社の株主総会において、(a) 公開買付者の指示に従って、応募予定株主の保有する応募予定株式に係る議決権を行使する義務、及び (b) 株主提案を行わない義務を負うとともに、(c) 公開買付期間中、第三者との間で当社株式又は新株予約権を対象とする公開買付けの実施その他の本公開買付けと競合等のおそれのある行為に関する

る提案又は勧誘を行わず、第三者からかかる行為に関する提案又は勧誘を受けた場合には、速やかに買付者に対しその事実及び内容を通知すること、(d) 契約締結日から2年を経過する日までの間、一定の場合を除き、当社の従業員に対し、勧誘、退職の勧奨その他の働きかけを行わないこと、(e) 本公開買付けにおいて法令等上必要となる書面を作成し、かつ、手続きを実施することを合意しているとのことです。

なお、株式会社HAMAMURA HDは、2021年2月22日付で株式会社みずほ銀行との間で締結した、株式会社HAMAMURA HDを質権設定者とし、濱村氏を債務者とする有価証券担保設定契約に基づき、その保有する当社株式1,200,000株について設定した質権について、本応募を行う時点までに消滅させることが義務付けられているとのことです。

(注1) 応募予定株主等及び公開買付者は、公開買付期間中においては、(a) 相手方が公開買付けに係る契約において行った表明保証が重要な点において真実かつ正確でなかった場合、(b) 相手方が公開買付けに係る契約上の重大な義務に違反した場合、(c) 公開買付けに係る契約に記載される自身に係る前提条件が充足されないことが確定した場合、(d) 当社又は相手方について、破産手続等の開始がなされた場合、及び、(e) 当社又は相手方が支払停止等となった場合は、公開買付けに係る契約を解除することができるとのことです。

(注2) 公開買付者は、本応募契約において、本応募契約締結日、本公開買付けの開始日及び本公開買付けの決済日において、(a) 公開買付者が適法に設立され有効に存続していること、(b) 本応募契約の締結及び履行につき社内承認等の手続を履践していること、及び(c) 反社会的勢力との関係の不存在に関する事項を表明及び保証しているとのことです。

(注3) 公開買付者の本応募契約上の義務としては、(a) 損害等の補償義務、(b) 守秘義務、及び(c) 本応募契約上の地位又は権利義務の譲渡禁止が存在するとのことです。なお、応募予定株主も同一の義務を負っているとのことです。

5. 公開買付者又はその特別関係者による利益供与の内容  
該当事項はありません。

6. 会社の支配に関する基本方針に係る対応方針  
該当事項はありません。

7. 公開買付者に対する質問  
該当事項はありません。

8. 公開買付期間の延長請求  
該当事項はありません。

9. 今後の見通し

本公開買付け後の方針等については、前記「3. (2) 意見の根拠及び理由」及び「3. (4) 上場廃止となる見込み及びその事由」をご参照ください。今後、業績予想の修正及び公表すべき事象が生じた場合には速やかに公表いたします。

## II. 本資本業務提携契約について

当社は、公開買付者との間で、2021年4月14日付で本資本業務提携契約を締結しております。本資本業務提携契約に基づく合意の概要等は以下のとおりです。

### 1. 提携の理由

前記「I. 3. (2) 意見の根拠及び理由」をご参照ください。

### 2. 提携の内容等

当社は、公開買付者との間で、2021年4月14日付で本資本業務提携契約を締結しております。本資本業務提携契約の内容は以下のとおりです。

#### (i) 業務提携の内容

当社及び公開買付者が本資本業務提携契約に基づき実施する業務提携の内容は次のとおりとする。

①当社及び公開買付者の共同によるエンドユーザーに向けた認知及び価値提供の拡大

- ②住まいのワンストップサービスの提供によるユーザー満足度の向上
- ③地域に根差したライフイベント事業の開発
- ④当社の会員企業向けの業務支援ツールの開発と収益基盤の拡大
- ⑤グループ経営体制による内部管理体制の強化と効率的な経営の実現

(ii) 本公開買付けに係る取締役会決議に関する事項

当社は、本公開買付けに賛同する旨（但し、当社の株主が応募するか否かについては中立とする。）（以下「本賛同意見表明」といいます。）の取締役会決議を行う。但し、公開買付け実務において十分な経験のある弁護士又は法律専門家からの助言を受けた上で、本賛同意見表明を維持することが当社の取締役としての忠実義務違反又は善管注意義務違反を構成する可能性があるとして当社の取締役会が合理的に判断する場合に限り、当社は当該賛同決議を撤回又は変更することができる。

(iii) 本第三者割当増資に関する事項

当社は、2021年4月14日開催の当社取締役会において、大要下記の要領により、公開買付者を割当予定先として、本第三者割当増資を実施することにつき承認決議を行う。

募集株式の種類及び数	普通株式13,751,600株
払込金額の総額	金1,897,720,800円（当社株式1株につき金138円）
払込期間	2021年5月25日（火曜日）から同年6月30日（水曜日）まで
前提条件	<p>本第三者割当増資に係る有価証券届出書の効力の発生及び本資本業務提携契約に定める前提条件（※）が満たされることを条件として、当社は、公開買付者に対してその株式を割り当て、公開買付者はこれを引き受ける。</p> <p>※ 公開買付者による当該株式に係る払込みの前提条件：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(i) 当社株式の上場維持が困難となる事実の不発生等、</li> <li>(ii) 重要な点において本資本業務提携契約上の義務が履行されていること、</li> <li>(iii) 本公開買付けの成立、</li> <li>(iv) 当社の取締役会による本賛同意見表明の維持、</li> <li>(v) 当社において法令等で必要とされる全ての手続の履践、</li> <li>(vi) 本取引を制限又は禁止する法令等又は司法・行政機関等の判断の不存在</li> </ul>

(iv) 事前承諾事項

当社は、以下の各号に記載する事項（以下「本事前承諾事項」と総称する。）につき自ら又は当社の子会社である株式会社アール・プラス・マテリアル、株式会社HCマテリアル、株式会社ウェルハウジング及び株式会社LHアーキテクチャ（以下「当社重要子会社」と総称する。）における実施を決定又は承認する場合（但し、当社重要子会社における決定又は承認については、第(a)号、第(d)号、第(e)号、第(h)号及び第(i)号に限る。）は、事前にその詳細を公開買付者に対して書面により報告し、公開買付者の書面による事前の承諾を取得しなければならない。但し、公開買付者は、当該承諾を合理的な理由なく、遅滞、拒絶又は留保してはならない。

- (a) 株式、新株予約権の発行、処分又は割当て（但し、次項に規定する当社グループの役員又は従業員に対する株式報酬としての株式等の発行又は処分を除く。）
- (b) 自己株式の買受
- (c) 代表取締役の選定又は解職
- (d) 事業の全部又は重要な一部の中止又は変更
- (e) 合併、株式交換、株式移転、吸収分割、吸収分割による他の会社とその事業に関して有する権利義務の全部若しくは一部の承継、新設分割、事業の全部若しくは重要な一部の譲渡若しくは譲受け

- (f) 事業計画の決定又は重要な部分の変更
- (g) 剰余金の配当
- (h) 公開買付者との業務提携と矛盾又は競合する第三者との業務提携契約の締結又は変更
- (i) 解散、清算、又は破産手続開始、会社更生手続開始、民事再生手続開始、特別清算開始若しくはその他の倒産手続開始の申立て

また、当社は、公開買付者を、本第三者割当増資後開催される当社の株主総会に係る基準日（2021年4月30日又はそれ以外に指定される増資に係る株式の払込完了前に設定される基準日）後に株式を取得した株主として、本第三者割当増資により取得した株式につき、該当する当社の株主総会における議決権を付与する。

公開買付者は、本取引完了日以降3年間、当社の事前の書面による承諾なく（但し、当社はかかる承諾を不合理に遅延、留保又は拒絶しない。）、(i)公開買付者及び公開買付者グループによる当社の株式の所有割合の合計が、本取引完了時点における当該所有割合から5%以上変動することとなる行為（当社の株式の取得（組織再編行為による承継を含む。）又は売却その他の処分を含むが、これらに限られない。）又は、(ii)当社グループを対象とする合併を行わず、かつ、公開買付者の関係会社をして行わせない。

(v) 取締役及びアドバイザー派遣に関する合意事項

公開買付者が、当社の取締役を指名又は派遣する場合、当該候補者について事前に当社と誠実に協議の上、当該取締役を指名又は派遣する。

公開買付者は、当社からの合理的な要請に応じて、本取引の完了後、事業計画並びに、ガバナンス及び内部統制に関するアドバイザーとして公開買付者の役職員2名以内を当社に派遣する。

(vi) 本資本業務提携契約の終了に関する事項

公開買付者又は当社は、(i)相手方の表明保証が重要な点において真実又は正確でなかった場合、(ii)相手方が本資本業務提携契約上の義務につき違反があり、相手方に対して10営業日の猶予期間を付与してその是正を求めたものの、当該猶予期間内に相手方が違反を是正できなかった場合、(iii)相手方につき、破産手続開始、民事再生手続開始、会社更生手続開始、特別清算開始その他これらに類する倒産手続開始の申立てがなされた場合、本資本業務提携契約を解除することができ、また、本公開買付けが成立しなかった場合には、本資本業務提携契約は終了する。

3. 相手方に新たに取得される株式の数及び発行済株式数に対する割合

前記「I. 3. (2) ①本公開買付けの概要」をご参照ください。

4. 提携の相手先の概要

前記「I. 1. 公開買付者の概要」をご参照ください。

5. 提携の日程

取締役会決議	2021年4月14日（水）
資本業務提携契約締結日	2021年4月14日（水）
本公開買付けの開始	2021年4月15日（木）
本公開買付けの終了	2021年5月18日（火）
本公開買付けに係る決済の開始日	2021年5月25日（火）
本第三者割当増資の払込期間	2021年5月25日（火）から2021年6月30日（水）まで
事業開始日	2021年6月以降順次（予定）

## 6. 今後の見通し

### (1) 本資本業務提携後の方針

前記「I. 3. (2) ②本公開買付けの背景」及び同「I. 3. (4) 上場廃止となる見込み及びその事由」をご参照ください。

### (2) 今後の業務の見通し

本取引が当社の業績に与える影響については、現在精査中です。今後、公表すべき事項が生じた場合には速やかに公表いたします。

## III. 第三者割当増資による新株式発行について

当社は、本日開催の取締役会において、当社の全ての取締役が本第三者割当増資に係る審議に参加し、参加した取締役5名全員のうち、川口有一郎取締役を除く4名の取締役の一致により、以下のとおり、公開買付者を割当予定先として、第三者割当の方法による新株式の発行を行うことについて決議しましたので、お知らせいたします。なお、川口有一郎取締役は、旧経営陣の株式を取得する取引である本公開買付けの実施及びくふうカンパニーとの間の業務提携には賛成であるものの、その影響を確認した上で本第三者割当増資により当社がくふうカンパニーの連結子会社となることについての可否を検討すべきであるとのことで、本第三者割当増資の実施時期について異議があるとの理由により、本第三者割当増資に反対しております。

## 1. 募集の概要

(1) 払 込 期 間	2021年5月25日から2021年6月30日まで(注1)
(2) 募 集 株 式 数	募集株式数 13,751,600 株
(3) 発 行 価 額	普通株式1株につき金138円(以下「本払込金額」といいます。)
(4) 調 達 資 金 の 額	1,897,720,800 円
(5) 募 集 又 は 割 当 方 法 ( 割 当 予 定 先 )	第三者割当の方法によります。 (くふうカンパニー13,751,600株)
(6) そ の 他	上記各号については、金融商品取引法による届出の効力発生を条件とします。

(注1) 本日開催の当社取締役会決議においては、払込期間については、2021年5月25日から2021年6月30日までとしています。払込期間を2021年5月25日から2021年6月30日までとした理由は、本第三者割当増資における払込日を本公開買付けにおける決済の開始日(2021年5月25日を予定)と同日とすることを予定しているところ、本公開買付けの買付期間が延長され、払込日も延期される可能性があるためです。

(注2) 公開買付者からは、本公開買付けが成立した場合、本公開買付けの結果を確認した上で、本第三者割当増資に係る払込み後の割当予定先の当社に対する増資後完全希薄化ベース株券等所有割合を50.10%以上とするために必要な最小の数を上限として払込みが行われる予定です。そのため、割当予定先は、本公開買付けの結果に応じて、本第三者割当増資における募集株式の発行数として当社が決議した株式数のうち全部又は一部について、払込みを行わない可能性があります。

## 2. 募集の目的及び理由

### (1) 本第三者割当増資の目的

本第三者割当増資は、本公開買付けと併せて、本資本業務提携及び公開買付者による当社の議決権の過半数を取得することを目的としており、その詳細は前記「I. 3. (2) 意見の根拠及び理由」及び「II. 2. 提携の内容等」に記載のとおりです。なお、資金使途の詳細は、後記「3. 調達する資金の額、使途及び支出予定時期」及び「4. 資金使途の合理性に関する考え方」に記載のとおりです。

### (2) 特定引受人に対する募集株式の割当てに関する監査役の見解

本公開買付けが成立し、くふうカンパニーが本第三者割当増資により当社株式を取得する場合には、割当予定先であるくふうカンパニーは、会社法第206条の2第1項に規定する特定引受人に該当することとなります。

本日開催の当社取締役会において、当社の監査役3名全員は、本第三者割当増資を実施し、当社が資金調達をすることにより、当社の経営ガバナンス及び財務基盤を強化しつつ、本資本業務提携を通じてシナジーを創出することが、当社の収益拡大及び企業価値の向上に資することとなると判断することに不合理な点はないこと、本払込金額は、日本証券業協会の「第三者割当増資の取扱いに関する指針」(2010年4月1日付)に準拠したものであり、会社法第199条第3項に規定する「特に有利な金額」には該当しないこと、また、本第三者

割当増資は金融機関等からの借入れと異なり財務基盤の安定化につながり、株式の希薄化の規模が合理的であることを踏まえ、当社及び株主の皆様への影響という観点からみて相当であること、その他法令上必要な手続が行われていることを踏まえて、会社法第 206 条の 2 第 1 項に規定する特定引受人に該当するくふうカンパニーに対する募集株式の割当ては、適法かつ相当である旨の意見を表明しております。

### 3. 調達する資金の額、使途及び支出予定時期

#### (1) 調達する資金の額

① 払込金額の総額	1,897 百万円 (想定)
② 発行諸費用の概算額	27 百万円
③ 差引手取概算額	1,870 百万円

(注1) 前記「1. 募集の概要(注2)」に記載のとおり、公開買付者は、募集株式の発行数として当社が決議した株式数(普通株式 13,751,600 株)のうちの全部又は一部について、払込みを行わない可能性があるため、払込金額の総額、発行諸費用の概算額及び差引手取概算額は減少する可能性があります。上記金額は募集株式の全部について払込みがあったものとして計算した最大値です。なお、本公開買付けに応じて応募がなされた株券等の総数が買付予定数の上限(10,567,600 株)に達した場合、本払込みは行われなないこととなります。

(注2) 発行諸費用の概算額の内訳は、アドバイザー手数料、弁護士費用、登記関連費用及びその他費用です。

#### (2) 調達する資金の具体的な使途

本第三者割当増資により調達する資金(1,870 百万円)については、① 全社・グループ間におけるガバナンス体制の再構築及び強化、② 財務基盤の強化、③ DX強化のためのWeb事業の構築、新規ツールの開発に充当する予定です。

手取金の具体的な使途、金額及び支出予定時期については、以下のとおりです。

具体的な使途	金額 (百万円)	支出予定時期
① 全社・グループ間におけるガバナンス体制の再構築及び強化	500	2021年6月～2024年4月
② 財務基盤の強化	870	2021年7月～2024年4月
③ DX強化のためのWeb事業の構築、新規ツールの開発	500	2021年6月～2024年4月
合計	1,870	—

(注) 調達資金を実際に支出するまでは、当社取引銀行の口座にて管理する予定です。

#### ① 全社・グループ間におけるガバナンス体制の再構築及び強化 (500百万円)

当社グループでは、本不適切会計が判明し、その後、2020年9月28日に第三者委員会から調査報告書を受領し、2020年9月30日、2016年3月2日提出に係る有価証券届出書、2016年4月期から2019年4月期の有価証券報告書並びに、2017年4月期の第1四半期から2020年4月期の第3四半期までの四半期報告書に関する訂正報告書を提出しております。また、東京証券取引所より2020年11月27日に特設注意市場銘柄の指定及び東京証券取引所市場第一部からマザーズ市場への変更の指定を受けております。今後、上記「② 本公開買付けの実施を決定するに至った背景、目的及び意思決定の過程」の「(a) 公開買付者グループの概要」に記載のとおり、経営ガバナンス強化に向けた抜本的改革、業務処理統制の強化及び管理体制の増強、上場会社としての当社役職員の意識改革を含む改善計画を策定する予定です。

当社においては、かかる状況を踏まえ、経営ガバナンス強化に向けた抜本的改革として、2020年9月30日に経営体制を刷新し、さらに社外取締役の拡充やガバナンスの強化を図るために2020年12月23日開催の臨時株主総会によって新経営体制に移行いたしました。また、新経営体制の下、経営ガバナンス強化に向けた抜本的改革、業務処理統制の強化及び管理体制の増強、上場会社としての当社役職員の意識改革を含む再発防止の実行を主導するリスタート委員会を立ち上げました。特設注意銘柄の指定解除には内部管理体制等の改善が必要であるため、内部管理体制を早急に再構築し、1年以内での特設注意市場銘柄の指定解除を目標として、株主・取引先等の皆様からの信頼回復に向けて全社一丸となって取り組んでおります。

他方で、くふうカンパニーグループでは、統制環境の整備、強化、見直しなどグループコンプライアンス

ス体制の強化に向けた取組みを継続して行っているとのことであり、本取引により当社がくふうカンパニーの連結子会社となることで、同社が行っている取組みを踏まえて当社のガバナンス体制を再構築することは、当社における特設注意市場銘柄の指定解除にも寄与するものと考えております。

さらに、当社グループでは、グループ含めて内部管理体制を強化するために管理部門の大幅な強化を行う予定であり、そのための費用として、本第三者割当増資により調達した資金のうち、本社及びグループ各社に係る管理部門の採用費用及び人件費、社内管理システム構築・改良費用、及びガバナンス体制強化のために必要な外部アドバイザーを起用するための費用として、500百万円を充当する予定です。

## ② 財務基盤の強化 (870百万円)

当社グループでは、本不適切会計が判明し、その結果、第三者委員会による調査費用及び第三者委員会の調査を踏まえた追加監査に対する監査費用等が発生したことにより第17期第3四半期連結累計期間において、訂正関連費用引当金繰入額として671百万円を特別損失に計上いたしました。その調査費用及び監査費用等の支払いのため、短期借入金が増加し財務状況が悪化しており、2021年1月31日現在で、当座貸越残高が700百万円となっております。

本第三者割当増資により調達した資金を当該当座貸越の返済資金として充当するとともに手元運転資金を確保することで財務基盤の強化を図ってまいります。

## ③ DX強化のためのWeb事業の構築、新規ツールの開発 (500百万円)

当社グループでは、業界のノウハウを分析、標準化し、地域工務店、不動産会社及び建設会社に対して、例えば「R+house」等のブランドを使って営業・販売するために必要なシステム、ノウハウ、営業ツールなどをパッケージ化した商品を提供しております。

当社グループの収益は、サービス導入時に発生する「初期導入フィー」、毎月発生する「会費」及び導入サービスの成果報酬である「ロイヤルティ等」に大別されます。近年は、会員企業（顧客）の成長、ひいては当社グループの成長につながる「ロイヤルティ等」の収益拡大に注力しております。

主力の「R+house」事業においては、モデルハウスの自社展開、技術本部機能の内製化によるノウハウ開発力の強化、ブランド形成のための広告宣伝費の投下など、積極的な投資を行ってまいりました。もっとも、当社の主力ブランドである「R+house」等のエンドユーザーの認知度は未だ十分であるとはいえず、認知度の向上に向けて更にWeb事業の強化を行うことが、当社の企業価値の向上のために必要であると考えております。

そのため、「R+house」事業等のブランド強化に向け、従前の広告活動と並行して、本取引により当社がくふうカンパニーの連結子会社となることで、くふうカンパニーグループが保有するメディア運営及びインターネットサービスのノウハウを活用することで、住まいを検討するエンドユーザーとのチャンネルの創出を通じ、「R+house」事業等の高性能住宅に対するエンドユーザーの認知度の向上を図る予定です。

また、当社グループでは、会員企業の収益成果創出に向け、積極的にITの活用を進めており、営業活動プロセスの効率化（集客や歩留まりの改善）や社員教育の効率化、顧客管理や原価管理等の効率化を支援するシステムの提供を行っております。

当社は、これまで会員企業からの多様化・高度化するニーズに応えるため、システムの機能追加・バージョンアップに加え、様々な新しい商品・サービスの企画・開発に、継続的に注力してまいりました。

当社は、2020年2月以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、戸建住宅ニーズの増加や、テレワークスペースなど「新しい生活様式」に対応する建築プランの提案など、住宅・不動産業界に求められる商品・サービスなどのニーズが多様化していると考えております。

そのため、今後は、既存の商品・サービスの充実に加え、テレワークや新たな生活スタイルに対応した新商品の開発及び展開と併せて、住宅・不動産業務のDXについても、積極的に取り組み、会員企業への付加価値の提供、新規会員の獲得を図り、これらを通じて会員企業の収益性の向上を図ることにより、当社グループの収益基盤の多様化、充実に図ってまいります。またその一環として、本取引により当社がくふうカンパニーの連結子会社となることで、当社において、くふうカンパニーグループが保有する接客支援ツールなどのユーザーとのコミュニケーションツールを活用することが可能となり、会員企業向けにか

かる新たなツールを開発・リリースすることにより、会員企業に従来以上の高付加価値サービスを提供し、また、ユーザーとのコミュニケーション業務の効率化を行ってまいります。

上記の費用として、本第三者割当増資により調達した資金のうち、エンドユーザー向けの「R+house」事業等の Web 強化費用、DX 推進のための新規ツールの開発費用及びフィナンシャルプランニングやアフターメンテナンスのための既存システムの改良等に 500 百万円を充当する予定です。

なお、前記「1. 募集の概要（注2）」のとおり、本第三者割当増資に係る発行数が減少する場合があります。割当予定先は、本公開買付けの結果に応じて、本第三者割当増資における募集株式の発行数として当社が決議した株式数（普通株式 13,751,600 株）のうちの全部又は一部について、払込みを行わない可能性があります。その場合は、金融機関からの借入れや公募増資や株主割当による資本市場からの資金調達により、支払予定時期が到来したのから、資金を充当することを予定しておりますが、特に上記の表のうち優先度の高い①全社・グループ間におけるガバナンス体制の再構築及び強化 235 百万円（管理部門の採用費用及び人件費、及びガバナンス体制強化のために必要な外部アドバイザーを起用するための費用）、②財務基盤の強化 300 百万円（当座貸越の返済資金）、③DX 強化のための Web 事業の構築、新規ツールの開発 190 百万円（エンドユーザー向けの「R+house」等の Web 強化費用、及びフィナンシャルプランニングやアフターメンテナンスのための既存システムの改良）について、優先的に資金を充当していくことを予定しております。

#### 4. 資金使途の合理性に関する考え方

前記「3.（2）調達する資金の具体的な使途」に記載のとおり、本第三者割当増資が実施された場合には、その資金は、①全社・グループ間におけるガバナンス体制の再構築及び強化、②財務基盤の強化、③DX 強化のための Web 事業の構築、新規ツールの開発のための費用に充当されることとなります。前記「I. 3.（2）意見の根拠及び理由」に記載のとおり、本資本業務提携に基づく本取引の実施を通じて、くふうカンパニーが当社株式を増資後完全希薄化ベース株券等所有割合で 50.10%に至るまで取得し、当社を連結子会社化することで、くふうカンパニーと当社との間で安定的かつ強固な関係を構築することが、当社の財務基盤の強化及びガバナンスの強化を可能にするとともに、当社の収益力の強化ひいては当社の企業価値向上に資するものであると判断しております。したがって、前記「3.（2）調達する資金の具体的な使途」に記載した資金使途には、合理性があると判断しております。

#### 5. 発行条件の合理性

##### （1）払込金額の算定根拠及びその具体的内容

本払込金額につきましては、くふうカンパニーと協議の上、本公開買付価格と同じ価格である金 138 円といたしました。本公開買付けの公表日の前営業日である 2021 年 4 月 13 日の当社株式の東京証券取引所マザーズ市場における終値 153 円に対して 9.80%（小数点以下第三位を四捨五入しております。本段落において以下同じです。）、同日までの過去 1 ヶ月間の終値単純平均値 154 円（小数点以下を四捨五入しております。本段落において以下同じです。）に対して 10.39%、同日までの過去 3 ヶ月間の終値単純平均値 153 円に対して 9.80%、同日までの過去 6 ヶ月間の終値単純平均値 159 円に対して 13.21%のディスカウントをそれぞれ加えた価格となります。

日本証券業協会の「第三者割当増資の取扱いに関する指針」（2010 年 4 月 1 日付）では、第三者割当による株式の発行を行う場合、その払込金額は、原則として取締役会決議日の直前営業日の株価に 0.9 を乗じた額以上の価額であることが要請されているところ、当社は、本払込金額は当該指針に準拠するものであるため、会社法第 199 条第 3 項に規定されている「特に有利な金額」に該当しないものと判断しております。

また、本日開催の当社取締役会での本第三者割当増資に係る審議に参加した監査役 3 名（うち社外監査役 3 名）全員が、本払込金額は、日本証券業協会の「第三者割当増資の取扱いに関する指針」（2010 年 4 月 1 日付）に準拠したものであり、当社の直近の財政状態及び経営成績、当社が特設注意市場銘柄に指定されていること等を勘案し、適法かつ妥当であり、「特に有利な発行価額」には該当しない旨の意見を表明しております。

##### （2）発行数量及び株式の希薄化の規模が合理的であると判断した根拠

割当予定先は、本公開買付けが完了した後、本公開買付けによる取得分及び本第三者割当増資による取得分を合わせて、割当予定先の当社に対する増資後完全希薄化ベース株券等所有割合を 50.10%以上とするために必要な最小の数について払込みを行う予定です。本第三者割当増資による発行株式数は、最大で 13,751,600 株であり、2021 年 1 月 31 日現在の当社の発行済株式総数 (23,343,900 株) に対する割合は 58.91% (小数点以下第三位を切り捨てています。以下、本項において同じ。) であり、同日現在の総議決権数 (233,394 個) に対する割合は 58.92%となります。よって、既存株主の株式について、最大で、58.91%の発行済株式総数に対する所有割合の希薄化、58.92%の議決権所有割合の希薄化が生じることになります。なお、前記「I. 3. (2) 意見の根拠及び理由」に記載のとおり、本公開買付けが買付予定数の上限で成立した場合、公開買付者は、本第三者割当増資の払込みを行わないため、本第三者割当増資による発行済株式総数に対する所有割合及び議決権所有割合の希薄化は生じません。

しかしながら、当社は、後記「(1) 割当予定先の概要」に記載のとおり、本第三者割当増資による資金調達は、当社グループの企業価値向上に資する各施策の実現を可能とするものであり、また、本第三者割当増資を通じて当社がくふうカンパニーの連結子会社となることは、当社グループの収益力を強化し、中長期的な企業価値及び株主価値の向上に資すると見込まれるものであるとともに、本第三者割当増資の目的に照らして必要な限度で行われるものです。よって、当社は、本第三者割当増資は、それを通じた当社の企業価値及び株主価値の向上を図るために必要な限度で行われるものであり、また、本第三者割当増資を通じて当社がくふうカンパニーの連結子会社となることによって、中長期的には、上記所有割合及び議決権所有割合の希薄化を上回る当社の企業価値及び株主価値の向上につながるものと考えております。

本第三者割当増資は、希薄化を伴わない取引である本公開買付けを先行させることで既存の株主に配慮していることに加え、公募増資、株主割当又は新株予約権によるライツ・オファリングとは異なり、当社がくふうカンパニーの連結子会社となることによる当社の企業価値向上が見込まれることから、当社及び株主の皆様への影響という観点からみて相当であると判断しております。

以上より、本第三者割当増資に係る株式の発行数量及び希薄化の規模は合理的であると判断しております。

## 6. 割当予定先の選定理由等

### (1) 割当予定先の概要

前記「I. 1. 公開買付者の概要」をご参照ください。なお、くふうカンパニーは、東京証券取引所マザーズ市場に上場していることから、当社は、くふうカンパニーが東京証券取引所に提出したコーポレートガバナンス報告書 (最終更新日: 2020 年 12 月 23 日) に記載している「反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況」において「反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況は以下のとおりです。(ア) 反社会的勢力とは一切の関係を持たないこと、不当要求については拒絶することを基本方針とし、これを社内に周知し明文化する。また、取引先がこれらと関わる個人、企業、団体等であることが判明した場合には取引を解消する。(イ) 経営管理部門は、反社会的勢力対応統括部門として、情報の一元管理、蓄積等を行う。また、反社会的勢力による被害を未然に防止するための体制を構築するとともに、役員及び使用人が基本方針を遵守するよう教育・研修を行う。(ウ) 反社会的勢力による不当要求が発生した場合には、警察及び弁護士等の外部専門機関と連携し、有事の際の協力体制を構築する。」との記載内容を東京証券取引所のホームページにて確認したことにより、くふうカンパニー並びにその役員及び主要株主が反社会的勢力と一切の関係を有していないものと判断しております。

### (2) 割当予定先を選定した理由

前記「I. 3. (2) 意見の根拠及び理由」に記載のとおり、本取引成立後、くふうカンパニーが当社株式を増資後完全希薄化ベース株券等所有割合 50.10%に至るまで取得し、当社の議決権の過半数を取得することで、当社とくふうカンパニーとの間で安定的かつ強固な関係を構築し、旧経営陣の影響力を排除することが、当社の財務基盤の強化及びガバナンスの強化を可能にするとともに、当社の収益力の強化ひいては当社の企業価値向上に資するとの判断に至り、くふうカンパニーを割当予定先を選定いたしました。

### (3) 割当予定先の保有方針

本資本業務提携契約において、くふうカンパニーは、当社株式を 5%以上売却する場合には当社の事前の書面による承諾を得なければならない旨合意しているため、当社は、くふうカンパニーが、本第三者割当増資に

より取得する株式を長期保有する方針である意向を、確認しております。

なお、当社は、くふうカンパニーより、本第三者割当増資の払込みから2年以内に当社株式の全部又は一部を譲渡した場合には、その内容を当社に対し書面により報告すること、当社が当該報告内容を東京証券取引所に報告すること、並びに当該報告内容が公衆の縦覧に供されることに同意することにつき、確約書を取得する予定です。

#### (4) 割当予定先の払込みに要する財産の存在について確認した内容

当社は、本第三者割当増資の払込みに要する財産の存在については、穂田誉輝氏の割当予定先に対する2021年4月12日付融資証明書を確認しております。

かかる確認結果を踏まえ、当社は、本第三者割当増資の払込みに確実性があると判断しております。

### 7. 募集後の大株主及び持株比率

募集前 (2021年1月31日現在)		募集後	
濱村 聖一	9.41%	株式会社くふうカンパニー	52.56%
柿内 和徳	5.74%	柿内 和徳	3.91%
川瀬 太志	5.24%	株式会社安成工務店	3.22%
株式会社HAMAMURA HD	5.14%	東新住建株式会社	1.94%
株式会社安成工務店	5.12%	ハイアス・アンド・カンパニー株式会社 従業員持株会	1.88%
大津 和行	4.61%	JPMBL RE NOMURA INTERNATIONAL PLC 1 COLL EQUITY (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	1.87%
東新住建株式会社	3.08%	中山 史章	1.65%
ハイアス・アンド・カンパニー株式会社 従業員持株会	2.99%	株式会社日本カストディ銀行 (信託E口)	1.20%
JPMBL RE NOMURA INTERNATIONAL PLC 1 COLL EQUITY	2.97%	福島 宏人	1.16%
中山 史章	2.58%	日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1.01%

(注1) くふうカンパニーによる本公開買付けの結果により、同社の本第三者割当増資に係る払込株式数が変動する可能性があります。募集後の持株比率は、本新株予約権が行使されなかったことを前提とし、全ての応募予定株式につき応募があり、2020年9月30日現在の持株比率に対して他の大株主が本公開買付けに応募せず、募集株式の全株式について割当予定先による払込みがあったものとして計算しております。

(注2) 持株比率は小数点以下第三位を切り捨てております。

### 8. 今後の見通し

本第三者割当増資による2021年4月期の当社連結業績に与える影響は軽微であります。

### 9. 企業行動規範上の手続きに関する事項

当社が本第三者割当増資により発行する新株式数は最大で13,751,600株であり、同株式に係る議決権の数は137,516個であるため、2021年1月31日現在の当社の発行済株式総数(23,343,900株)に対する比率は58.91%、2021年1月31日現在の議決権総数(233,394個)に対する比率は58.92%となり、当社普通株式は25%以上の希薄化が生じる可能性があること、及び、本第三者割当増資に係る払込み後のくふうカンパニーの当社に対する増資後完全希薄化ベース株券等所有割合は50.10%となり、くふうカンパニーは当社の親会社である支配株主となる予定であることから、本第三者割当増資については、東京証券取引所の定める上場規程第432条に定める独立第三者からの意見入手又は株主の意思確認手続きを要します。当社は、本第三者割当増資について、株主総会決議による株主の意思確認の手続を経る場合には、臨時株主総会決議を経るまでに日程を要すること、また、臨時株主総会の開催に伴う費用についても、相応のコストを伴うことから、総合的に勘案した結

果、経営者から一定程度独立した者として当社の独立役員として東京証券取引所に届け出ている社外監査役である青木英憲氏（弁護士）及び辻高史氏（公認会計士）の2名から、本第三者割当増資の必要性及び相当性に関する意見を求め、2021年4月14日付で大要以下を内容とする意見書を取得しております。

（意見の概要）

（1）意見

本第三者割当増資には、必要性及び相当性が認められるものとする。

（2）意見の理由

①本第三者割当増資の必要性

（i）本資本業務提携の必要性

当社グループにおいては、昨年から続く新型コロナウイルス感染症等の影響により、住宅不動産業界の先行きが不透明になっていることも踏まえ、安定的な収益構造の構築と持続的な成長のため、当社グループに必要なノウハウを豊富に有する企業とのアライアンスによる事業シナジーの獲得の可能性について模索していたとのことである。

また、当社グループにおいては、本不適切会計が行われていたことが判明し、東京証券取引所により、当社の株式は特設注意市場銘柄に指定されている。当社は上記の状況を解消するべく新経営体制へと移行し、株主である旧経営陣の影響力の解消を図るため旧経営陣との間でその所有株式の早期処分に取り組む旨の合意を行った。しかし、その後、当社の前代表取締役が所定の手続を経ることなく独断で代表取締役の職務権限を超える金額の支払約定書に署名した可能性が判明したことも受け、当社は、これら一連の事象の再発防止策として、経営ガバナンスの強化に向けた抜本的改革を実現するためには、特に、旧経営陣の影響力の排除が極めて重要な課題であると認識するに至ったとのことである。

このような状況下において、当社の経営課題の解決に資する事業パートナー及び旧経営陣が所有する当社の株式の引受先を検討していたところ、当社は、公開買付者から旧経営陣が所有する当社株式の引き受け及び資本業務提携の可能性について模索したいとの提案を受けるに至り、数度の協議を経て、当社と公開買付者は、当社の連結子会社化及び本資本業務提携の実行により、前記「I. 3.（2）意見の根拠及び理由」に記載の事業シナジー及びメリットが見込むことができ、また、当社グループ間におけるガバナンスの再構築及び強化並びに財務基盤の強化及び新規事業開発を実現できるとの判断に至ったとのことである。

なお、当社と公開買付者は、連結子会社化に向けた具体的な方法として、本第三者割当増資により当社が資金調達を行うことで、当社のガバナンス体制及び財務基盤を強化しつつ、連結子会社化後に取り組むことを予定しているDX強化のためのWeb事業の構築、新規ツールの開発に係る資金需要を満たすことが可能となり得、かかる本第三者割当増資は企業価値の向上につながることから、本公開買付けと同時に本第三者割当増資を実施することが、最適な方法であるとするに至ったとのことである。

当社からの上記の説明や開示資料を総合的に検討した結果、本資本業務提携には、その必要性を認めることができる。

（ii）本第三者割当増資により調達する資金の使途

当社にとって、経営ガバナンスの強化並びに安定的な収益構造の構築及び持続的な成長を達成し、さらに企業価値を増大させるためには、公開買付者との業務提携及び本第三者割当増資による資金調達が必要不可欠であり、業務提携に伴って、①全社・グループ間におけるガバナンス体制の再構築及び強化に500百万円、②財務基盤の強化に870百万円並びに③DX強化のためのWeb事業の構築、新規ツールの開発に500百万円と、それぞれの資金需要が生じるとのことである。

また、当職らは、当該資金使途の内訳や裏付けとなる資料についても確認及び検討を行い、これらに不合理な点が認められないことを確認した。

（iii）小括

上記を前提に検討すると、本資本業務提携の一環としての本第三者割当増資の具体的な資金使途及び金額規模並びにそれらに関する当社による説明に不合理な点は見当たらず、また、上記の本資本業務提携の必要性に照らしても、合理性のある内容となっていることから、これらを踏まえると、当該資金は当社の企業価値の向上に寄与するものであることが見込まれるため、資金使途との関係でも、本第三者割当増資の必要性が認められる。

②本第三者割当増資の相当性

(i) 発行価額は有利発行に該当しないこと

本第三者割当増資における株式の発行価額は、本第三者割当増資に係る取締役会決議日の直前営業日(2021年4月13日)の東京証券取引所マザーズ市場における当社株式の終値153円を基準とし、旧経営陣との価格交渉の結果、当社の株式が東京証券取引所から特設注意市場銘柄に指定されていること等を考慮して、当該終値から9.80%ディスカウントした金額であり、日本証券業協会の「第三者割当増資の取扱いに関する指針」(2010年4月1日付)に適合している。

したがって、当該発行価額は相当であり、有利発行には該当しないものと考えられる。

なお、裁判例(東京高判昭和48年7月27日)においても、「新株の発行価額は、その決定時(すなわち、特段の定めのない限り、取締役会において新株の発行事項を決定する決議のなされた日)における、発行会社の株式の市場価格、企業の資産状態及び収益力、株式市況の見通し等を総合した上、さらに株式申込時までの株価変動の危険及び新株式発行により生ずる株式の需給関係の状況等をも考慮して決定されるべきものであって、発行価額がこのようにして決定された時、その価額は発行会社の有する企業の客観的価値を反映した公正かつ適正なものといえることができる」とされており、公開買付け及び資本業務提携による株価影響を勘案していないことをもって、直ちに有利発行に該当するということとはできず、本第三者割当増資に係る取締役会決議日の直前営業日の貴社株式の終値を基準とすることは相当であると考えられる。

(ii) 他の資金調達手段との比較

本第三者割当増資は、公開買付者との資本業務提携の一環として行われるものであり、本第三者割当増資を実施し一定の額を速やかにかつ確実に調達することにより、直近の資金需要に対処し、経営ガバナンス及び財務基盤を強化することが可能になるとのことである。また、当社が公開買付者の連結子会社となった後に取り組みことを予定しているDX強化のためのWeb事業の構築、新規ツールの開発に係る資金需要を満たすことが可能となり、当社の収益拡大及び企業価値の向上に資すると考えることができるのとことである。そして、公開買付者は、今後も安定株主として当社株式を長期的に保有する意向を有していることを踏まえると、資金調達の方法として、銀行借入れや公募増資の方法によることなく、公開買付者を割当先とした第三者割当増資を第一の選択肢として考えることは合理的である。

以上、当社による第三者割当増資を選択した理由の説明には相当性が認められる。

(iii) 割当予定先の相当性

(ア) 資本業務提携先としての相当性

本資本業務提携により、当社は、公開買付者の連結子会社となることで、公開買付者グループが有するインターネットサービスのノウハウ等を活用した事業上のシナジーの創出、信用補完及び資金調達の安定化が可能となり、当社が喫緊の課題とする経営ガバナンスの強化にも資することから、当社の企業価値の向上に繋がると思料される。また、公開買付者は本公開買付け及び本第三者割当増資により取得する当社株式を原則として長期的に保有する方針とのことであり、当該方針は当社の公開買付者との本資本業務提携における上述の目的達成に資するものである。さらに、当社は、企業としての社会的信用を維持するためにも上場を維持する方針であるところ、本資本業務提携契約のドラフトにおいて、公開買付者は、当社の上場会社としての経営の独立性及び自主性を尊重して本資本業務提携を実施することが定められている。

以上の事情から、公開買付者が本資本業務提携の提携先として相当であると評価できる。

(イ) 反社会的勢力等との関わりがないこと

公開買付者は、東京証券取引所市場マザーズに上場しており、東京証券取引所に提出しているコーポレートガバナンス報告書の中で反社会的勢力とは一切の関係を持たないことを宣言している。また、公開買付者は、本資本業務提携契約のドラフトにおいて、公開買付者及びその役職員が反社会的勢力と一切の関係を有していないことを表明し、保証する旨が定められている。

以上より、当社は、公開買付者及びその役職員並びに主要株主が反社会的勢力とは一切関係がないと判断しているのとことであり、当社の上記判断については相当であると思料する。

(iv) 増資金額の相当性

本資本業務提携による資金需要は、1,870百万円であるところ、本第三者割当増資による最大調達金額は、当該金額と概ね同額である。そうすると、本第三者割当増資による調達金額は、必要性に応じた出資とみることができ、徒らに既存株主の株式の希薄化を生じさせるものではないと思料される。

よって、本第三者割当増資により希薄化率が25%以上となる可能性があるものの、必要性に応じた範囲での増資と認められる。

(v) 既存株主への影響

本第三者割当増資により当社既存株主の持株比率及び議決権比率に一定の希薄化が生じるものの、本第三者割当増資は、当社の資金調達を含む本資本業務提携の目的達成のために必要な限度で行われるものであること、本第三者割当増資により調達した資金を前述の用途に充当することにより、経営ガバナンスの強化並びに安定的な収益構造の構築及び持続的な成長の達成を図ることが可能となり、中長期的には、上記の希薄化を上回る企業価値及び株式価値の向上につながると考えられる。

よって、本第三者割当増資による希薄化については合理性が認められるものと思料する。

(vi) 小括

以上を考慮するに、本第三者割当増資は、その必要性を実現するために相当な範囲にとどまるものであると評価しうるから、本第三者割当増資には相当性が認められる。

10. 最近3年間の業績及びエクイティ・ファイナンスの状況

(1) 最近3年間の業績（連結）

	2018年4月期	2019年4月期	2020年4月期
連結売上高	4,660百万円	6,099百万円	7,913百万円
連結営業利益	365百万円	426百万円	184百万円
連結経常利益	363百万円	424百万円	174百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	200百万円	234百万円	17百万円
1株当たり連結当期純利益	8.98円	10.41円	0.75円
1株当たり配当金	1.33円	3.40円	3.80円
1株当たり連結純資産	45.91円	57.68円	54.34円

(注) 当社は、2018年3月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益を算定しております。2018年4月期の1株当たり配当金につきましては、株式分割の影響を考慮した金額を記載しております。

(2) 現時点における発行済株式数及び潜在株式数の状況（2021年1月31日現在）

	株式数	発行済株式数に対する比率
発行済株式数	23,343,900株	100%
現時点の転換価額（行使価額）における潜在株式数	1,823,200株	7.81%
下限値の転換価額（行使価額）における潜在株式数	-	-
上限値の転換価額（行使価額）における潜在株式数	-	-

(3) 最近の株価の状況

①最近3年間の状況

	2018年4月期	2019年4月期	2020年4月期
始値	637円	562円	306円
高値	722円	635円	398円

安 値	496 円	215 円	149 円
終 値	552 円	307 円	163 円

②最近6ヶ月間の状況

	2020年11月	2020年12月	2021年1月	2021年2月	2021年3月	2021年4月
始 値	160 円	197 円	144 円	144 円	150 円	154 円
高 値	215 円	212 円	156 円	164 円	172 円	157 円
安 値	154 円	132 円	139 円	144 円	148 円	151 円
終 値	201 円	143 円	145 円	152 円	154 円	153 円

(注) 2021年4月の株価は2021年4月13日現在で表示しております。

③発行決議日前営業日における株価

	2021年4月13日
始 値	152 円
高 値	153 円
安 値	151 円
終 値	153 円

(4) 最近3年間のエクイティ・ファイナンスの状況

第三者割当による第6回新株予約権、第7回新株予約権及び第8回新株予約権の発行

割当日	2018年10月5日
発行新株予約権数	15,538個 第6回新株予約権 9,195個 第7回新株予約権 4,733個 第8回新株予約権 1,610個
発行価額	第6回新株予約権1個当たり146円 (第6回新株予約権の発行価額の総額:1,342,470円) 第7回新株予約権1個当たり81円 (第7回新株予約権の発行価額の総額:383,373円) 第8回新株予約権1個当たり68円 (第8回新株予約権の発行価額の総額:109,480円) 本新株予約権の発行価額の総額:1,835,323円
発行時における調達予定資金の額 (差引手取概算額)	1,023,061,823円 (1,023,061,823円)
割当先	株式会社SBI証券
募集時における発行済株式数	22,761,000株
当該募集による潜在株式数	1,553,800株 第6回新株予約権 919,500株 第7回新株予約権 473,300株 第8回新株予約権 161,000株
現時点における行使状況	行使済株式数:259,800株 未行使の新株予約権についてはいずれも取得及び消却が完了しているため、残新株予約権数は0個となります。
現時点における 調達した資金の額	97,890千円
発行時における 当初の資金使途	①セミナールーム及び本社拡張に係る増床資金(120,000千円):2018年10月~2019年1月 ②子会社への投資資金(株式会社LHアーキテクチャへの投資を通じて行われる、「R+house」のブランディング推進としてのモ

	デルハウスの展開及び住宅総合展示場への出展並びに「R+house」の販売のための開発分譲地における土地取得・建築資金（450,000千円）：2018年10月～2020年10月 ③クラウドファンディング事業に係る不動産取得及びバリューアップ資金（230,000千円）：2018年10月～2020年10月 ④M&A 及び資本・業務提携に関わる投資資金（223,061千円）：2018年10月～2020年10月
現時点における 充当状況	①セミナールーム及び本社拡張に係る増床資金：97,890千円 ②子会社への投資資金（株式会社 LH アーキテクチャへの投資を通じて行われる、「R+house」のブランディング推進としてのモデルハウスの展開及び住宅総合展示場への出展並びに「R+house」の販売のための開発分譲地における土地取得・建築資金）：一千円 ③クラウドファンディング事業に係る不動産取得及びバリューアップ資金：一千円 ④M&A 及び資本・業務提携に関わる投資資金：一千円

#### 11. 発行要項

(1) 募集株式数	普通株式 13,751,600 株
(2) 払込金額	1 株 138 円
(3) 払込金額の総額	1,897,720,800 円
(4) 資本金組入額	1 株 69 円
(5) 資本金組入額の総額	948,860,400 円
(6) 募集又は割当方法	第三者割当の方法によります
(7) 割当先	くふうカンパニー13,751,600 株
(8) 申込期間	2021年5月24日から2021年6月29日まで
(9) 払込期間	2021年5月25日から2021年6月30日まで
(10) その他	上記各号については、金融商品取引法による届出の効力発生を条件とします。 くふうカンパニーからは、本公開買付けが成立した場合、本公開買付けの結果を確認した上で、本第三者割当増資に係る払込み後の割当予定先の当社に対する増資後完全希薄化ベース株券等所有割合を 50.10%以上とするために必要な最小の数を上限として払込みが行われる予定です。そのため、割当予定先は、本公開買付けの結果に応じて、本第三者割当増資における募集株式の発行数として当社が決議した株式数のうち全部又は一部について、払込みを行わない可能性があります。なお、当社の各新株予約権の概要は前記「I. 3 (2) ①本公開買付けの概要（注4）」に記載のとおりです。

#### 12. その他の事項

本取引によりくふうカンパニーは当社の親会社に該当する見込みですが、同社の異動後の議決権の数及び議決権所有割合は本公開買付け及び本第三者割当増資の結果により変動するため、当該異動については確定次第お知らせいたします。

以上

#### (参考) 本公開買付けの概要

公開買付者が本日公表した添付資料「ハイアス・アンド・カンパニー株式会社（証券コード 6192）との資本業務提携契約の締結並びにハイアス・アンド・カンパニー株式会社株式に対する公開買付けの開始及び第三者割当増資の引受けに関するお知らせ」をご参照ください。

当社におけるガバナンス上の問題点及びその後の一連の概要は以下のとおりとなります。

当社が2020年7月28日に公表した「当社における不適切な会計処理に係る特別調査委員会の設置に関するお知らせ」のとおり、同年6月17日、当社監査役会に外部からの情報提供があり、当社監査役が調査を行ったところ、2016年4月期に、本来費用として計上すべきであった上場支援に係るコンサルタント報酬について、不適切な会計処理が行われていた可能性があることが判明し、当社は、同年7月28日、客観的かつ深度ある調査を行うため、外部専門家も交えた特別調査委員会を設置することを決定いたしました。その後、当社が2020年8月31日に公表した「特別調査委員会の調査状況及び第三者委員会設置に関するお知らせ」のとおり、当社は、特別調査委員会を設置し過去の不適切な会計処理について調査しておりましたが、同日付で、当社独立役員も委員となっている特別調査委員会から、当社から独立した中立・公正な社外委員のみで構成される第三者委員会へ移行しております。また、当社が2020年9月29日に公表した「第三者委員会の中間調査報告書公表に関するお知らせ」のとおり、当社は、同日、新規上場前の2015年4月期から2020年4月期までの不適切な会計処理（以下「本不適切会計」といいます。）に関する第三者委員会の中間調査報告書を開示し、さらに、当社が2020年9月30日に公表した「第16期有価証券報告書の提出、並びに過年度の有価証券報告書等、決算短信等の訂正に関するお知らせ」及び同日付の「『内部統制報告書の訂正報告書』の提出に関するお知らせ」（以下、両プレスリリースを総称して「9月30日付過年度訂正プレスリリース」といいます。）のとおり、当社は、過年度の有価証券報告書及び四半期報告書並びに過年度の決算短信及び四半期決算短信（以下「過年度有価証券報告書等」といいます。）の訂正を行うとともに、内部統制報告書の訂正を行いました（注1）。また、同日付の「内部統制監査報告書及び監査報告書における意見不表明に関するお知らせ」のとおり、当社は、9月30日付過年度訂正プレスリリースにて公表したとおり、第16期内部統制報告書及び有価証券報告書、並びに過年度に提出しました内部統制報告書、有価証券報告書及び四半期報告書の訂正を受けて、有限責任あずさ監査法人より、2020年4月30日現在の財務報告に係る内部統制の評価結果を表明できない旨の内部統制監査報告書を受領いたしました。加えて、有限責任あずさ監査法人より、第11期、第12期、第13期、第14期及び第15期の訂正後の連結財務諸表及び財務諸表、並びに第16期の連結財務諸表及び財務諸表について、意見を表明しない旨の監査報告書を受領するとともに、第13期から第16期までの各四半期の訂正後の四半期連結財務諸表についても、結論を表明しない旨の四半期レビュー報告書報告書を受領いたしました。

（注1）当社が訂正した過年度有価証券報告書等及び内部統制報告書は以下のとおりです。

- ① 有価証券届出書
  - 2016年3月2日提出に係る有価証券届出書
- ② 有価証券報告書
  - 第12期（自2015年5月1日至2016年4月30日）
  - 第13期（自2016年5月1日至2017年4月30日）
  - 第14期（自2017年5月1日至2018年4月30日）
  - 第15期（自2018年5月1日至2019年4月30日）
- ③ 四半期報告書
  - 第13期第1四半期（自2016年5月1日至2016年7月31日）
  - 第13期第2四半期（自2016年8月1日至2016年10月31日）
  - 第13期第3四半期（自2016年11月1日至2017年1月31日）
  - 第14期第1四半期（自2017年5月1日至2017年7月31日）
  - 第14期第2四半期（自2017年8月1日至2017年10月31日）
  - 第14期第3四半期（自2017年11月1日至2018年1月31日）
  - 第15期第1四半期（自2018年5月1日至2018年7月31日）
  - 第15期第2四半期（自2018年8月1日至2018年10月31日）
  - 第15期第3四半期（自2018年11月1日至2019年1月31日）
  - 第16期第1四半期（自2019年5月1日至2019年7月31日）
  - 第16期第2四半期（自2019年8月1日至2019年10月31日）
  - 第16期第3四半期（自2019年11月1日至2020年1月31日）
- ④ 決算短信
  - 2016年4月期 決算短信日本基準（連結）
  - 2017年4月期 決算短信日本基準（連結）
  - 2018年4月期 決算短信日本基準（連結）

2019年4月期 決算短信日本基準（連結）

2020年4月期 決算短信日本基準（連結）

⑤ 四半期決算短信

2017年4月期第1四半期 決算短信日本基準（連結）

2017年4月期第2四半期 決算短信日本基準（連結）

2017年4月期第3四半期 決算短信日本基準（連結）

2018年4月期第1四半期 決算短信日本基準（連結）

2018年4月期第2四半期 決算短信日本基準（連結）

2018年4月期第3四半期 決算短信日本基準（連結）

2019年4月期第1四半期 決算短信日本基準（連結）

2019年4月期第2四半期 決算短信日本基準（連結）

2019年4月期第3四半期 決算短信日本基準（連結）

2020年4月期第1四半期 決算短信日本基準（連結）

2020年4月期第2四半期 決算短信日本基準（連結）

2020年4月期第3四半期 決算短信日本基準（連結）

⑥ 内部統制報告書

第12期（自 2015年5月1日 至 2016年4月30日）

第13期（自 2016年5月1日 至 2017年4月30日）

第14期（自 2017年5月1日 至 2018年4月30日）

第15期（自 2018年5月1日 至 2019年4月30日）

当社が2020年9月30日に公表した「当社株式の監理銘柄（審査中）の指定に関するお知らせ」のとおりに、当社は、2020年8月31日に第三者委員会の設置等について開示し、また、同年9月29日に開示した新規上場前からの不適切会計に関する第三者委員会の中間調査報告書を開示し、さらに、同年9月30日に監査報告書の意見不表明について開示し、これらの開示及び東京証券取引所によるこれまでの審査の結果を受け、同年9月30日、東京証券取引所から、当社が提出した新規上場申請及び上場市場の変更申請に係る宣誓書において宣誓した事項について重大な違反を行ったおそれがあると判断され、当社株式は監理銘柄（審査中）に指定されました。さらに、当社が同日付で公表した「代表取締役の異動及び新経営体制に関するお知らせ」（以下「9月30日付経営体制刷新プレスリリース」といいます。）のとおりに、当社は、2020年9月28日付「第三者委員会の調査報告書（中間）受領及び公表に関するお知らせ」に記載のとおりに、過去の不適切な会計処理の事実関係について、第三者委員会より調査報告書（中間）を受領し、再発防止策についての提言を含む第三者委員会からの最終的な報告書は、2020年10月末（予定）に提出されることを見込んでいたところ、当時の当社代表取締役であった濱村氏より、第三者委員会の調査報告書（中間）を踏まえて、自身の経営責任を明確化するために代表取締役を辞任したい旨の申し出があり、また、当時の取締役であった柿内和徳氏（以下「柿内氏」といいます。）及び当時の取締役であった西野敦雄氏（以下「西野氏」といいます。）より、第三者委員会の調査報告書（中間）を踏まえて、自身の経営責任を重く受け止め、辞任の申し出があり、加えて、当時の社外取締役であった荻原俊彦氏より辞任の申し出があったため、当社は、経営体制の刷新を行い（注2）、一日も早い信頼回復に向けて取り組むため、2020年9月30日開催の当社取締役会において、代表取締役の異動について決議し、新しい経営体制の下で、2020年10月末受領予定の第三者委員会の最終的な報告書を踏まえて、再発防止に全力で取り組む所存でありました（なお、同年9月11日に当社の役職員を委員とする自主再生委員会を立ち上げ、再発防止策の検討を進めておりました。）。

（注2）経営体制の刷新の概要（2020年9月30日付）は以下のとおりです。詳細は、9月30日付経営体制刷新プレスリリースをご参照ください。

役職	氏名		備考
代表取締役	川瀬 太志		取締役常務執行役員から代表取締役に就任
取締役	中山 史章		取締役執行役員から取締役として留任
取締役	福島 宏人		取締役執行役員から取締役として留任
社外取締役	赤井 厚雄	独立役員	留任
社外取締役	森田 正康	独立役員	留任

常勤監査役	大津 和行		留任
社外監査役	山本 泰功	独立役員	留任
社外監査役	坂田 真吾	独立役員	留任

その後、当社が2020年10月26日に公表した「第三者委員会の最終調査報告書公表に関するお知らせ」及び「四半期レビュー報告書の限定付結論に関するお知らせ」のとおり、第三者委員会より不適切会計に関する最終調査報告書及び監査法人アリアより2021年4月期第1四半期の四半期連結財務諸表について限定付結論の四半期レビュー報告書を2020年10月26日に受領いたしました。また、当社が同日付で公表した「第17期第1四半期報告書の提出完了に関するお知らせ」及び「当社株式の監理銘柄（確認中）指定解除に関するお知らせ」のとおり、当社株式は、2020年10月9日付「第17期第1四半期報告書の提出遅延及び当社株式の監理銘柄（確認中）指定の見込みに関するお知らせ」に記載のとおり、当社が金融商品取引法に定められた提出期限（2020年10月14日）までに四半期レビュー報告書を添付した第17期第1四半期報告書を提出できる見込みがない旨を開示したことにより、東京証券取引所より、2020年10月9日付で監理銘柄（確認中）に指定されておりましたが、同年10月26日、当社が第17期第1四半期報告書を関東財務局に提出したことを受け、東京証券取引所より2020年10月27日付で当社株式に対する監理銘柄（確認中）の指定を解除する旨の通知がありました（なお、当社株式は、2020年9月30日付で東京証券取引所より監理銘柄（審査中）に指定されており、東京証券取引所が上場廃止基準に該当するかどうかを認定した日まで、監理銘柄（審査中）の指定期間が継続されます。）。

そして、当社が2020年11月16日に公表した「代表取締役及び役員の異動並びに新経営体制に関するお知らせ」（以下「11月16日付経営体制刷新プレスリリース」といいます。）のとおり、当社では、2020年9月30日付「代表取締役の異動及び新経営体制に関するお知らせ」に記載のとおり、第三者委員会の中間調査報告書を踏まえて、同日付で現経営体制（公表当時）に移行しました。第三者委員会の最終調査報告書の指摘事項を踏まえて、2020年10月30日付「再発防止等に関するお知らせ」にて公表のとおり、社外取締役の拡充等により更なるガバナンスの強化を図るため、2020年12月23日開催の臨時株主総会において、新経営体制に移行することを決定いたしました（注3）。

（注3）11月16日付経営体制刷新プレスリリースのとおり、臨時株主総会の終結をもって、当時の代表取締役であった川瀬氏及び同取締役であった中山氏は経営責任を明確化するため取締役を辞任し、また、同常勤監査役であった大津氏、同社外監査役山本泰功氏及び同社外監査役坂田真吾も監査役を辞任しております。なお、当時の代表取締役であった川瀬氏及び同取締役であった中山氏は取締役を辞任後、執行役員に就任する予定でありました。

役職	氏名		備考
代表取締役	福島 宏人		新任（現取締役）
取締役	矢部 智仁		新任
社外取締役	赤井 厚雄	独立役員	留任
社外取締役	森田 正康	独立役員	留任
社外取締役	川口 有一郎		新任
常勤監査役	朝倉 祐治		新任
社外監査役	辻 高史	独立役員	新任
社外監査役	青木 英憲	独立役員	新任
補欠監査役	丸山 聡		新任

これらを経て、当社が2020年11月26日に公表した「監理銘柄（審査中）の指定解除、特設注意市場銘柄の指定、上場市場の変更（市場第一部からマザーズ市場への変更）及び上場契約違約金の徴求に関するお知らせ」（以下「11月26日付プレスリリース」といいます。）のとおり、当社は、2020年11月27日付で東京証券取引所から監理銘柄（審査中）の指定が解除されること、特設注意市場銘柄に指定されること、上場市場を変更すること（2020年12月27日付で市場第一部（注4）からマザーズ市場

への変更)及び上場契約違約金の徴求を受けることとなり、上述のとおり特設注意市場銘柄に指定されたことを踏まえ、改善計画を策定する予定です。なお、特設注意市場銘柄に指定されていることから、当社株式は上場廃止リスクがあり、今後の当社グループの対応等によっては、今後の当社グループの事業活動や業績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(注4)当社が2020年7月21日に公表した「東京証券取引所市場第一部への上場市場変更に関するお知らせ」によれば、当社株式は、同日付で東京証券取引所マザーズ市場から東京証券取引所市場第一部へ市場変更されております。

(注5)なお、11月26日付プレスリリースのとおり、当社は、東京証券取引所から以下の指摘を受けております。

上述の開示等を受け、以下の状況が明らかとなりました。

- ・ 当社が、当社株式の東京証券取引所マザーズ市場への新規上場申請及びその後の東京証券取引所本則市場への上場市場の変更申請において、東京証券取引所に提出する書類の記載に漏れがなく、かつ、全て真実である旨の宣誓書を提出していたにもかかわらず、申請書類に虚偽の財務諸表を記載し、審査過程での照会に繰り返し虚偽の書面回答を行い、さらに報告すべき事項が追加発生した際もその報告を怠っていたこと
- ・ 一方で、不適切会計による過年度決算の訂正規模は、通期売上高の最大訂正額でも17百万円の減額にとどまるなど、財務数値の虚偽の程度は限定的であり、新規上場及び市場変更に係る数値基準の未達もなかったと考えられること、また、訂正後の過年度の財務諸表に対する監査意見は意見不表明であるものの、第三者委員会の最終調査報告書の内容及び2021年4月期第1四半期の四半期連結財務諸表に対する四半期レビューが限定付結論であること等を踏まえると、訂正規模が大幅に拡大する可能性は相当程度低いと考えられること
- ・ 有限責任あずさ監査法人から誠実性に深刻な疑義ありと指摘され意見不表明の原因となった当社元代表取締役社長をはじめ、不適切会計に関与又は認識した当社取締役及び監査役の全員が、2020年12月末までに当社取締役及び監査役を辞任する見込みであること

以上を総合的に勘案すると、当社が提出した新規上場申請及び上場市場の変更申請に係る宣誓書において宣誓した事項について、重大な違反を行ったとして上場廃止が相当であるとまでは認められないことから、当社株式について、監理銘柄(審査中)の指定を解除することとする一方で、当社が、新規上場申請及び上場市場の変更申請に係る宣誓書において宣誓した事項について違反していた背景として、主に以下の点が認められました。

- ・ 当社では、当社元代表取締役社長を含むほとんどの取締役が、上場審査をすり抜ける目的で不適切会計について関与又は認識するなど、内部統制が無効化されていたこと
- ・ 当社元代表取締役社長を始めとする取締役の一部は、新規上場審査及び市場変更審査において虚偽の回答をしたのみならず、不適切会計の発覚後の段階においても、日本取引所自主規制法人に対する虚偽の説明や有限責任あずさ監査法人の監査手続の妨害といった隠蔽工作を行うなど、信頼性のある財務報告を行う意識や市場関係者に対する誠実性が著しく欠如していたこと
- ・ 当社取締役会は、当社元代表取締役社長等が参加する別の会議において実質的に決定された内容を追認する形で運営されるなど形骸化しており、取締役の業務執行に対する監督機能が十分に発揮されていなかったこと
- ・ 当社常勤監査役は、不適切会計の一部を認識していたにもかかわらずこれを是正する対応を行わないなど、監査役としての監視機能を果たしていなかったこと
- ・ 営業部門を牽制すべき財務経理部門が営業部門のサポート的な役割を担っていたほか自ら不適切会計に関与するなど社員のコンプライアンス意識も欠如しており、また、稟議の形骸化や契約書の軽視が蔓延していたなど、不適切会計の実行を可能とする土壌が生じていたこと

以上を総合的に勘案すると、当社が内部管理体制の重大な不備により新規上場申請及び上場市場の変更申請に係る宣誓書において宣誓した事項について違反を行ったものであり、当社の内部管理体制等については改善の必要性が高いと認められることから、当社株式を特設注意市場銘柄に指定することとします。

また、上記のとおり、上場市場の変更申請に係る宣誓書において宣誓した事項について違反があり、当該違反に起因して特設注意市場銘柄に指定することから、当社株式について、市場第一部からマザーズ市場へ上場市場の変更を行うこととします。

加えて、当社が、新規上場審査及び市場変更審査において、申請書類に虚偽の財務諸表を記載し、審査過程での照会に繰り返し虚偽の書面回答を行い、さらに報告すべき事項が追加発生した際もその報告を怠っていたことにより、宣誓書において宣誓した事項に違反した事実を踏まえると、東京証券取引所市場に対する株主及び投資者の信頼を毀損したと認められることから、当社に対して、上場契約違約金の支払いを求めることとします。

当社は、上記状況を解消すべく、2020年9月30日付で経営体制刷新プレスリリースに記載のとおり、2020年9月30日付で当時の当社代表取締役であった濱村氏の代表取締役の辞任を含む経営体制の刷新を実施し、その後、2020年10月30日付「再発防止等に関するお知らせ」（以下「10月30日付プレスリリース」といいます。（注6））に記載のとおり、さらに社外取締役の拡充やガバナンスの強化を図るために2020年12月23日開催の臨時株主総会によって新経営体制に移行いたしました。

（注6）当社は、2020年10月30日開催の当社取締役会において、大要、以下の再発防止策の方針について決議しております。なお、当社は、第三者委員会の最終調査報告書における再発防止策の提言並びに自主再生委員会より提言された内容を踏まえ、以下の方針に基づき、今後、具体的な再発防止策を策定し、実施するとのことでした。詳細は、当該公表文をご参照ください。

- ① 経営ガバナンス強化に向けた抜本的改革
  - イ. 経営陣の刷新
  - ロ. 取締役会の変革
  - ハ. 監査役会の変革
- 二. 意思決定フローの明確化
- ホ. 中長期的企業価値向上をベースとした中期経営計画
- ② 各種業務処理統制の強化及び管理体制の増強
  - イ. 業務フローの再構築・改善
  - ロ. 業務管理部門の新設
  - ハ. 財務経理部門の強化
- 二. 内部監査の強化
- ホ. コンプライアンス体制の強化
- ヘ. 内部通報制度の周知
- ③ 上場会社としての責任を念頭においた当社役職員の意識改革
- ④ 旧経営陣の経営責任及び法的責任の明確化

その後、当社が2020年12月15日に公表した「代表取締役の異動に関するお知らせ」のとおり、当時の代表取締役であった川瀬氏が、2020年10月1日付で、所定の手続きを経ることなく独断で代表取締役の職務権限を超える金額の支払約定書に署名した可能性が判明し、当該事案については代表取締役としての忠実義務に違反していると判断したことから、代表取締役の異動について決議しました。そして、当社が2020年12月16日に公表した「新経営体制に関するお知らせ」のとおり、当社の前代表取締役である川瀬氏が同月15日付で取締役を辞任したため、11月16日付当社経営体制刷新プレスリリースで公表した2020年12月23日開催の臨時株主総会以降の新経営体制予定の内容に一部変更が生じております。

また、当社が2020年12月22日に公表した「旧経営陣の持株比率の低下に向けた方針に関するお知らせ」のとおり、当社は、10月30日付当社プレスリリースにて、過去の不適切な会計処理に関する再発防止策の方針を公表し、当該再発防止策の一環として、後述の旧経営陣の経営責任及び法的責任を検討する一方、旧経営陣の株主としての当社への影響力も解消していくため、旧経営陣の持株比率を低下させることを試み、旧経営陣のうち濱村氏及び柿内氏との間でそれぞれ誓約書を締結し、同氏らが所有する当社株式（濱村氏との間では濱村氏らが所有する当社株式）を早期に処分するよう努めることに合意を取得しました。

各位

会社名	株式会社くふうカンパニー
代表者名	代表取締役 堀口 育代 代表取締役 新野 将司 (コード：4399、東証マザーズ)
問合せ先	取締役 菅間 淳 (TEL. 03-6264-2323)

**ハイアス・アンド・カンパニー株式会社との資本業務提携契約の締結、  
ハイアス・アンド・カンパニー株式会社株券（証券コード：6192）に対する公開買付けの開始  
及び第三者割当増資の引受けに関するお知らせ**

株式会社くふうカンパニー（以下「当社」又は「公開買付者」といいます。）は、2021年4月14日の取締役会において、ハイアス・アンド・カンパニー株式会社（株式会社東京証券取引所（以下「東京証券取引所」といいます。）マザーズ市場、証券コード：6192、以下「対象者」といいます。）の普通株式（以下「対象者株式」といいます。）を金融商品取引法（昭和23年法律第25号。その後の改正を含みます。以下「法」といいます。）に定める公開買付け（以下「本公開買付け」といいます。）により取得することを決議いたしましたので、お知らせいたします。また、公開買付者は、本公開買付けに関連して、対象者との間で、資本業務提携契約を締結すること、及び第三者割当増資を引受けすることを決議しましたので、併せて下記のとおりお知らせいたします。

## 記

## I 公開買付けについて

## 1. 買付け等の目的

## (1) 本公開買付けの概要

公開買付者は、2021年4月14日の取締役会において、本公開買付けに関連して、(i) 対象者との間で、2021年4月14日付で後述の本資本業務提携契約（注1）を締結すること、及び(ii) (a) 対象者の共同創業者であり2020年9月30日まで対象者の代表取締役社長であった濱村聖一氏（以下「濱村氏」といいます。）及び濱村氏が支配（議決権割合：100%）する資産管理会社である株式会社HAMAMURA HD（以下、濱村氏と合わせて「濱村氏ら」といいます。）、(b) 対象者の共同創業者であり2020年9月30日から同年12月15日まで対象者の代表取締役社長（2020年9月30日以前は対象者の取締役）であった川瀬太志氏（以下「川瀬氏」といいます。）、並びに(c) 対象者の共同創業者であり2020年12月23日まで対象者の常勤監査役であった大津和行氏（以下「大津氏」といいます。濱村氏ら、川瀬氏及び大津氏を総称して「応募予定株主」といいます。）との間で、応募予定株主が所有する東京証券取引所マザーズ市場に上場している対象者の普通株式の全てを本公開買付けにより取得すること、並びに、(iii) 本公開買付け及び後述の本第三者割当増資（後掲（注6））を組み合わせることにより、公開買付者が応募予定株主の所有する対象者株式を取得し、最終的に対象者の議決権の過半数を取得して対象者を公開買付者の連結子会社とすることを目的として、東京証券取引所マザーズ市場に上場している対象者株式を対象とした本公開買付けを実施するとともに、本公開買付けの成立等の一定の前提条件（注2）の充足を条件として、対象者が全社・グループ間におけるガバナンスの再構築及び強化、財務基盤の強化及びデジタルトランスフォーメーション（DX）（注3）強化のためのWeb事業の構築・新規ツールの開発のために実施する本第三者割当増資（以下、本公開買付け及び本第三者割当増資を総称して「本取引」といいます。）により発行される対象者株式を引き受けることを決議いたしました。なお、

公開買付者は、本日現在、対象者株式を所有しておりません。

(注1) 本資本業務提携契約の概要は、下記「(3) 本公開買付けに係る重要な合意に関する事項」の「① 本資本業務提携契約の概要」をご参照ください。

(注2) 前提条件は、下記「(3) 本公開買付けに係る重要な合意に関する事項」の「① 本資本業務提携契約の概要」の「(iii) 本第三者割当増資に関する事項」をご参照ください。

(注3) デジタルトランスフォーメーション (DX) とは、企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立することをいいます。

また、公開買付者は、2021年4月14日、本公開買付けに関連して、応募予定株主である濱村氏ら、川瀬氏及び大津氏との間で、それぞれ公開買付応募契約（以下「本応募契約」といいます。）を締結しております。応募予定株主は、本応募契約に基づき、(a) 濱村氏が所有する対象者株式 2,222,080 株（所有割合（注4）：9.52%）及び同氏が支配する資産管理会社である株式会社 HAMAMURA HD が所有する対象者株式 1,200,000 株（所有割合：5.14%）の全て、(b) 川瀬氏が所有する対象者株式 1,241,650 株（所有割合：5.32%）の全て、並びに、(c) 大津氏が所有する対象者株式 1,082,400 株（所有割合：4.64%）の全て（以下、濱村氏ら、川瀬氏及び大津氏が所有する対象者株式の合計 5,746,130 株（所有割合：24.62%）を「応募予定株式」といいます。）を、それぞれ本公開買付けに応募することに合意しております。本応募契約の概要については、下記「(3) 本公開買付けに係る重要な合意に関する事項」の「② 本応募契約の概要」をご参照ください。

(注4) 「所有割合」とは、対象者が2021年3月15日に提出した第17期第3四半期報告書（以下「対象者四半期報告書」といいます。）に記載された2021年1月31日現在の発行済株式総数（23,343,900株）から、対象者四半期報告書に記載された2021年1月31日現在の対象者が所有する自己株式数（172株）を控除した株式数（23,343,728株）に対する割合（小数点以下第三位を四捨五入。以下、比率の計算において同じです。）をいい、本第三者割当増資の払込みに伴う希薄化前の割合をいいます。

公開買付者は、本取引により公開買付者が最終的に対象者を連結子会社化すること（増資後完全希薄化ベース株券等所有割合（注5）にして50.10%）、並びに、本公開買付けは対象者株式の上場廃止を企図するものではなく、公開買付者及び対象者は本公開買付け成立後も対象者株式の上場を維持する方針であること、また、本公開買付けにおいては応募予定株主が所有する対象者株式の全てを取得することを目的とし、応募予定株主が所有する対象者株式を、本公開買付けの実施についての公表日の前営業日である2021年4月13日の対象者株式の東京証券取引所マザーズ市場における終値153円より10%ディスカウントした価格から1円未満を切上げた価格（138円）で取得することを目的としたものであり、対象者の一般株主の皆様を売却を予定しているものではないものの、本公開買付けによる売却を希望する応募予定株主以外の対象者株主の皆様にも売却の機会を提供する観点から、本公開買付けにおいては、公開買付者の本公開買付けにおける取得分及び本第三者割当増資による取得分に関して、仮に本公開買付けに対象者が所有する自己株式を除く発行済株式総数（23,343,728株）の全ての応募があった場合においても増資後完全希薄化ベース株券等所有割合が50.10%となるよう、買付予定数の上限を12,608,200株（所有割合：54.01%）としており、本公開買付けに応じて売付け等がなされた株券等（以下「応募株券等」といいます。）の総数が買付予定数の上限（12,608,200株）を超える場合は、その超える部分の全部又は一部の買付け等を行わないものとし、発行者以外の者による株券等の公開買付けの開示に関する内閣府令（平成2年大蔵省令第38号。その後の改正を含みます。以下「府令」といいます。）第32条に規定するあん分比例の方式により、株券等の買付け等に係る受渡しその他の決済を行います。この場合、応募予定株主は本公開買付けの後も、対象者株式を一部所有することになります。

が、応募予定株主によるその後の対象者株式の保有方針について、公開買付者と応募予定株主との間に特段の取決めはなく、応募予定株主の保有方針についても伺っておりません。なお、本公開買付けが買付予定数の上限で成立した場合、公開買付者は、本第三者割当増資の払込みは行わず、対象者株式は新たに発行されないこととなりますので、本公開買付け成立後に公開買付者が所有することとなる対象者株式数（12,608,200株）に係る議決権数は126,082個となり、増資後完全希薄化ベース株券等所有割合は50.10%となります。他方、本公開買付けにおいては、応募予定株主からの応募を念頭に、買付予定数の下限を当該応募予定株主が所有する応募予定株式と同数である5,746,130株（所有割合：24.62%）としており、応募株券等の総数が買付予定数の下限（5,746,130株）に満たない場合には、応募株券等の全部の買付け等を行いません。なお、公開買付者は、本公開買付けの実施にあたり、応募予定株主との間で2021年4月14日付でそれぞれ本応募契約を締結しており、本応募契約に基づき、応募予定株主が所有する応募予定株式（5,746,130株）について本公開買付けに応募する旨の合意を得ていることから、応募予定株主が本応募契約に従い応募予定株式（5,746,130株）を本公開買付けに応募した場合、応募株券等の総数が買付予定数の下限（5,746,130株）以上となることから、本公開買付けは成立することとなります。なお、本公開買付けが買付予定数の下限で成立した場合、公開買付者は、後述の本第三者割当増資による最大発行株式数（13,751,600株）について払込みを行う予定ですので、本公開買付け成立後に公開買付者が所有することとなる対象者株式数（19,497,730株）に係る議決権数は194,977個となり、増資後完全希薄化ベース株券等所有割合は50.10%となります。

（注5）「増資後完全希薄化ベース株券等所有割合」とは、本公開買付け及び本第三者割当増資の結果新たに発行されることとなる対象者株式に係る議決権数を踏まえた株券等所有割合であって、具体的には、対象者四半期報告書に記載された2021年1月31日現在の発行済株式総数（23,343,900株）に、本日現在の対象者が発行する第4回新株予約権、第5回新株予約権、第9回新株予約権及び第10回新株予約権の各新株予約権（以下、これらの新株予約権を総称して「本新株予約権」といいます。詳細は下記をご参照ください。）の合計43,329個の目的となる対象者株式数の合計数（1,822,200株）を加算し、本第三者割当増資により発行される対象者株式の数（後述のとおり、最大で13,751,600株（最大発行株式数））を加算した株式数（最大で38,917,700株）に、対象者四半期報告書に記載された2021年1月31日現在の対象者が所有する自己株式数（172株）を控除した株式数（38,917,528株）に係る議決権数（最大で389,175個）に対する割合をいいます。なお、本公開買付けが買付予定数の上限で成立した場合、本取引が本資本業務提携を目的とするものであるため公開買付者は本第三者割当増資の払込みを行わないことから、増資後完全希薄化ベース株券等所有割合の分母は、対象者四半期報告書に記載された2021年1月31日現在の発行済株式総数（23,343,900株）に、本日現在の対象者が発行する本新株予約権の合計43,329個の目的となる対象者株式数の合計数（1,822,200株）を加算した株式数（25,166,100株）に、対象者四半期報告書に記載された2021年1月31日現在の対象者が所有する自己株式数（172株）を控除した株式数（25,165,928株）に係る議決権数（251,659個）となります。また、対象者へのヒアリングによれば、各新株予約権の詳細は以下のとおりとのことです。

回号	2020年4月30日現在の残存個数	2020年4月30日現在の残存個数の目的となる株式数	本日現在の残存個数	本日現在の残存個数の目的となる株式数
第4回新株予約権	461個	829,800株	220個	396,000株
第5回新株予約権	37,300個	335,700株	31,700個	285,300株

第9回新株予約権	1,910 個	191,000 株	1,740 個	174,000 株
第10回新株予約権	10,400 個	1,040,000 株	9,669 個	966,900 株

(注) 2020年4月30日現在の各新株予約権の残存個数及びその目的となる株式数は、対象者が2020年9月30日に提出した第16期有価証券報告書（以下「対象者有価証券報告書」といいます。）に記載された数値となります。また、対象者へのヒアリングによれば、本日現在の各新株予約権の残存個数及びその目的となる株式数は、第4回新株予約権、第9回新株予約権及び第10回新株予約権については2020年4月30日以後の付与対象者の退職による失権分を除いた結果の数値であり、第5回新株予約権については2020年4月30日以後の付与対象者の行使による減少及び付与対象者の退職による失権分を除いた結果の数値とのことです。

なお、対象者が2021年4月14日に公表した「株式会社くふうカンパニーによる当社株券に対する公開買付けに関する意見表明、同社との資本業務提携契約、及び同社を割当予定先とする第三者割当による新株式発行に関するお知らせ」（以下「対象者プレスリリース」といいます。）によれば、対象者は、2021年4月14日開催の対象者取締役会において、下記「(2) 本公開買付けの実施を決定するに至った背景、目的及び意思決定の過程並びに本公開買付け後の経営方針」の「② 対象者が本公開買付けに賛同するに至った意思決定の過程及び理由」に記載の根拠及び理由に基づき、(i) 公開買付者との間で本資本業務提携契約を締結すること、及び、(ii) 本取引の一環として行われる本公開買付けに賛同の意見を表明する旨を決議したとのことです。また、対象者は、本公開買付けにおける対象者1株当たりの買付け等の価格（138円、以下「本公開買付価格」といいます。）については、本公開買付けが、応募予定株主から、応募予定株主が所有する対象者株式を、本公開買付けの実施についての公表日の前営業日である2021年4月13日の対象者株式の東京証券取引所マザーズ市場における終値153円より10%ディスカウントした価格から1円未満を切上げた価格（138円）で取得することを目的としたものであり、対象者の一般株主の皆様の売却を予定しているものではないこと、また、本公開買付けには買付予定数の上限が設定され、本公開買付け後も引き続き対象者株式の上場を維持していく方針であることから、対象者株主の皆様が本公開買付けに応募するか否かについては、中立の立場を採り、対象者株主の皆様のご判断に委ねるべきとの判断に至ったことから、同日開催の対象者取締役会において全ての取締役が本公開買付けに係る審議に参加し、参加した取締役の全員の一致により、その旨を決議したとのことです。対象者における本公開買付けに対する意見及び意思決定の過程については、対象者プレスリリース及び下記「(4) 本公開買付価格の公正性を担保するための措置及び利益相反を回避するための措置等、本公開買付けの公正性を担保するための措置」の「③ 対象者における利害関係を有しない取締役全員による決議及び監査役全員による異議のない旨の意見」をご参照ください。

また、対象者が2021年4月14日に関東財務局長に提出した有価証券届出書（以下「対象者有価証券届出書」といいます。）及び対象者が同日公表した「株式会社くふうカンパニーによる当社株券に対する公開買付けに関する意見表明、同社との資本業務提携、及び同社を割当予定先とする第三者割当による新株式発行に関するお知らせ」（以下、対象者有価証券届出書と併せて「対象者有価証券届出書等」といいます。）によれば、対象者は、2021年4月14日開催の対象者取締役会において、公開買付者を割当予定先とし、払込期間を本公開買付けに係る決済の開始日である2021年5月25日から同年6月30日までとする第三者割当の方法による募集株式の発行（以下「本第三者割当増資」といいます。（注6））について決議しているとのことです。公開買付者は、本第三者割当増資に関して、本公開買付けが成立した場合には、本公開買付けの結果を確認した上で、最大で13,751,600株（本第三者割当増資における公開買付者に対する募集株式の数として対象者が決議した株式数であって、本第三者割当増資による公開買付者に対する最大の発行株式数（本公開買付けにおいて応募株券等の総数が5,746,130株であつ

た場合)、本書において「最大発行株式数」といいます。)の範囲において発行される、本第三者割当増資における公開買付者に対する募集株式の数の範囲内で、本取引後において公開買付者が所有することとなる対象者株式の合計数の増資後完全希薄化ベース株券等所有割合が最大 50.10%を超えない株式数について払込みを行う予定です。他方、公開買付者は、本公開買付けが成立しなかった場合には、本第三者割当増資に係る払込みの全部を行わない予定です。そのため、公開買付者は、本公開買付けの結果に応じて、本第三者割当増資における公開買付者に対する募集株式の数として対象者が決議した株式数(13,751,600株)のうち全部又は一部について払込みを行わない可能性があります。本第三者割当増資の詳細につきましては、対象者有価証券届出書等、下記「(3)本公開買付けに係る重要な合意に関する事項」の「①本資本業務提携契約の概要」の「(iii)本第三者割当増資に関する事項」及び「(5)本公開買付け後の対象者の株券等の取得予定」をご参照ください。

また、公開買付者が本第三者割当増資により対象者株式を最大で13,751,600株取得する予定であり、同株式に係る議決権の数は137,516個であるため、2021年1月31日現在の対象者の発行済株式総数(23,343,900株)に対する比率は58.91%、2021年1月31日現在の議決権総数(233,394個)に対する比率は58.92%となり、対象者株式には25%以上の希薄化が生じる可能性があることから、本第三者割当増資は、「企業内容等の開示に関する内閣府令第二号様式記載上の注意(23-6)」に規定する大規模な第三者割当に該当します。また、本取引を通じて、本第三者割当増資に係る払込み後の公開買付者の対象者に対する増資後完全希薄化ベース株券等所有割合は50.10%となることから、公開買付者は対象者の親会社である支配株主となる予定です。この点、対象者有価証券届出書等によれば、2021年4月14日開催の対象者取締役会において、本第三者割当増資に係る審議に参加した社外監査役である監査役3名が、本払込金額は、日本証券業協会の「第三者割当増資の取扱いに関する指針」(2010年4月1日付)に準拠したものであり、対象者の直近の財政状態及び経営成績、対象者が特設注意市場銘柄に指定されていること等を勘案し、適法かつ妥当であり、「特に有利な発行価額」には該当しない旨の意見を表明しているとのことです。なお、当該監査役の意見の詳細については、対象者有価証券届出書等をご参照ください。

(注6)本第三者割当増資は、払込期間を本公開買付けに係る決済の開始日である2021年5月25日から同年6月30日までとしております。払込期間を2021年5月25日から同年6月30日までとした理由は、本第三者割当増資における払込日を本公開買付けにおける決済開始日(2021年5月25日予定)と同日とすることを予定しているところ、本公開買付けの買付期間が延長され、払込日も延期される可能性があるためです。また、本第三者割当増資は、払込金額を1株当たり138円で、(イ)本公開買付けにおいて応募株券等の総数が5,746,130株であった場合には、公開買付者の本公開買付けによる取得分及び本第三者割当増資による取得分を合わせて、最大発行株式数13,751,600株、払込金額の総額が1,897,720,800円(当該払込金額の総額は、最大発行株式数の全株式について払込みがあったものとして計算した最大値であります。)となります。他方、(ロ)本公開買付けにおいて応募株券等の総数が買付予定数の上限を超えた場合(12,608,201株以上の応募があった場合)には、公開買付者の本公開買付けによる取得分及び本第三者割当増資による取得分を合わせて、当該払込金額の総額が1,727,323,537円となります。本第三者割当増資の払込金額は、本第三者割当増資に係る対象者取締役会決議日(2021年4月14日)の前営業日である2021年4月13日の東京証券取引所マザーズ市場における対象者株式の終値153円を10%ディスカウントした価格から1円未満を切上げた価格(138円)であり、本公開買付価格と同額となります。なお、公開買付者による本第三者割当増資の払込みは、決済の開始日(2021年5月25日)に実施する予定です(但し、本公開買付けに係る買付け等の期間(以下「公開買付期間」といいます。)が延長された場合には、延長後の決済の開始日を予定しています。)

(2) 本公開買付けの実施を決定するに至った背景、目的及び意思決定の過程並びに本公開買付け後の経営方針

① 本公開買付けの実施を決定するに至った背景、目的及び意思決定の過程

(a) 公開買付者グループの概要

公開買付者は、共同株式移転の方法により、2018年10月1日付で株式会社オウチーノ及び株式会社みんなのウェディングの完全親会社として設立され、同日付で東京証券取引所マザーズ市場に上場しました。

公開買付者グループは、持株会社である公開買付者及びその子会社14社（2020年12月31日現在）で構成され、「くふうで生活を賢く・楽しく」を経営理念とし、ユーザーが様々なライフイベントにおいて、より賢く、楽しく意思決定を行えるようサービスの提供を目指しております。公開買付者グループでは、主にインターネットを介して結婚関連事業、不動産関連事業、金融関連事業、メディア関連事業を展開しております。結婚関連事業は株式会社エニマリによるウェディング総合情報メディア「みんなのウェディング」、会費制結婚式プロデュースサービス「会費婚」、新しい生活様式に合わせた“結婚を祝う新しいカタチ”を提案するサービス「エニマリ」、株式会社フルスロットルズによるインポートブランドを中心としたウェディングドレス販売「DRESS EVERY」等で構成されております。不動産関連事業は株式会社オウチーノによる住宅・不動産専門メディア「オウチーノ」、株式会社おうちのくふうによる生活者向けの買取再販サービス、株式会社Seven Signatures Internationalによる富裕層向けコンサルティングサービス、その他子会社2社で構成されております。金融関連事業は株式会社Zaimによる900万ダウンロードを超えるオンライン家計簿サービス「Zaim」、並びにくふう少額短期保険株式会社及び株式会社保険のくふうによる保険サービス等で構成されております。メディア関連事業は株式会社くらしにくふうによるくらしに関する総合情報メディア「ヨムーノ」及びグループ内外の各メディアの企画・制作・運営支援等で構成されております。その他、株式会社Da Vinci Studio、株式会社くふうキャピタル、その他子会社1社により、グループ内各事業に対する支援業務等を行っております。

公開買付者グループでは、上述のとおり、主にインターネットを介して結婚や不動産といったライフイベントに関連した事業テーマを扱っております。これらの事業領域は、ユーザーと事業者間の情報格差の大きい領域であると認識しております。公開買付者グループは、「ユーザーファースト」を徹底し、これらの情報格差の解消と利便性の高いサービスづくりに注力しております。同時に、各領域において「メディア+サービス」のビジネスモデルを展開することで、ユーザーの検討段階における情報収集からサービスの利用段階まで、一気通貫にサポートできるサービスづくりを推進しております。また、公開買付者グループは、ユーザーニーズへの対応をより一層強化していくと共に、さらなる事業規模拡大及び持続的成長により企業価値の向上を図るため、新規事業開発やM&A等も機動的に実施しており、直近では2021年1月4日付で株式会社キッズスターの株式を取得し、新たに「子ども関連事業」を開始しております。中期では各事業領域における事業成長を重視し、2020年8月12日に公表した中期の経営定量目標（EBITDA）として2023年9月期に20億円を目指しております（コロナ禍に伴う戦略変更により、従来の中期経営企画を2年先送りとしております。）。

結婚関連事業においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、「みんなのウェディング」のサイト利用者数及び有料掲載式場数が減少した他、結婚式プロデュースサービス「会費婚」における結婚式の開催や新規受注件数は大きく落ち込みました。2020年10月1日付で株式会社みんなのウェディングと株式会社アールキューブを合併（株式会社みんなのウェディングを存続会社とする吸収合併）し、株式会社エニマリに商号を変更、さらに2021年1月1日付で株式会社フルスロットルズを合併（株式会社エニマリを存続会社とする吸収合併）し、経営リソースを最適化した新たな体制の下、結婚にまつわる様々なシーンを祝う新たなサービスの開発を推進し、「エニマリ」ブランドによる展開に注力しております。

不動産関連事業においては、株式会社オウチーノでは、不動産会社等に向けて住宅・不動産専門メディア「オウチーノ」での物件掲載サービスを提供しているほか、近年は営業支援ツール「オウチーノくらすマッチ」の販売が順調に拡大しております。株式会社おうちのくふうは、2020年6月19日、

国内におけるオフィス賃貸を中心とした不動産仲介を提供していた株式会社おうちのアドバイザーから株式会社おうちのくふうへ商号変更を行うと共に、事業内容を生活者向けの買取再販サービスに刷新することで、事業を本格始動しました。一都三県を中心に、駅から徒歩 10 分圏内、60 平米前後のファミリー層向け居住用中古マンションを仕入れ、新築同様のフルリノベーションを行い、3,000 万円台を中心としたリーズナブルな価格帯で販売しております。2020 年 12 月 31 日現在、物件の仕入れ及びリフォームにかかる費用が売上に先行して発生しておりますが、今後の販売に向けて計画通りに進捗しております。株式会社 Seven Signatures International は、国内外における新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う渡航規制等により、米国ハワイ州における事業活動への影響が続いておりますが、コスト削減に取り組むと共に、国内外における富裕層顧客のニーズに応えた取引案件を獲得しております。

金融関連事業においては、オンライン家計簿サービス「Zaim」は、有料課金ユーザーを対象に長期的な資産形成・ライフスタイルの変化に寄り添う基盤として、ライフプラン管理ツール等の開発を推進している他、大手企業や官公庁等からのデータ連携ニーズへの対応を強化することで、収益が拡大しております。また、保険サービスはグループ内連携による保険提案に注力しております。

メディア関連事業においては、くらしに関する総合情報メディア「ヨムーノ」のユーザー数の増加とともに広告収入が伸長する一方、新たな収益源の獲得に向けたコンテンツ強化やメディアの開発等に注力しております。

その他、支援機能として株式会社 Da Vinci Studio による公開買付者グループ内外向け技術支援等を展開しております。

#### (b) 対象者グループの概要

一方、対象者プレスリリースによれば、対象者は、資産価値が維持できる高性能住宅商品の企画開発、住消費者のリスクを最小化するための住宅不動産取引の実現による資産価値の維持向上を理念に掲げ 2005 年 3 月に創業し、2016 年 4 月に東京証券取引所マザーズ市場に上場、2020 年 7 月 21 日に東京証券取引所市場第一部に上場市場を変更した後（注 1）、対象者において、後述のとおり特別調査委員会を設置し過去の不適切な会計処理について調査していましたが、2020 年 8 月 31 日に対象者独立役員も委員となっている特別調査委員会から、対象者から独立した中立・公正な社外委員のみで構成される第三者委員会への移行等について開示し、また、同年 9 月 29 日に開示した新規上場前からの不適切会計に関する第三者委員会の中間調査報告書を開示し、更に、同年 9 月 30 日に監査報告書の意見不表明について開示し、これらの開示及び東京証券取引所によるこれまでの審査の結果を受け、同年 9 月 30 日、東京証券取引所から、対象者が提出した新規上場申請及び上場市場の変更申請に係る宣誓書において宣誓した事項について重大な違反を行ったおそれがあると判断され、対象者株式は監理銘柄（審査中）の指定を受け、2020 年 11 月 26 日付で監理銘柄の解除及び特設注意市場銘柄の指定を受け、上場市場の変更（2020 年 12 月 27 日付で市場第一部からマザーズ市場への変更）が行われたとのことです。

（注 1）対象者が 2020 年 7 月 21 日に公表した「東京証券取引所市場第一部への上場市場変更に関するお知らせ」によれば、対象者株式は、同日付で東京証券取引所マザーズ市場から東京証券取引所市場第一部へ市場変更されたとのことです。

対象者は、連結子会社である株式会社 a n s、一般社団法人住宅不動産資産価値保全保証協会、株式会社 K-コンサルティング、株式会社アール・プラス・マテリアル、株式会社ウェルハウジング、ハイアス・プロパティマネジメント株式会社、ハイアス・キャピタルマネジメント株式会社、株式会社 LH アーキテクチャ、SUNRISE 株式会社、株式会社 HC マテリアル、GARDENS GARDEN 株式会社及び株式会社家価値サポートの合計 13 社の企業集団（以下「対象者グループ」といいます。）で構成されており、「コンサルティング事業」及び「建築施工事業」を主たる事業としているとのことです。

「コンサルティング事業」は、住関連産業（住宅、不動産、建設業界）に特化した経営コンサルティング事業であり、対象者グループでは、地域の中小企業を会員組織としてネットワーク化し、事

業提携先と協力し、業界のノウハウを分析、標準化し、ビジネスモデルとしてパッケージ化した商品を、顧客（会員企業）に提供しているとのことです。商品には、そのブランドを使って営業・販売するのに必要なシステム、ノウハウ、営業ツールなどが全て含まれており、企業が置かれている状況に応じて、収益構造改善や新規事業展開を含む業態転換の必要性をもつ企業には「ビジネスモデルパッケージ」を、経営（事業）におけるプロセスや機能の効率化が必要な企業には「経営効率化パッケージ」を提供し、トータルの商品数は20を超え、住宅環境のハードインフラから情報インフラまでをトータルでサポートしているとのことです。

「建築施工事業」ではパッケージ化した商品を活用し、エンドユーザー（対象者の提供する不動産を購入する生活者をいいます。）に住宅の建築・施工等を行っており、開発したノウハウは、コンサルティング事業において、商品開発や会員企業への支援に活かしているとのことです。なお、コンサルティング事業、建築施工事業に含まれない事業としては、宿泊施設に関する運営及び管理業務、不動産投資型クラウドファンディングの企画及び運営等があるとのことです。

対象者グループの事業領域にかかわる住宅不動産業界におきましては、2019年から続く消費増税の反動減の影響及びコロナ禍における外出自粛や消費者マインドの低下により、新設住宅着工戸数は前年比でマイナスとなったとのことです。1回目の緊急事態宣言後には、経済活動の再開とともに新設住宅着工戸数にも回復の兆しが見えたものの、2021年1月の再度の緊急事態宣言の発令により、消費マインドの低下が懸念され、依然として先行きは不透明な状況となっているとのことです。

このような状況の下、対象者グループは2020年6月15日に発表した「2021年4月期-2023年4月期中期経営計画」に基づき、主力の高性能デザイナーズ住宅「R+house」事業の強化と伸長、新たなコアビジネスの確立といった2つの成長戦略、また、安定した収益基盤の構築という安定化戦略に基づいて事業活動を行ってきたとのことです。

コロナ禍の状況においても、消費者ニーズの変化を捉えた「新しい生活様式」に対応する建築家ブランドの提案及び会員企業等とオンライン面談を積極的に進めた結果、2020年6月以降は受注実績については、ほぼ前年の水準まで回復しているとのことです。もっとも、対象者においては、「R+house」のエンドユーザーの認知度は未だ十分であるとはいえず、認知度の向上に向けて更なるブランド広告活動が必要となると考えているとのことです。かかる広告活動に際しては、従前実施してきたTV・CM等を通じた一部地域での広告活動に加えて、メディア運営、インターネット等のエンドユーザーとの新たなチャネルの創出に向けた投資を行う必要があると考えていたとのことです。

また、安定した収益基盤の構築に向けた取組みとしては、導入サービスの成果報酬である「ロイヤルティ等」を主な収益とするため、会員企業（顧客）の受注促進を通じた収益拡大に向けて注力する必要があると考えているとのことです。そのために、「R+house」のマーケティング活動を強化するほか、会員企業のエンドユーザーへの提案力向上のための新規サービスの開発・提供を強化していく必要があると考えているとのことです。具体的には、近年の特定地域での大規模自然災害、コロナ禍以降においては、地方での住まいのニーズやテレワークのニーズが生じる等、住宅・不動産業界において求められる商品・サービスなどのニーズが多様化しており、そのような多様かつ新たな住宅ニーズ（リモートワーキングスペース、地方での戸建てニーズ等）を的確に把握するツールや、エンドユーザーへの高付加価値の商品・サービスの提供を実現するツールなど、従来よりもエンドユーザーとのチャネルツールの開発を迅速に行い、拡充していく必要性が高まってきているとのことです。

さらに、対象者からの会員企業へのコンサルティング・業務支援における業務負担の軽減や、建築・購入を検討するエンドユーザーへの相談サービス「ans（住まいづくりの相談窓口）」のリモート相談のインフラ構築・充実などにおいても、メディア・コミュニケーションの開発・利用のノウハウの確保の必要性が高まってきているとのことです。

対象者グループにおいては、2020年10月頃から、上記のとおり、コロナ禍の下、安定的な収益構造の構築と持続的な成長のために、本中期経営計画の着実な遂行を行うためには、エンドユーザー向けのオンライン領域のメディアツール、その開発・活用を自ら行うにとどまらず、そのようなノウハウを豊富に有する企業とのアライアンスにより事業シナジーを獲得する可能性についても模索し始めていたとのことです。

他方で、対象者グループにおいては、対象者が、2020年7月28日に公表した「対象者における不適切な会計処理に係る特別調査委員会の設置に関するお知らせ」及び2020年9月30日に公表した「第16期有価証券報告書の提出、並びに過年度の有価証券報告書等、決算短信等の訂正に関するお知らせ」によれば、過去の売上高や売上原価その他の費用等の計上処理に関連して、不適切な会計処理（以下「本不適切会計」といいます。）が行われていたことが、2020年7月下旬頃に判明し、その後、同年9月29日に新規上場前からの不適切会計に関する第三者委員会の中間調査報告書を開示し、また、同月30日には過年度の決算短信等の訂正を開示するとともに、監査報告書の意見不表明等について開示したとのことです。本不適切会計を受け、同日、東京証券取引所において、対象者が提出した新規上場申請及び上場市場の変更申請に係る宣誓書における宣誓事項について重大な違反を行ったおそれがあると判断され、対象者株式は、監理銘柄（審査中）に指定され、その後、同年11月27日付で、東京証券取引所から特設注意市場銘柄に指定されたとのことです（注2）。

（注2）特設注意市場銘柄の指定期間は、2020年11月27日から原則1年間となっており、期間内に東京証券取引所に内部管理体制確認書を提出する必要があると認められ、提出を受け、東京証券取引所において、内部管理体制等の審査を行い、内部管理体制等に問題があると認められない場合には、指定が解除となるとのことです。一方、内部管理体制等に問題があると認められる場合、原則として上場廃止となるとのことです。但し、その後の改善が見込まれる場合には、特設注意市場銘柄の指定を継続し、6ヶ月間改善期間が延長されるとのことです。なお、特設注意市場銘柄指定中であっても内部管理体制等の改善見込みがなくなると認められる場合には、上場廃止となる可能性があるとのことです。

対象者は、上記の状況を解消すべく、2020年9月11日に対象者の役職員を委員とする自主再生委員会を発足させ、執行レベルで具体的な再発防止策及びその実施体制の検討を進め、経営ガバナンス強化に向けた抜本的改革として、2020年9月30日に経営体制を刷新し、その後、自主再生委員会は、同年10月17日にその検討結果を第三者委員会及び対象者取締役会に提言し、同年10月30日に対象者としての再発防止策を策定したとのことです。さらに、社外取締役の拡充やガバナンスの強化を図るため、2020年12月23日開催の臨時株主総会を経て新経営体制に移行したとのことです。また、新経営体制の下、経営ガバナンス強化に向けた抜本的改革、業務処理統制の強化及び管理体制の増強、上場会社としての役職員の意識改革を含む再発防止の実行を主導するに努めるべく、2020年11月2日にリスタート委員会（注3）を社内組織として設置したとのことです。また、対象者が2020年12月22日に公表した「旧経営陣の持株比率の低下に向けた方針に関するお知らせ」によれば、対象者は、本不適切会計に関する再発防止策の一環として、旧経営陣の法的責任の明確化のための対応を検討する一方、旧経営陣の株主としての対象者への影響力を解消するため、旧経営陣の持株比率を低下させることを試み、旧経営陣のうち対象者の前々代表取締役であった瀧村氏ら及び2020年10月31日現在において対象者の第2位株主であって対象者の共同創業者であり2020年9月30日まで対象者の取締役であった柿内和徳氏（以下「柿内氏」といいます。）との間で、それぞれ誓約書を締結し、同氏らが所有する対象者株式を早期に処分するよう努める旨の合意をしているとのことです。

（注3）リスタート委員会の設立の経緯としては、再発防止策の確実な実行が策定後の重要なテーマとなる中で、自主再生委員会に、再発防止策の実行面に直接関わる実務者を加える形で体制強化を図っているとのことです。具体的には、内部統制の見直しを行う業務統制課・財務経理課・経営企画課、規程の整備や全社的な意識改革を行う総務部の中核メンバーがリスタート委員会に加わり、構成しているとのことです。発足以降、リスタート委員会は、現在まで、職務権限の見直し、業務フローの見直しと関連規程の変更、コンプライアンスの浸透のための基本方針の策定、役職員向けの研修計画と実施などに取り組んできているとのことです。その後、特設注意銘柄の指定解除に必要な内部管理体制等の改善を再構築し、1年以内での特設注意市

場銘柄の指定解除を目標として、株主・取引先等の皆様からの信頼回復に向けて一丸となって取り組んでいるとのこと。更に、社外取締役の拡充やガバナンスの強化を図るために2020年12月23日開催の臨時株主総会によって新経営体制に移行したとのこと。そして、今後経営ガバナンス強化に向けた抜本的改革、業務処理統制の強化及び管理体制の増強、上場会社として役職員の意識改革を含む改善計画を策定する予定とのこと。

(注4) 対象者は、本日現在、本不適切会計に関する再発防止策の一環として、旧経営陣の法的責任の明確化のための対応として、旧経営陣に対して法的責任を追及するための訴えの提起を検討しているとのこと。

しかしながら、対象者が2021年2月1日に公表した「第三者委員会設置に関するお知らせ」及び同月4日に公表した「(開示事項の経過) 第三者委員会設置に関するお知らせ」によれば、その後、対象者の前代表取締役であった川瀬氏が2020年10月1日付で所定の手続を経ることなく独断で代表取締役の職務権限を超える金額の支払約定書に署名した可能性が判明したとのこと。対象者は、本不適切会計を踏まえて経営陣が交代した直後において、新たに代表取締役に就任した前代表取締役であった川瀬氏が関与して上記のような事態が生じたことを極めて深刻に受け止め、対象者から独立した中立・公正な外部専門家のみで構成される第三者委員会により、類似事象の有無を含む徹底した事実調査、発生原因の分析及び再発防止策の提言をいただくことが必要であると判断し、2021年2月1日開催の対象者取締役会において第三者委員会の設置を決議したとのこと。対象者が2021年3月12日に公表した「第三者委員会の調査報告書公表に関するお知らせ」によれば、対象者取締役会は、第三者委員会より調査報告書を受領したことを受け、2020年10月26日に受領した第三者委員会からの調査報告書に示された内容を踏まえた再発防止策に統合の上で、大要以下を内容とする改善計画を策定する予定とのこと。なお、対象者における一連のガバナンス上の問題点に関する一連の経緯については、下記「④対象者におけるガバナンス上の問題点及びその後の一連の概要」をご参照ください。

## I. 「経営ガバナンス強化に向けた抜本的改革」に関する再発防止策

### ① 経営陣の刷新

- ・ 監督機能を担う取締役と業務執行を担う執行役員を明確に分離するとのこと。
- ・ 独立社外取締役の比率が3分の1以上となる経営体制とするとのこと。

### ② 取締役会の改革

- ・ 社内外の取締役間また、独立社外取締役と独立社外監査役の間の連携強化を図るとのこと。
- ・ 任意の諮問委員会を設置するとのこと。

### ③ 監査役会の改革

- ・ 監査役会と内部監査部門の連携強化を図る他、新規に監査に精通した専門家を選任するとのこと。

### ④ 意思決定フローの明確化

- ・ 取締役、執行役員の権限と責任の明確化を図るとのこと。

### ⑤ 中長期的企業価値向上をベースとした中期経営計画の策定

- ・ 事業を通じた社会貢献と中長期的な企業価値向上を意識した経営計画の策定・推進を行うとのこと。

## II. 「業務処理統制の強化及び管理体制の増強」に関する再発防止策

### ① 業務フローの再構築・改善

- ・ 職務権限の見直しと各種稟議フローの改善を進めていくとのこと。

### ② 業務管理部門の新設

- ・財務報告に係る内部統制の構築・運用に関する第1のディフェンスライン部門を新設することです。

③ 財務管理部門の新設

- ・財務に精通した経営管理トップが管理する組織体制を構築していくとのことです。
- ・研修受講によるメンバースキルアップ及び専門性の高い人材の新規採用を行うとのことです。

④ 内部監査の強化

- ・内部監査室を部に昇格、増員する他、監査法人との定期的な情報共有を図っていくとのことです。

⑤ 内部通報制度の周知

- ・内部通報制度の十分な活用のため、役職員に制度の理解、周知・徹底を図っていくとのことです。

Ⅲ. 「上場会社としての対象者役職員の意識改革」に関する再発防止策

- ・「コンプライアンス基本方針」の策定を進めていくとのことです。
- ・コンプライアンスや内部統制の研修、eラーニング等の教育を継続実施していくとのことです。

このような、再発防止策のうち、経営ガバナンス強化に向けた抜本的改革を実現するにあたり、旧経営陣の影響力の排除は極めて重要な課題であると認識しているとのこと。そのため、対象者は、2020年11月上旬から、旧経営陣が保有する対象者株式の引受先として、対象者の金融機関、取引先など複数の関係先を通じ、幅広く保有株式の引受先の候補選定を開始したとのこと。

対象者は、上記のような経営課題及びガバナンス上の課題を有する状況下において、対象者の経営課題の解決に資する事業パートナー及び旧経営陣が所有する対象者株式の引受先を検討していたところ、2020年12月17日、公開買付者より、旧経営陣が所有する対象者株式を引き受けることを検討するとともに、資本業務提携の可能性について模索したいとの提案を受領したとのこと。

(c) 対象者及び応募予定株主との協議・交渉

公開買付者は、2018年10月の設立以降より多くのユーザーニーズに応える価値提供を行うためには、公開買付者グループが展開する不動産関連事業において、サービス提供可能エリアを全国へ拡大すること、並びにサービスで取り扱う物件の種類を中古住宅マンションから戸建住宅を含む多種多様な物件へ広げていくことが必要であると考えております。また、住まいの検討段階における情報収集から住まいの購入段階まで、より付加価値の高いサービスを一貫して提供していくには、新しいサービスの開発も推進していくことが必要であると考えております。公開買付者は、公開買付者の目指すサービスの付加価値をより高めていくために、対象者のような全国の工務店にネットワークを持つサービス提供事業者との連携を、対象者と面談する以前より模索しており、公開情報を中心に対象者の事業についても認識しておりました。公開買付者は、対象者が2020年12月15日に公表した「代表取締役の異動に関するお知らせ」及び2020年12月16日に公表した「新経営体制に関するお知らせ」を受け、公開買付者の新たな事業パートナー候補として新体制となった対象者との連携の可能性を検討するため、対象者のリーガル・アドバイザーである森・濱田松本法律事務所を通して、対象者へ面談の申し入れを行いました。その後、対象者が2020年12月22日に公表した「旧経営陣の持株比率の低下に向けた方針に関するお知らせ」（以下「12月22日付対象者プレスリリース」といいます。）から、公開買付者は対象者が過去の不適切な会計処理に関する再発防止の一環として旧経営陣の影響力の解消のため、旧経営陣が所有する対象者株式について市場外相対取引を前提に複数の事業会社と協議を進める方針であることを知り、2020年12月25日に対象者と初めて面談を行った際に、

対象者の事業について理解を深めるとともに、2021年1月13日に再度対象者と面談を行った際に、対象者におけるガバナンスの強化及び公開買付者との事業上のシナジーによる企業価値向上を目指した資本業務提携により、対象者の注文住宅販売に係るノウハウや、全国の約1,400社に及ぶ会員企業とのネットワークを活用することによる公開買付者グループのユーザーに向けたサービスの多様化が期待できるとの考えに至りました。その後、2021年1月中旬から同年4月上旬にかけて、公開買付者と対象者との間で複数回に亘って協議を行い、公開買付者は、柔軟かつ戦略的な施策を迅速に実施していく業務提携を実現すること及び、対象者の上場維持を前提とし、自主的な再建を尊重しつつ、特設注意市場銘柄の指定の解除に至るためには、対象者の内部管理体制に係る課題の改善が急務であるところ、後述の通り、柿内氏が株主として存続する可能性もあることから、その場合にも備えてガバナンスの強化を図る必要があると判断し、持分法適用会社化ではなく、対象者の議決権の過半数を取得して対象者を公開買付者の連結子会社とすることで、ガバナンス及び経営の安定性を確保すべきと判断し、対象者の議決権の過半数を取得して対象者を公開買付者の連結子会社とすることにより、厳しい競争環境にある住宅・不動産市場動向やユーザーニーズの変化に対して適時適切に対処していくための迅速な意思決定が実現できるのではないかと考え、2021年3月上旬、正式に旧経営陣の所有する対象者株式を可能な限り公開買付けで取得し、第三者割当増資で対象者の議決権の過半数取得を前提とした資本業務提携の可能性について検討してほしい旨を打診し、対象者においても2021年3月上旬に公開買付者の提案を受諾することで考えが一致いたしました。

対象者は内部管理体制の改善を急務としており、12月22日付対象者プレスリリースのとおり、不適切会計に関する再発防止策の一環として、旧経営陣の経営責任及び法的責任を検討する一方、旧経営陣の株主としての対象者への影響力を解消するため、旧経営陣の持株比率を低下させることを試み、旧経営陣のうち対象者の前々代表取締役であった濱村氏及び2020年9月30日まで対象者の取締役であった柿内氏との間で、それぞれ誓約書を締結し、同氏らが所有する対象者株式（濱村氏の間では濱村氏らが所有する対象者株式）を早期に処分するよう努める旨の合意をしており、対象者としては、市場外相対取引による処分が可能となるよう複数の事業会社と協議を進め、早期に濱村氏及び柿内氏の持株比率の低下が実現できるよう努めていく方針であったとのことです。かかる方針から、対象者は、公開買付者に対し、まずは対象者の主要株主兼筆頭株主であり、前々代表取締役であり、対象者が本取引を進めることに対して協力的であった濱村氏らの所有する対象者株式につき可能な限り取得することを最優先事項として提示したとのことです。また、対象者には、共同創業者の一人である濱村氏らが本公開買付けに応じた場合、他の旧経営陣への説明も容易になるとの考えがあったとのことです。対象者からのかかる提示を受け、公開買付者は、2021年3月中旬より、対象者とは別に、濱村氏らとの間で複数回の協議を行い、対象者との資本業務提携に関する基本方針を説明するとともに、公開買付者が対象者株式を過半数取得することの是非及び濱村氏らの所有する対象者株式の譲渡等について交渉を行いました。2021年3月下旬、公開買付者は、本第三者割当増資における引受価格と同一価格にて本公開買付けを実施する予定であることを濱村氏に説明いたしました。濱村氏らは、2021年4月上旬、対象者が前向きに交渉を進めている公開買付者が実施予定の本公開買付けに応募することで対象者に協力したいとの意思を表明しました。公開買付者は、2021年4月上旬、本公開買付価格について濱村氏らに打診し、本公開買付価格については、本第三者割当増資における引受価格と同一で市場株価からの一定のディスカウントを行った価格とし、本応募契約に合意する旨の意思を確認いたしました。次に、濱村氏との当該交渉を踏まえ、2021年4月上旬より、公開買付者は順次、対象者を通じて、旧経営陣のうち第三者委員会におけるヒアリングにも協力的であり、対象者の再建を後押しする姿勢を示していた川瀬氏及び大津氏に対し、本公開買付けに関する説明の機会を得て、その内容を説明し、川瀬氏及び大津氏から本応募契約に合意する旨の回答を得ました。他方、対象者は、対象者取締役を退任した後、柿内氏が対象者従業員の複数と接触していることが確認されたため、柿内氏に本公開買付けを事前に共有した場合に、対象者従業員に対してインサイダー情報が流出するおそれがあり、また、柿内氏が結果として対象者が上場廃止となることも厭わず、対象者株式を早期に処分するよう努めるという誓約書での合意に反する可能性があると考え、柿内氏に対しては

本公開買付け開始後に、誓約書の履行として、応募の打診をすることにしたとのことです。また、2020年9月30日まで取締役であった西野敦雄氏（以下「西野氏」といいます。）については、柿内氏と前職において同期という関係にあり、西野氏に本公開買付けを打診した場合、柿内氏に本公開買付けが伝わることを対象者が懸念したため、西野氏に対しても本公開買付け開始後に、誓約書の履行として、応募の打診をすることにしたとのことです。本取引後は、柿内氏とは何ら関連がなく柿内氏の影響を受けない公開買付者が対象者の議決権過半数を得ることとなり、柿内氏の影響力は低下することとなるため、柿内氏及び西野氏については、2021年4月14日における本公開買付けの実施についての公表後に、本公開買付けに応じるよう対象者より打診を行う予定とのことです。これと並行して、公開買付者と対象者との間で、緊密に経営戦略・事業戦略についての協議を行い、以下の事業シナジー及びメリットが見込めることとの考えに至り、公開買付者は、2021年4月14日、本取引により、公開買付者が最終的に対象者の議決権の過半数を取得して対象者を公開買付者の連結子会社とすることで、対象者グループ間におけるガバナンスの再構築及び強化、財務基盤の強化及び新規事業開発を実現できるものと判断いたしました。

(i) 公開買付者及び対象者の共同によるエンドユーザーに向けた認知及び価値提供の拡大

対象者は、「個人が住宅不動産を納得し安心して取得（購入）、居住（運用）、住替（売却）できる環境をつくること」を理念に掲げ、住宅・不動産のプラットフォームを提供する会社として、全国の住宅・不動産・建設会社の支援を通じてその理念の実現を目指しているとのことです。従って、対象者が直接的に価値を提供する先は、主に地域の工務店をはじめとする事業会社であるとのことですが、主力の「R+house」事業等のブランディング活動を行うことで、会員企業の受注の後押しを図ることも必要であるとのことです。公開買付者グループが保有するメディア運営のノウハウを活用することで、多額な広告宣伝費を要することなく、住まいを検討するユーザーとの接点を創出し、対象者が展開する「R+house」事業等の住宅モデルシリーズに関するエンドユーザーの認知拡大が期待されます。また、公開買付者グループが保有するインターネットサービスのノウハウを活用することで、エンドユーザーに対して直接提供する新たなサービスも含めた事業展開が可能になることが期待されます。公開買付者グループにおいても、対象者の企業会員ネットワークを活用することで、新たに全国エリアで戸建住宅という住まいの選択肢の提供が可能となることで、より広範なユーザーニーズに応えていくことが実現できるものと考えております。

(ii) 住まいのワンストップサービスの提供によるユーザー満足度の向上

公開買付者グループは、ユーザーの様々なライフイベントにおいて、「メディア+サービス」のビジネスモデルを展開することで、ユーザーの検討段階における情報収集からサービスの利用段階まで、一気通貫にサポートできるサービスづくりを推進しております。公開買付者グループ及び対象者グループが、連携することで、全国で戸建住宅を検討したいユーザーに対して、メディアを通じた情報収集のサポートと併せて、対象者グループが展開する「R+house」事業の住宅モデルシリーズを住まいの選択肢として提案していくことが可能となり、住宅の検討から購入までをスムーズに支援することが可能になるものと考えております。また、住宅購入後においては、快適な暮らしを維持していくためのメンテナンスに加え、売却可能性も踏まえた資産価値の向上をサポートしていくことも、住宅購入者にとって重要な要素であります。この点においては、公開買付者グループが保有するインターネットサービスのノウハウを活用することで、ユーザーとの継続的な接点の創出や、オンライン査定サービス等の各種サービスを効果的に提供していくこと、あるいは「ユーザーファースト」視点のサービス開発力を活用した新しいサービスを対象者グループと共同で開発・提供していくことを通じて、購入前から購入後も含めた住まいに関するワンストップサービスの提供によるユーザー満足度の向上が期待されます。

(iii) 地域に根差したライフイベント事業の開発

公開買付者グループは、ライフイベントに関するテーマを中心に、社会変化に対応する多様なメディアの開発と、暮らしを豊かにするサービスの提供に注力すると共に、これらの価値創出を実現するためのテクノロジー・デザイン機能を保有しておりますが、ライフイベントに関するサービスにおいては、地域に根差したサービスの提供が不可欠であると認識しております。対象者グループが全国各地で構築してきた会員企業とのネットワークを活用することで、公開買付者グループの不動産関連事業並びにその他の事業領域において、ユーザーの生活圏に応じた最適な情報とサービスを提供していくことが可能になるものと考えております。

(iv) 対象者会員企業向けの業務支援ツールの開発と収益基盤の拡大

ユーザーにとって付加価値の高いサービスを提供していくためには、ユーザーのニーズを的確に捉え、それらを提供サービスに反映していくことが肝要であります。公開買付者グループでは、各事業領域において、事業会社に対して接客支援ツール等をはじめとするユーザーとのコミュニケーションツールを提供することで、事業会社とユーザー間の有益な関係構築をサポートしております。これらのツールを対象者グループの会員企業に対して開発・展開していくことで、会員企業がより一層ユーザーに寄り添いながら付加価値の高いサービスを提供していくことや、ユーザーとのコミュニケーションにおける会員企業の業務負担を軽減していくことを可能にするると共に、公開買付者グループ並びに対象者グループの収益基盤を拡大していくことが期待されます。

(v) グループ経営体制による内部管理体制の強化と効率的な経営の実現

公開買付者グループは、2018年10月の設立以来、公開買付者グループ全体が安定したサービス提供を維持するとともに継続的に成長していくためには、内部統制の整備、強化に継続して取り組んでいくことが必須であると考え、グループ全体のガバナンス機能を統括する立場として、グループ組織が健全かつ有効、効率的に運営されるように、コンプライアンス体制の強化を含めた、内部統制環境の整備、強化、見直しを継続して行っております。また、子会社に対して、経営管理業務、経理業務、法務業務、人事採用業務、情報システム業務、内部監査業務等の間接業務を提供することにより、効率的な執行の体制を構築しております。対象者グループを公開買付者グループに迎え、対象者グループも含めたグループ経営体制を実行することで、対象者グループのガバナンス体制の強化や効率的な経営管理体制の構築を早期に実現していくことが可能になるものと見込まれます。また、対象者グループが強固なガバナンス体制と効率的な経営体制の下に、売上・収益を持続的に拡大していくことを通じて、企業価値の向上に寄与していくことが見込まれます。

② 対象者が本公開買付けに賛同するに至った意思決定の過程及び理由

対象者は、上記「① 本公開買付けの実施を決定するに至った背景、目的及び意思決定の過程」の「(b) 対象者グループの概要」に記載の経過により、公開買付者との間で、本資本業務提携の内容、本第三者割当増資の必要性及びその条件、並びに公開買付価格その他本公開買付けの諸条件について慎重に協議・検討を行ってきたとのことです。なお、対象者はこのような協議・検討の過程で、下記「(4) 本公開買付価格の公正性を担保するための措置及び利益相反を回避するための措置等、本公開買付けの公正性を担保するための措置」に記載のとおり、対象者リーガル・アドバイザーとして、森・濱田松本法律事務所から法的助言を得たとのことです。

対象者は、上記「① 本公開買付けの実施を決定するに至った背景、目的及び意思決定の過程」に記載のとおり、対象者が公開買付者の子会社となることで、(i) 対象者及び公開買付者の共同によるエンドユーザーに向けた認知及び価値提供の拡大、(ii) 住まいのワンストップサービスの提供によるユーザー満足度の向上、(iii) 地域に根差したライフイベント事業の開発、(iv) 対象者会員企業向けの業務支援ツールの開発と収益基盤の拡大、(v) グループ経営体制による内部管理体制の強化

と効率的な経営の実現といったメリットがあると考えているとのことです。

また、上記「① 本公開買付けの実施を決定するに至った背景、目的及び意思決定の過程」に記載のとおり、本公開買付けは対象者の旧経営陣が所有する対象者株式の売却を目的として行われるものであり、本公開買付けを行うことは、対象者のガバナンスの強化にも寄与すると考えているとのことです。

したがって、対象者は、公開買付者が対象者の議決権の過半数を取得することで、対象者と公開買付者との間で安定的かつ強固な関係を構築し、旧経営陣の影響力を排除することが、対象者の財務基盤の強化及びガバナンスの強化を可能にするとともに、対象者の収益力の強化ひいては対象者の企業価値向上に資するとの判断に至ったことから、2021年4月14日開催の対象者取締役会において、本公開買付けに係る審議が実施され、本公開買付けに賛同する旨の意見を表明することを決議したとのことです。

また、対象者は、本公開買付価格については、本公開買付けが、応募予定株主から、応募予定株主が所有する対象者株式を、本公開買付けの実施についての公表日の前営業日である2021年4月13日の対象者株式の東京証券取引所マザーズ市場における終値より10%ディスカウントした価格から1円未満を切上げた価格（138円）で取得することを目的としたものであり、対象者の一般株主の皆様への売却を予定しているものではないこと、また、本公開買付けには買付予定数に上限が設定され、本公開買付け後も引き続き対象者株式の上場を維持していく方針であることから、対象者株主の皆様が本公開買付けに応募するか否かについては、中立の立場を取り、対象者株主の皆様のご判断に委ねるべきとの判断に至ったことから、同日開催の対象者取締役会において全ての取締役が本公開買付けに係る審議に参加し、参加した取締役の全員の一致により、その旨を決議したとのことです。

また、上記の対象者取締役会には、対象者の監査役3名全員が本公開買付けに係る審議に参加し、上記各決議につき異議なく賛同する旨の意見を述べているとのことです。

### ③ 本公開買付け後の経営方針

公開買付者及び対象者は、上記「(2) 本公開買付けの実施を決定するに至った背景、目的及び意思決定の過程並びに本公開買付け後の経営方針」の「① 本公開買付けの実施を決定するに至った背景、目的及び意思決定の過程」に記載のとおり、2021年1月中旬の公開買付者から対象者に対する資本業務提携の可能性についての打診以降、2021年4月上旬までの間、本公開買付け後の経営方針について、両社間で協議を重ねて参りました。公開買付者は、対象者取締役会に対して、上記「(2) 本公開買付けの実施を決定するに至った背景、目的及び意思決定の過程並びに本公開買付け後の経営方針」の「① 本公開買付けの実施を決定するに至った背景、目的及び意思決定の過程」の「(i) 公開買付者及び対象者の共同によるエンドユーザーに向けた認知及び価値提供の拡大」、「(ii) 住まいのワンストップサービスの提供によるユーザー満足度の向上」、「(iii) 地域に根差したライフイベント事業の開発」、「(iv) 対象者会員企業向けの業務支援ツールの開発と収益基盤の拡大」及び「(v) グループ経営体制による内部管理体制の強化と効率的な経営の実現」の内容について説明を行い、その後、対象者においても公開買付者と共通の認識を持つに至ったとのことです。

公開買付者による対象者の連結子会社化後の公開買付者グループ及び対象者グループの具体的な事業戦略については、公開買付者及び対象者が今後協議の上決定していくこととなりますが、公開買付者は、より多くのユーザーニーズに応える価値提供を行うためには、公開買付者グループが展開する不動産関連事業において、サービス提供可能エリアを全国へ拡大すること、並びにサービスで取り扱う物件の種類を中古住宅マンションから戸建住宅を含む多種多様な物件へ広げていくことが必要であると考えております。また、公開買付者は、住まいの検討段階における情報収集から住まいの購入段階まで、より付加価値の高いサービスを一気通貫に提供していくには、新しいサービスの開発も推進していくことが必要であると考えております。公開買付者は、対象者との資本業務提携の実施により、対象者の注文住宅販売に係るノウハウや、全国会員企業とのネットワークを活用することで、公開買付者グループがユーザーに提供可能なサービスの多様化が期待できると共に、対象者をグループに迎

えることで、公開買付者の事業基盤の更なる強化が可能になると考えております。

公開買付者による対象者の連結子会社化後の経営体制につきましては、本日現在において未定ではありませんが、本取引後の対象者の経営方針としては、本資本業務提携契約において、公開買付者は、本取引完了日以降3年間、当社の事前の書面による承諾なく（但し、当社がかかる承諾を不合理に遅延、留保又は拒絶しない。）、(i) 公開買付者及び公開買付者グループによる当社の株式の所有割合の合計が、本取引完了時点における当該所有割合から5%以上変動することとなる行為（当社の株式の取得（組織再編行為による承継を含む。）又は売却その他の処分を含むが、これらに限られない。）又は、(ii) 当社グループを対象とする合併を行わず、かつ、公開買付者の関係会社をして行わせないこととされており、対象者株式の東京証券取引所マザーズ市場への上場を維持するとともに、上述のとおり対象者の経営体制は既に刷新されているという認識から対象者の経営の自主性を維持・尊重し、対象者と協議の上で、最適な体制の構築を検討していく予定です。なお、下記「(3) 本公開買付けに係る重要な合意に関する事項」の「① 本資本業務提携契約の概要」の「(iv) 事前承諾事項」及び「(v) 取締役及びアドバイザー派遣に関する合意事項」に記載のとおり、公開買付者が、対象者の取締役を指名又は派遣する場合、当該候補者について事前に対象者と誠実に協議の上、当該取締役を指名又は派遣することとし、また、対象者との間で、本取引完了日以降3年間、当該公開買付者が指名又は派遣する取締役の員数は、対象者の要請がない限り、対象者の取締役の半数を超えないものとするに合意しております。また、公開買付者は対象者の特設注意市場銘柄指定解除に向けた取り組みに協力するため、対象者から要請を受けた事業計画、並びに、ガバナンス及び内部統制に関する人員2名をアドバイザーとして、本取引完了後に対象者に派遣する予定です。

#### ④ 対象者におけるガバナンス上の問題点及びその後の一連の概要

対象者が2020年7月28日に公表した「当社における不適切な会計処理に係る特別調査委員会の設置に関するお知らせ」によれば、同年6月17日、対象者監査役会に外部からの情報提供があり、対象者監査役が調査を行ったところ、2016年4月期に、本来費用として計上すべきであった上場支援に係るコンサルタント報酬について、不適切な会計処理が行われていた可能性があることが判明し、対象者は、同年7月28日、客観的かつ深度ある調査を行うため、外部専門家も交えた特別調査委員会を設置することを決定したとのことです。その後、対象者が2020年8月31日に公表した「特別調査委員会の調査状況及び第三者委員会設置に関するお知らせ」によれば、対象者は、特別調査委員会を設置し過去の不適切な会計処理について調査していましたが、同日付で、対象者独立役員も委員となっている特別調査委員会から、対象者から独立した中立・公正な社外委員のみで構成される第三者委員会へ移行したとのことです。また、対象者が2020年9月29日に公表した「第三者委員会の中間調査報告書公表に関するお知らせ」によれば、対象者は、同日、新規上場前の2015年4月期から2020年4月期までの本不適切会計に関する第三者委員会の中間調査報告書を開示し、更に、対象者が2020年9月30日に公表した「第16期有価証券報告書の提出、並びに過年度の有価証券報告書等、決算短信等の訂正に関するお知らせ」及び同日付の「『内部統制報告書の訂正報告書』の提出に関するお知らせ」（以下、両プレスリリースを総称して「9月30日付対象者過年度訂正プレスリリース」といいます。）によれば、対象者は、過年度の有価証券報告書及び四半期報告書並びに過年度の決算短信及び四半期決算短信（以下「過年度有価証券報告書等」といいます。）の訂正を行うとともに、内部統制報告書の訂正を行ったとのことです（注1）。また、同日付の「内部統制監査報告書及び監査報告書における意見不表明に関するお知らせ」によれば、対象者は、9月30日付対象者過年度訂正プレスリリースにて公表したとおり、第16期内部統制報告書及び有価証券報告書、並びに過年度に提出しました内部統制報告書、有価証券報告書及び四半期報告書の訂正を受けて、有限責任あずさ監査法人より、2020年4月30日現在の財務報告に係る内部統制の評価結果を表明できない旨の内部統制監査報告書を受領したとのことです。加えて、有限責任あずさ監査法人より、第11期、第12期、第13期、第14期及び第15期の訂正後の連結財務諸表及び財務諸表、並びに第16期の連結財務諸表及び財務諸表について、意見を表明しない旨の監査報告書を受領するとともに、第13期から第16期までの各四半期の訂正後の四半期連結財務諸表についても、結論を表明しない旨の四半期レビュー報告書報告書を受領したと

のことで。

(注1) 対象者が訂正した過年度有価証券報告書等及び内部統制報告書は以下のとおりです。

① 有価証券届出書

2016年3月2日提出に係る有価証券届出書

② 有価証券報告書

第12期(自2015年5月1日至2016年4月30日)

第13期(自2016年5月1日至2017年4月30日)

第14期(自2017年5月1日至2018年4月30日)

第15期(自2018年5月1日至2019年4月30日)

③ 四半期報告書

第13期第1四半期(自2016年5月1日至2016年7月31日)

第13期第2四半期(自2016年8月1日至2016年10月31日)

第13期第3四半期(自2016年11月1日至2017年1月31日)

第14期第1四半期(自2017年5月1日至2017年7月31日)

第14期第2四半期(自2017年8月1日至2017年10月31日)

第14期第3四半期(自2017年11月1日至2018年1月31日)

第15期第1四半期(自2018年5月1日至2018年7月31日)

第15期第2四半期(自2018年8月1日至2018年10月31日)

第15期第3四半期(自2018年11月1日至2019年1月31日)

第16期第1四半期(自2019年5月1日至2019年7月31日)

第16期第2四半期(自2019年8月1日至2019年10月31日)

第16期第3四半期(自2019年11月1日至2020年1月31日)

④ 決算短信

2016年4月期 決算短信 [日本基準] (連結)

2017年4月期 決算短信 [日本基準] (連結)

2018年4月期 決算短信 [日本基準] (連結)

2019年4月期 決算短信 [日本基準] (連結)

2020年4月期 決算短信 [日本基準] (連結)

⑤ 四半期決算短信

2017年4月期第1四半期 決算短信 [日本基準] (連結)

2017年4月期第2四半期 決算短信 [日本基準] (連結)

2017年4月期第3四半期 決算短信 [日本基準] (連結)

2018年4月期第1四半期 決算短信 [日本基準] (連結)

2018年4月期第2四半期 決算短信 [日本基準] (連結)

2018年4月期第3四半期 決算短信 [日本基準] (連結)

2019年4月期第1四半期 決算短信 [日本基準] (連結)

2019年4月期第2四半期 決算短信 [日本基準] (連結)

2019年4月期第3四半期 決算短信 [日本基準] (連結)

2020年4月期第1四半期 決算短信 [日本基準] (連結)

2020年4月期第2四半期 決算短信 [日本基準] (連結)

2020年4月期第3四半期 決算短信 [日本基準] (連結)

⑥ 内部統制報告書

第12期(自2015年5月1日至2016年4月30日)

第13期(自2016年5月1日至2017年4月30日)

第14期(自2017年5月1日至2018年4月30日)

第15期(自2018年5月1日至2019年4月30日)

対象者が2020年9月30日に公表した「当社株式の監理銘柄（審査中）の指定に関するお知らせ」によれば、対象者において、2020年8月31日に第三者委員会の設置等について開示し、また、同年9月29日に開示した新規上場前からの不適切会計に関する第三者委員会の中間調査報告書を開示し、更に、同年9月30日に監査報告書の意見不表明について開示し、これらの開示及び東京証券取引所によるこれまでの審査の結果を受け、同年9月30日、東京証券取引所から、対象者が提出した新規上場申請及び上場市場の変更申請に係る宣誓書において宣誓した事項について重大な違反を行ったおそれがあると判断され、対象者株式は監理銘柄（審査中）に指定されたとのことです。更に、対象者が同日付で公表した「代表取締役の異動及び新経営体制に関するお知らせ」（以下「9月30日付対象者経営体制刷新プレスリリース」といいます。）によれば、対象者は、2020年9月28日付「第三者委員会の調査報告書（中間）受領及び公表に関するお知らせ」に記載のとおり、過去の不適切な会計処理の事実関係について、第三者委員会より調査報告書（中間）を受領し、再発防止策についての提言を含む第三者委員会からの最終的な報告書は、2020年10月末（予定）に提出されることを見込んでいたところ、当時の対象者代表取締役であった濱村氏より、第三者委員会の調査報告書（中間）を踏まえて、自身の経営責任を明確化するために代表取締役を辞任したい旨の申し出があり、また、当時の取締役であった柿内氏及び当時の取締役であった西野氏より、第三者委員会の調査報告書（中間）を踏まえて、自身の経営責任を重く受け止め、辞任の申し出があり、加えて、当時の社外取締役であった荻原俊彦氏より辞任の申し出があったため、対象者は、経営体制の刷新を行い（注2）、一日も早い信頼回復に向けて取り組むため、2020年9月30日開催の対象者取締役会において、代表取締役の異動について決議し、新しい経営体制の下で、2020年10月末受領予定の第三者委員会の最終的な報告書を踏まえて、再発防止に全力で取り組む所存であったとのことです（なお、同年9月11日に対象者の役職員を委員とする自主再生委員会を立ち上げ、再発防止策の検討を進めていたとのことです）。

（注2）経営体制の刷新の概要（2020年9月30日付）は以下のとおりです。詳細は、9月30日付対象者経営体制刷新プレスリリースをご参照ください。

役職	氏名		備考
代表取締役	川瀬 太志		取締役常務執行役員から代表取締役に就任
取締役	中山 史章		取締役執行役員から取締役として留任
取締役	福島 宏人		取締役執行役員から取締役として留任
社外取締役	赤井 厚雄	独立役員	留任
社外取締役	森田 正康	独立役員	留任
常勤監査役	大津 和行		留任
社外監査役	山本 泰功	独立役員	留任
社外監査役	坂田 真吾	独立役員	留任

その後、対象者が2020年10月26日に公表した「第三者委員会の最終調査報告書公表に関するお知らせ」及び「四半期レビュー報告書の限定付結論に関するお知らせ」によれば、第三者委員会より本不適切会計に関する最終調査報告書及び監査法人アリアより2021年4月期第1四半期の四半期連結財務諸表について限定付結論の四半期レビュー報告書を2020年10月26日に受領したとのことです。また、対象者が同日付で公表した「第17期第1四半期報告書の提出完了に関するお知らせ」及び「当社株式の監理銘柄（確認中）指定解除に関するお知らせ」によれば、対象者株式は、2020年10月9日付「第17期第1四半期報告書の提出遅延及び当社株式の監理銘柄（確認中）指定の見込みに関するお知らせ」に記載のとおり、対象者が金融商品取引法に定められた提出期限（2020年10月14日）までに四半期レビュー報告書を添付した第17期第1四半期報告書を提出できる見込みがない旨を開示したことにより、東京証券取引所より、2020年10月9日付で監理銘柄（確認中）に指定されておりました。

たが、同年10月26日、対象者が第17期第1四半期報告書を関東財務局に提出したことを受け、東京証券取引所より2020年10月27日付で対象者株式会社に対する監理銘柄（確認中）の指定を解除する旨の通知があったとのことです（なお、対象者株式会社は、2020年9月30日付で東京証券取引所より監理銘柄（審査中）に指定されており、東京証券取引所が上場廃止基準に該当するかどうかを認定した日まで、監理銘柄（審査中）の指定期間が継続するとのことです。）。

そして、対象者が2020年11月16日に公表した「代表取締役及び役員の変動並びに新経営体制に関するお知らせ」（以下「11月16日付対象者経営体制刷新プレスリリース」といいます。）によれば、対象者では、2020年9月30日付「代表取締役の変動及び新経営体制に関するお知らせ」に記載のとおり、第三者委員会の中間調査報告書を踏まえて、同日付で現経営体制（公表当時）に移行したとのことです。第三者委員会の最終調査報告書の指摘事項を踏まえて、2020年10月30日付「再発防止等に関するお知らせ」にて公表のとおり、社外取締役の拡充等により更なるガバナンスの強化を図るため、2020年12月23日開催予定の臨時株主総会において、新経営体制に移行することを決定したとのことです（注3）。

（注3）11月16日付対象者経営体制刷新プレスリリースによれば、臨時株主総会の終結をもって、当時の代表取締役であった川瀬氏及び同取締役であった中山氏は経営責任を明確化するため取締役を辞任し、また、同常勤監査役であった大津氏、同社外監査役山本泰功氏及び同社外監査役坂田真吾も監査役を辞任したとのことです。なお、当時の代表取締役であった川瀬氏及び同取締役であった中山氏は取締役を辞任後、執行役員に就任する予定であったとのことです。

役職	氏名		備考
代表取締役	福島 宏人		新任（現取締役）
取締役	矢部 智仁		新任
社外取締役	赤井 厚雄	独立役員	留任
社外取締役	森田 正康	独立役員	留任
社外取締役	川口 有一郎		新任
常勤監査役	朝倉 祐治		新任
社外監査役	辻 高史	独立役員	新任
社外監査役	青木 英憲	独立役員	新任
補欠監査役	丸山 聡		新任

対象者は、上記状況を解消すべく、2020年9月30日付で対象者経営体制刷新プレスリリースに記載のとおり、2020年9月30日付で当時の対象者代表取締役であった瀧村氏の代表取締役の辞任を含む経営体制の刷新を実施し、その後、2020年10月30日付「再発防止等に関するお知らせ」（以下「10月30日付対象者プレスリリース」といいます。（注4））に記載のとおり、更に社外取締役の拡充やガバナンスの強化を図るために2020年12月23日開催の臨時株主総会によって新経営体制に移行したとのことです。

（注4）対象者は、2020年10月30日開催の対象者取締役会において、大要、以下の再発防止策の方針について決議したとのことです。なお、対象者は、第三者委員会の最終調査報告書における再発防止策の提言並びに自主再生委員会より提言された内容を踏まえ、以下の方針に基づき、今後、具体的な再発防止策を策定し、実施するとのことでした。詳細は、当該公表文をご参照ください。

① 経営ガバナンス強化に向けた抜本的改革

- イ. 経営陣の刷新
- ロ. 取締役会の変革
- ハ. 監査役会の変革
- 二. 意思決定フローの明確化
- ホ. 中長期的企業価値向上をベースとした中期経営計画
- ② 各種業務処理統制の強化及び管理体制の増強
  - イ. 業務フローの再構築・改善
  - ロ. 業務管理部門の新設
  - ハ. 財務経理部門の強化
  - 二. 内部監査の強化
  - ホ. コンプライアンス体制の強化
  - ヘ. 内部通報制度の周知
- ③ 上場会社としての責任を念頭においた対象者役職員の意識改革
- ④ 旧経営陣の経営責任及び法的責任の明確化

これらを経て、対象者が2020年11月26日に公表した「監理銘柄（審査中）の指定解除、特設注意市場銘柄の指定、上場市場の変更（市場第一部からマザーズ市場への変更）及び上場契約違約金の徴求に関するお知らせ」（以下「11月26日付対象者プレスリリース」といいます。）によれば、対象者は、2020年11月27日付で東京証券取引所から監理銘柄（審査中）の指定が解除されること、特設注意市場銘柄に指定されること、上場市場を変更すること（2020年12月27日付で市場第一部からマザーズ市場への変更）及び上場契約違約金の徴求を受けることとなったとのことであり、上述のとおり特設注意市場銘柄に指定されたことを踏まえ、改善計画を策定する予定であるとのことです。その後、対象者が2021年3月30日に公表した「再発防止策等に関するお知らせ」によれば、対象者は、当該改善計画を策定し、2021年2月下旬を目処に開示する予定でしたが、2021年2月1日開催の対象者取締役会において設置が決議された第三者委員会による提言を踏まえた再発防止策も併せて盛り込んだ改善計画を策定し、今後、公表する予定であるとのことです。なお、特設注意市場銘柄に指定されていることから、上場廃止リスク（注5）があり、今後の対象者グループの対応等によっては、今後の対象者グループの事業活動や業績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があるとのことです（注6）。

（注5）特設注意市場銘柄指定期間は2020年11月27日から原則1年間とし、1年後に対象者から内部管理体制確認書を提出、東京証券取引所が内部管理体制等の審査を行い、内部管理体制等に問題があると認められない場合には指定が解除になるとのことです。一方で、内部管理体制等に問題があると認められる場合には、原則として上場廃止となるとのことです。但し、その後の改善が見込まれる場合には、特設注意市場銘柄の指定を継続し、6ヶ月間改善期間が延長されるとのことです。なお、特設注意市場銘柄指定中であっても内部管理体制等の改善見込みがなくなったと認められる場合には、上場廃止となるとのことです。

（注6）11月26日付対象者プレスリリースによれば、対象者は、東京証券取引所から以下の指摘を受けているとのことです。

上述の開示等を受け、以下の状況が明らかとなりました。

- ・ 対象者が、対象者株式の東京証券取引所マザーズ市場への新規上場申請及びその後の東京証券取引所本則市場への上場市場の変更申請において、東京証券取引所に提出する書類の記載に漏れがなく、かつ、すべて真実である旨の宣誓書を提出していたにもかかわらず、申請書類に虚偽の財務諸表を記載し、審査過程での照会に繰り返し虚偽の書面回答を行い、さらに報告すべき事項が追加発生した際もその報告を怠っていたこと

- ・ 一方で、本不適切会計による過年度決算の訂正規模は、通期売上高の最大訂正額でも17百万円の減額にとどまるなど、財務数値の虚偽の程度は限定的であり、新規上場及び市場変更に係る数値基準の未達もなかったと考えられること、また、訂正後の過年度の財務諸表に対する監査意見は意見不表明であるものの、第三者委員会の最終調査報告書の内容及び2021年4月期第1四半期の四半期連結財務諸表に対する四半期レビューが限定付結論であること等を踏まえると、訂正規模が大幅に拡大する可能性は相当程度低いと考えられること
- ・ 有限責任あずさ監査法人から誠実性に深刻な疑義ありと指摘され意見不表明の原因となった対象者元代表取締役社長をはじめ、本不適切会計に関与又は認識した対象者取締役及び監査役の全員が、2020年12月末までに対象者取締役及び監査役を辞任する見込みであること

以上を総合的に勘案すると、対象者が提出した新規上場申請及び上場市場の変更申請に係る宣誓書において宣誓した事項について、重大な違反を行ったとして上場廃止が相当であるとまでは認められないことから、対象者株式について、監理銘柄（審査中）の指定を解除することとする一方で、対象者が、新規上場申請及び上場市場の変更申請に係る宣誓書において宣誓した事項について違反していた背景として、主に以下の点が認められました。

- ・ 対象者では、対象者元代表取締役社長を含むほとんどの取締役が、上場審査をすり抜ける目的で本不適切会計について関与又は認識するなど、内部統制が無効化されていたこと
- ・ 対象者元代表取締役社長を始めとする取締役の一部は、新規上場審査及び市場変更審査において虚偽の回答をしたのみならず、本不適切会計の発覚後の段階においても、日本取引所自主規制法人に対する虚偽の説明や有限責任あずさ監査法人の監査手続の妨害といった隠蔽工作を行うなど、信頼性のある財務報告を行う意識や市場関係者に対する誠実性が著しく欠如していたこと
- ・ 対象者取締役会は、対象者元代表取締役社長等が参加する別の会議において実質的に決定された内容を追認する形で運営されるなど形骸化しており、取締役の業務執行に対する監督機能が十分に発揮されていなかったこと
- ・ 対象者常勤監査役は、本不適切会計の一部を認識していたにもかかわらずこれを是正する対応を行わないなど、監査役としての監視機能を果たしていなかったこと
- ・ 営業部門を牽制すべき財務経理部門が営業部門のサポート的な役割を担っていたほか自ら本不適切会計に関与するなど社員のコンプライアンス意識も欠如しており、また、稟議の形骸化や契約書の軽視が蔓延していたなど、本不適切会計の実行を可能とする土壌が生じていたこと

以上を総合的に勘案すると、対象者が内部管理体制の重大な不備により新規上場申請及び上場市場の変更申請に係る宣誓書において宣誓した事項について違反を行ったものであり、対象者の内部管理体制等については改善の必要性が高いと認められることから、対象者株式を特設注意市場銘柄に指定することとします。

また、上記のとおり、上場市場の変更申請に係る宣誓書において宣誓した事項について違反があり、当該違反に起因して特設注意市場銘柄に指定することから、対象者株式について、市場第一部からマザーズ市場へ上場市場の変更を行うこととします。

加えて、対象者が、新規上場審査及び市場変更審査において、申請書類に虚偽の財

務諸表を記載し、審査過程での照会に繰り返し虚偽の書面回答を行い、さらに報告すべき事項が追加発生した際もその報告を怠っていたことにより、宣誓書において宣誓した事項に違反した事実を踏まえると、東京証券取引所市場に対する株主及び投資者の信頼を毀損したと認められることから、対象者に対して、上場契約違約金の支払いを求めることとします。

その後、対象者が2020年12月15日に公表した「代表取締役の異動に関するお知らせ」によれば、当時の代表取締役であった川瀬氏が、2020年10月1日付で、所定の手続きを経ることなく独断で代表取締役の職務権限を超える金額の支払約定書に署名した可能性が判明し、当該事案については代表取締役としての忠実義務に違反していると判断したことから、代表取締役の異動について決議したとのことです。そして、対象者が2020年12月16日に公表した「新経営体制に関するお知らせ」によれば、対象者の前代表取締役である川瀬氏が同月15日付で取締役を辞任したため、11月16日付対象者経営体制刷新プレスリリースで公表した2020年12月23日開催予定の臨時株主総会以降の新経営体制予定の内容に一部変更が生じたとのことです。

また、12月22日付対象者プレスリリースによれば、対象者は、10月30日付対象者プレスリリースにて、過去の不適切な会計処理に関する再発防止策の方針を公表し、当該再発防止策の一環として、後述の旧経営陣の経営責任及び法的責任を検討する一方、旧経営陣の株主としての対象者への影響力も解消していくため、旧経営陣の持株比率を低下させることを試み、旧経営陣のうち濱村氏及び柿内氏との間でそれぞれ誓約書を締結し、同氏らが所有する対象者株式（濱村氏との間では濱村氏らが所有する対象者株式）を早期に処分するよう努めることに合意を取得したとのことです。

### （3）本公開買付けに係る重要な合意に関する事項

#### ① 本資本業務提携契約の概要

公開買付者は、対象者との間で、2021年4月14日に資本業務提携契約（以下「本資本業務提携契約」といいます。）を締結いたしました。本資本業務提携契約の概要は以下のとおりです。

#### （i）業務提携の内容

公開買付者及び対象者が本資本業務提携契約に基づき実施する業務提携の内容は次のとおりとする。

- （a）公開買付者及び対象者の共同によるエンドユーザーに向けた認知及び価値提供の拡大
- （b）住まいのワンストップサービスの提供によるユーザー満足度の向上
- （c）地域に根差したライフイベント事業の開発
- （d）対象者の会員企業向けの業務支援ツールの開発と収益基盤の拡大
- （e）グループ経営体制による内部管理体制の強化と効率的な経営の実現

#### （ii）本公開買付けに係る取締役会決議に関する事項

対象者は、本公開買付けに賛同する旨（但し、対象者の株主が応募するか否かについては中立とする。）の意見表明（以下「本賛同意見表明」といいます。）を行う。但し、公開買付け実務において十分な経験のある弁護士又は法律専門家からの助言を受けた上で本賛同意見表明を維持することが甲の取締役としての忠実義務違反又は善管注意義務違反を構成する可能性があると対象者の取締役会が合理的に判断する場合には、本賛同意見表明を撤回又は変更することができる。

#### （iii）本第三者割当増資に関する事項

対象者は、2021年4月14日開催の対象者取締役会において、大要下記の要領により、公開買

付者を割当予定先として、本第三者割当増資を実施することにつき承認決議を行う。

募集株式の種類及び数	普通株式 13,751,600 株
払込金額の総額	金 1,897,720,800 円 (対象者株式 1 株につき金 138 円)
払込期間	2021 年 5 月 25 日 (火曜日) から同年 6 月 30 日 (水曜日) まで
前提条件	有価証券届出書の効力の発生及び本資本業務提携契約に定める前提条件 (※) が満たされることを条件として、対象者は、公開買付者に対してその株式を割り当て、公開買付者はこれを引き受ける。

※ 公開買付者による当該株式に係る払込みの前提条件：

- (i) 対象者株式の上場維持が困難となる事実の不発生等、(ii) 重要な点において本資本業務提携契約上の義務が履行されていること、(iii) 本公開買付けの成立、(iv) 対象者の取締役会による本賛同意見表明の維持、(v) 対象者において法令等で必要とされる全ての手続の履践、(vi) 本取引を制限又は禁止する法令等又は司法・行政機関等の判断の不存在

#### (iv) 事前承諾事項

対象者は、以下の各号に記載する事項 (以下「本事前承諾事項」と総称する。) につき自ら又は対象者の子会社である株式会社アール・プラス・マテリアル、株式会社 HC マテリアル、株式会社ウェルハウジング及び株式会社 LH アーキテクチャ (以下「対象者重要子会社」と総称する。) における実施を決定又は承認する場合 (但し、対象者重要子会社における決定又は承認については、第 (a) 号、第 (d) 号、第 (e) 号、第 (h) 号及び第 (i) 号に限る。) は、事前にその詳細を公開買付者に対して書面により報告し、公開買付者の書面による事前の承諾を取得しなければならない。但し、公開買付者は、当該承諾を合理的な理由なく、遅滞、拒絶又は留保してはならない。

- (a) 株式、新株予約権の発行、処分又は割当て (但し、次項に規定する対象者グループの役員又は従業員に対する株式報酬としての株式等の発行又は処分を除く。)
- (b) 自己株式の買受
- (c) 代表取締役の選定又は解職
- (d) 事業の全部又は重要な一部の中止又は変更
- (e) 合併、株式交換、株式移転、吸収分割、吸収分割による他の会社とその事業に関して有する権利義務の全部若しくは一部の承継、新設分割、事業の全部若しくは重要な一部の譲渡若しくは譲受け
- (f) 事業計画の決定又は重要な部分の変更
- (g) 剰余金の配当
- (h) 公開買付者との業務提携と矛盾又は競合する第三者との業務提携契約の締結又は変更
- (i) 解散、清算、又は破産手続開始、会社更生手続開始、民事再生手続開始、特別清算開始若しくはその他の倒産手続開始の申立て

また、対象者は、公開買付者を、本第三者割当増資後開催される対象者の株主総会に係る基準日 (2021 年 4 月 30 日又はそれ以外に指定される増資に係る株式の払込完了前に設定される基準日) 後に株式を取得した株主として、本第三者割当増資により取得した株式につき、該当する対象者の株主総会における議決権を付与する。

公開買付者は、本取引完了日以降 3 年間、対象者の事前の書面による承諾なく (但し、対象者はかかる承諾を不合理に遅延、留保又は拒絶しない。)、(i) 公開買付者及び公開買付者の関

係会社の対象者株式の所有割合の合計が、本取引完了時点における当該所有割合から5%以上変動することとなる行為（対象者株式の取得（組織再編行為による承継を含む。）又は売却その他の処分を含むが、これらに限られない。）又は、(ii) 対象者グループを対象とする合併を行わず、かつ、公開買付者の関係会社をして行わせない。

(v) 取締役及びアドバイザー派遣に関する合意事項

公開買付者が、対象者の取締役を指名又は派遣する場合、当該候補者について事前に対象者と誠実に協議の上、当該取締役を指名又は派遣する。

公開買付者は、対象者からの合理的な要請に応じて、本取引の完了後、事業計画並びに、ガバナンス及び内部統制に関するアドバイザーとして公開買付者の役職員2名以内を対象者に派遣する。

(vi) 本資本業務提携契約の終了に関する事項

公開買付者又は対象者は、相手方に本資本業務提携契約上の義務につき違反があり、相手方に対して10営業日の猶予期間を付与してその是正を求めたものの、当該猶予期間内に相手方が違反を是正できなかったとき等の一定の事由が生じた場合、本資本業務提携契約を解除することができ、また、本公開買付けが成立しなかった場合には、本資本業務提携契約は終了する。

② 本応募契約の概要

公開買付者は、応募予定株主との間で、2021年4月14日付でそれぞれ公開買付応募契約を締結し、対象者の共同創業者であり2020年9月30日まで対象者の代表取締役社長であった濱村氏及び濱村氏が支配する資産管理会社である株式会社HAMAMURA HDが所有する対象者株式の合計3,422,080株（所有割合：14.66%）の全て、対象者の共同創業者であり2020年9月30日から同年12月15日まで対象者の代表取締役社長（2020年9月30日以前は対象者の取締役）であった川瀬氏が所有する対象者株式1,241,650株（所有割合：5.32%）の全て、及び対象者の共同創業者であり2020年12月23日まで対象者の常勤監査役であった大津氏が所有する対象者株式1,082,400株（所有割合：4.64%）の全てをそれぞれ本公開買付けに応募する（以下「本応募」といいます。）旨を合意しております。

本応募契約では、いずれの応募予定株主との契約においても、応募予定株主による応募の前提条件として、本公開買付けの開始日及び本応募を行う日において、(a) 公開買付者による表明及び保証（注1）が重要な点において真実かつ正確であること、(b) 公開買付者が本応募契約上の義務（但し、軽微なものを除く。）（注2）に違反していないこと、(c) 本公開買付けにおける売付けの申込みを禁止し又は制限する旨の法令等又は司法・行政機関等の判断等が存在せず、かつ、これらに関する手続が係属していないこと、(d) 対象者において本公開買付けに賛同する旨の取締役会決議がなされ、賛同意見が公表され、かつ、かかる賛同意見が変更又は撤回されていないことが定められております。なお、応募予定株主は、その任意の裁量により、これらの前提条件のいずれも放棄することができることとなっております。

また、応募予定株主は、本公開買付けの決済の開始日以前を基準日とする対象者の株主総会において、(a) 公開買付者の指示に従って、応募予定株主の所有する応募予定株式に係る議決権を行使する義務、及び(b) 株主提案を行わない義務を負うとともに、(c) 公開買付期間中、第三者との間で対象者株式又は新株予約権を対象とする公開買付けの実施その他の本公開買付けと競合等のおそれのある行為に関する提案又は勧誘を行わず、第三者からかかる行為に関する提案又は勧誘を受けた場合には、速やかに買付者に対しその事実及び内容を通知すること、(d) 契約締結日から2年を経過する日までの間、一定の場合を除き、対象者の従業員に対し、勧誘、退職の勧奨その他の働きかけを行わないこと、(e) 本公開買付けにおいて法令等上必要となる書面を作成し、かつ、手続きを実施することを合意しております。

なお、株式会社HAMAMURA HDは、2021年2月22日付で株式会社みずほ銀行との間で締結した、株

株式会社HAMAMURA HDを質権設定者とし、濱村氏を債務者とする有価証券担保設定契約に基づき、その所有する対象者株式1,200,000株について設定した質権について、本応募を行う時点までに消滅させることが義務付けられております。

応募予定株主等及び公開買付者は、公開買付期間中においては、(a)相手方が公開買付けに係る契約において行った表明保証が重要な点において真実かつ正確でなかった場合、(b)相手方が公開買付けに係る契約上の重大な義務に違反した場合、(c)公開買付けに係る契約に記載される自身に係る前提条件が充足されないことが確定した場合、(d)対象者又は相手方について、破産手続等の開始がなされた場合、及び、(e)対象者又は相手方が支払停止等となった場合は、公開買付けに係る契約を解除することができます。

(注1) 公開買付者は、本応募契約において、本応募契約締結日、本公開買付けの開始日及び本公開買付けの決済日において、(a) 公開買付者が適法に設立され有効に存続していること、(b) 本応募契約の締結及び履行につき社内承認等の手続を履践していること、及び(c) 反社会的勢力との関係の不存在に関する事項を表明及び保証しています。

(注2) 公開買付者の本応募契約上の義務としては、(a) 損害等の補償義務、(b) 守秘義務、及び(c) 本応募契約上の地位又は権利義務の譲渡禁止が存在します。なお、応募予定株主も同一の義務を追っております。

#### (4) 本公開買付価格の公正性を担保するための措置及び利益相反を回避するための措置等、本公開買付けの公正性を担保するための措置

本日現在において、公開買付者は、対象者株式を所有しておらず、本公開買付けは、支配株主による公開買付けには該当いたしません。また、対象者の経営陣の全部又は一部が公開買付者に直接又は間接に出資することは予定されておらず、本公開買付けを含む本取引は、いわゆるマネジメント・バイアウト取引にも該当いたしません。もっとも、公開買付者及び対象者は、本公開買付価格を含む本取引の公正性担保につき慎重を期し、対象者の一般株主の皆様の利益を保護する観点から、以下の措置を実施しております。なお、以下の記載のうち、対象者において実施した措置については、対象者から受けた説明に基づくものです。

##### ① 公開買付者における独立した第三者算定機関からの株式価値算定書の取得

公開買付者は、本公開買付価格を決定するにあたり、公開買付者、対象者及び応募予定株主から独立した第三者算定機関である東京フィナンシャル・アドバイザーズ株式会社（以下「東京FA」といいます。）に対して、対象者の株式価値の算定を依頼し、2021年4月14日付で株式価値算定書（以下「本株式価値算定書」といいます。）を取得して参考にいたしました。なお、公開買付者は、東京FAから本公開買付価格の公正性に関する意見書（フェアネス・オピニオン）を取得しておりません。なお、東京FAは、公開買付者及び対象者の関連当事者には該当せず、本公開買付けを含む本取引に関して重要な利害関係を有しておりません。詳細につきましては、下記「2. 買付け等の概要」の「(4) 買付け等の価格の算定根拠等」の「① 算定の基礎」及び「② 算定の経緯」をご参照ください。

##### ② 対象者における外部の法律事務所からの助言

対象者プレスリリースによれば、対象者は、本公開買付けに関する対象者取締役会の意思決定の公正性及び適正性を担保するため、公開買付者、対象者及び応募予定株主から外部の法務アドバイザーとして、森・濱田松本法律事務所を選任し、本公開買付けに関する対象者取締役会の意思決定の過程、方法その他の本公開買付けに関する意思決定にあたっての留意点に関する法的助言を受けているとのこと。

##### ③ 対象者における利害関係を有しない取締役全員による決議及び監査役全員による異議のない旨の意見

対象者プレスリリースによれば、対象者は本取引の実施を通じて、公開買付者が対象者の議決権の過半数を取得して対象者を公開買付者の連結子会社とすることで、公開買付者と対象者との間で安定的かつ強固な関係を構築することが、対象者の財務基盤の強化及びガバナンスの強化を可能にするるとともに、対象者の収益力の強化については対象者の企業価値向上に資するとの判断に至ったことから、2021年4月14日開催の対象者取締役会において、本公開買付けに係る審議が実施され、本公開買付けに賛同する旨の意見を表明することを決議したとのことです。

また、対象者は、本公開買付価格（138円）については、本公開買付けが、応募予定株主から、応募予定株主が所有する対象者株式を、本公開買付けの実施についての公表日の前営業日である2021年4月13日の対象者株式の東京証券取引所マザーズ市場における終値153円より10%ディスカウントした価格から1円未満を切上げた価格（138円）で取得することを目的としたものであり、対象者の一般株主の皆様への売却を予定しているものではないこと、また、本公開買付けには買付予定数に上限が設定され、本公開買付け後も引き続き対象者株式の上場を維持していく方針であることから、対象者株主が本公開買付けに応募するか否かについては、中立の立場を取り、対象者株主の判断に委ねるべきとの判断に至ったことから、対象者取締役会において全ての取締役が本公開買付けに係る審議に参加し、参加した取締役の全員の一致により、その旨を決議したとのことです。

また、上記の取締役会には、対象者の監査役3名（うち社外監査役3名）全員が本公開買付けに係る審議に参加し、上記各決議につき異議なく賛同する旨の意見を述べたとのことです。

#### (5) 本公開買付け後の対象者の株券等の取得予定

対象者有価証券届出書等によれば、対象者は、2021年4月14日開催の対象者取締役会において、本第三者割当増資について決議しているとのことです。本第三者割当増資の概要は以下のとおりです（本第三者割当増資の詳細は、対象者有価証券届出書等をご参照ください。）。

##### (i) 募集の概要

(a) 払込期間	2021年5月25日から2021年6月30日まで
(b) 募集株式	募集株式数 13,751,600株
(c) 発行価額	普通株式1株につき金138円
(d) 調達資金の額	1,897,720,800円
(e) 募集又は割当の方法	第三者割当の方法によります。 (公開買付者 13,751,600株)
(f) その他	上記各号については、金融商品取引法による届出の効力発生を条件とします。

##### (ii) 調達する資金の額

(a) 発行金額の総額	1,897百万円（想定）
(b) 発行諸費用の概算額	27百万円
(c) 差引手取概算額	1,870百万円

##### (iii) 調達する資金の具体的な用途

具体的な用途	金額（百万円）	支出予定時期
(a) 全社・グループ間におけるガバナンス体制の再構築及び強化	500	2021年6月～2024年4月
(b) 財務基盤の強化	870	2021年7月～2024年4月
(c) DX強化のためのWeb事業の構築、新規ツールの開発	500	2021年6月～2024年4月
合計	1,870	

なお、調達する資金の具体的な資金使途の概要は以下のとおりとのことです。

(a) 全社・グループ間におけるガバナンス体制の再構築及び強化 (500 百万円)

対象者グループでは、本不適切会計が判明し、その後、2020年9月28日に第三者委員会から調査報告書を受領し、2020年9月30日、2016年3月2日提出に係る有価証券届出書、2016年4月期から2019年4月期の有価証券報告書並びに、2017年4月期の第1四半期から2020年4月期の第3四半期までの四半期報告書に関する訂正報告書を提出したとのことです。また、東京証券取引所より2020年11月27日に特設注意市場銘柄の指定及び東京証券取引所市場第一部からマザーズ市場への変更の指定を受けたとのことです。今後、上記「②本公開買付けの実施を決定するに至った背景、目的及び意思決定の過程」の「(a) 公開買付者グループの概要」に記載のとおり、経営ガバナンス強化に向けた抜本的改革、業務処理統制の強化及び管理体制の増強、上場会社としての対象者の役職員の意識改革を含む改善計画を策定する予定とのことです。対象者においては、かかる状況を踏まえ、経営ガバナンス強化に向けた抜本的改革として、2020年9月30日に経営体制を刷新し、さらに社外取締役の拡充やガバナンスの強化を図るために2020年12月23日開催の臨時株主総会によって新経営体制に移行したとのことです。また、新経営体制の下、経営ガバナンス強化に向けた抜本的改革、業務処理統制の強化及び管理体制の増強、上場会社としての対象者の役職員の意識改革を含む再発防止の実行を主導するリスタート委員会を立ち上げたとのことです。特設注意銘柄の指定解除には内部管理体制等の改善が必要であるため、内部管理体制を早急に再構築し、1年以内での特設注意市場銘柄の指定解除を目標として、株主・取引先等の皆様からの信頼回復に向けて全社一丸となって取り組んでいるとのことです。

他方で、公開買付者グループでは、統制環境の整備、強化、見直しなどグループコンプライアンス体制の強化に向けた取組みを継続して行っており、本取引により対象者が公開買付者の連結子会社となることで、公開買付者が行っている取組みを踏まえて対象者のガバナンス体制を再構築することは、対象者における特設注意市場銘柄の指定解除にも寄与するものと考えております。

さらに、対象者グループでは、グループ含めて内部管理体制を強化するために管理部門の大幅な強化を行う予定であり、そのための費用として、本第三者割当増資により調達した資金のうち、本社及びグループ各社に係る管理部門の採用費用及び人件費、社内管理システム構築・改良費用、及びガバナンス体制強化のために必要な外部アドバイザーを起用するための費用として、500百万円を充当する予定とのことです。

(b) 財務基盤の強化 (870 百万円)

対象者グループでは、本不適切会計が判明し、対象者が、2020年7月28日に公表した「当社における不適切な会計処理に係る特別調査委員会の設置に関するお知らせ」及び2020年9月30日に公表した「第16期有価証券報告書の提出、並びに過年度の有価証券報告書等、決算短信等の訂正に関するお知らせ」のとおり、対象者グループにおいて、本不適切会計が行われていたとのことです。その結果、第三者委員会による調査費用及び第三者委員会の調査を踏まえた追加監査に対する監査費用等が発生したことにより第17期第3四半期連結累計期間において、訂正関連費用引当金繰入額として671百万円を特別損失に計上したとのことです。その調査費用及び監査費用等の支払いのため、短期借入金が増加し財務状況が悪化しており、2021年1月31日現在で、当座貸越残高が700百万円となっているとのことです。

本第三者割当増資により調達した資金を当該当座貸越の返済資金として充当するとともに手元運転資金を確保することで財務基盤の強化を図っていくとのことです。

(c) DX強化のためのWeb事業の構築、新規ツールの開発 (500 百万円)

対象者グループでは、業界のノウハウを分析、標準化し、地域工務店、不動産会社及び建設会社に対して、例えば「R+house」等のブランドを使って営業・販売するために必要なシステム、

ノウハウ、営業ツールなどをパッケージ化した商品を提供しているとのことです。

対象者グループの収益は、サービス導入時に発生する「初期導入フィー」、毎月発生する「会費」及び導入サービスの成果報酬である「ロイヤルティ等」に大別されるとのことです。近年は、会員企業（顧客）の成長、ひいては対象者グループの成長につながる「ロイヤルティ等」の収益拡大に注力しているとのことです。

主力の「R+house」事業においては、モデルハウスの自社展開、技術本部機能の内製化によるノウハウ開発力の強化、ブランド形成のための広告宣伝費の投下など、積極的な投資を行ってきたとのことです。もっとも、対象者の主力ブランドである「R+house」等のエンドユーザーの認知度は未だ十分であるとはいえ、認知度の向上に向けて更にWeb事業の強化を行うことが、対象者の企業価値の向上のために必要であると考えているとのことです。

そのため、「R+house」事業等のブランド強化に向け、従前の広告活動と並行して、本取引により対象者が公開買付者の連結子会社となることで、公開買付者グループが保有するメディア運営及びインターネットサービスのノウハウを活用することで、住まいを検討するエンドユーザーとのチャンネルの創出を通じ、「R+house」事業等の高性能住宅に対するエンドユーザーの認知度の向上を図る予定とのことです。

また、対象者グループでは、会員企業の収益成果創出に向け、積極的にITの活用を進めており、営業活動プロセスの効率化（集客や歩留まりの改善）や社員教育の効率化、顧客管理や原価管理等の効率化を支援するシステムの提供を行っているとのことです。

対象者は、これまで会員企業からの多様化・高度化するニーズに応えるため、システムの機能追加・バージョンアップに加え、様々な新しい商品・サービスの企画・開発に、継続的に注力してきたとのことです。

対象者は、2020年2月以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、戸建住宅ニーズの増加や、テレワークスペースなど「新しい生活様式」に対応する建築プランの提案など、住宅・不動産業界に求められる商品・サービスなどのニーズが多様化していると考えているとのことです。

そのため、今後は、既存の商品・サービスの充実に加え、テレワークや新たな生活スタイルに対応した新商品の開発及び展開と併せて、住宅・不動産業務のデジタルトランスフォーメーション（DX）についても、積極的に取り組み、会員企業への付加価値の提供、新規会員の獲得を図り、これらを通じて会員企業の収益性の向上を図ることにより、対象者グループの収益基盤の多様化、充実を図っていくとのことです。またその一環として、本取引により対象者が公開買付者の連結子会社となることで、対象者において、公開買付者グループが保有する接客支援ツールなどのユーザーとのコミュニケーションツールを活用することが可能となり、会員企業向けにかかる新たなツールを開発・リリースすることにより、会員企業に従来以上の高付加価値サービスを提供し、また、ユーザーとのコミュニケーション業務の効率化を行っていくとのことです。

上記の費用として、本第三者割当増資により調達した資金のうち、エンドユーザー向けの「R+house」事業等のWeb強化費用、DX推進のための新規ツールの開発費用及びフィナンシャルプランニングやアフターメンテナンスのための既存システムの改良等に500百万円を充当する予定です。

公開買付者は、本第三者割当増資に関して、本公開買付けが成立した場合には、本公開買付けの結果を確認した上で、最大発行株数13,751,600株（本公開買付けにおいて応募株券等の総数が5,746,130株であった場合）の範囲において発行される、本第三者割当増資における公開買付者に対する募集株式の数の範囲内で、本取引後において公開買付者が所有することとなる対象者株式の合計数の増資後完全希薄化ベース株券等所有割合が最大50.10%を超えない株式数について払込みを行う予定です。他方、公開買付者は、本公開買付けが成立しなかった場合には、本第三者割当増資に係る払込みの全部を行わない予定です。そのため、公開買付者は、本公開買付けの結果に応じて、本第三者割当増資における公

開買付者に対する募集株式の数として対象者が決議した株式数（13,751,600株）のうち全部又は一部について払込みを行わない可能性があります。なお、対象者有価証券届出書等によれば、対象者は、本公開買付けの結果、上記の発行金額の総額に満たなかった場合には、金融機関からの借入れや公募増資や株主割当による資本市場からの資金調達により、支払予定時期が到来したものから、資金を充当することを予定しているとのことですが、特に上記の表のうち優先度の高い①全社・グループ間におけるガバナンス体制の再構築及び強化 235 百万円（管理部門の採用費用及び人件費、及びガバナンス体制強化のために必要な外部アドバイザーを起用するための費用）、②財務基盤の強化 300 百万円（当座貸越の返済資金）、③DX 強化のための Web 事業の構築、新規ツールの開発 190 百万円（エンドユーザー向けの「R+house」等の Web 強化費用、及びフィナンシャルプランニングやアフターメンテナンスのための既存システムの改良）について、優先的に資金を充当していくことを予定しているとのこと。

また、上記「(1) 本公開買付けの概要」に記載のとおり、本公開買付けが成立し、公開買付者が本第三者割当増資により対象者株式を取得する場合には、本取引により、公開買付者は、会社法（平成 17 年法律第 86 号。その後の改正を含み、以下「会社法」といいます。）第 206 条の 2 第 1 項に規定する特定引受人に該当する可能性があります。この点、対象者有価証券届出書等によれば、2021 年 4 月 14 日開催の対象者取締役会において、監査役 3 名（うち社外監査役 3 名）全員は、本第三者割当増資を実施し、対象者が資金調達をすることにより、対象者の経営ガバナンス及び財務基盤を強化しつつ、本資本業務提携を通じてシナジーを創出することが、対象者の収益拡大及び企業価値の向上に資することとなると判断することに不合理な点はないこと、本払込金額は、日本証券業協会の「第三者割当増資の取扱いに関する指針」（2010 年 4 月 1 日付）に準拠したものであり、会社法第 199 条第 3 項に規定する「特に有利な金額」には該当しないこと、また、本第三者割当増資は金融機関等からの借入れと異なり財務基盤の安定化につながり、株式の希薄化の規模が合理的であることを踏まえ、対象者及び対象者の株主への影響という観点からみて相当であること、その他法令上必要な手続が行われていることを踏まえて、会社法第 206 条の 2 第 1 項に規定する特定引受人に該当する公開買付者に対する本第三者割当増資による対象者株式の割当ては、適法かつ相当である旨の意見を表明しているとのこと。なお、当該監査役の意見の詳細については、対象者有価証券届出書等をご参照ください。

#### (6) 上場廃止となる見込み及びその事由

対象者株式は、本日現在、東京証券取引所マザーズ市場に上場されておりますが、本公開買付けは対象者株式の上場廃止を企図するものではなく、公開買付者は、買付予定数の上限を 12,608,200 株（所有割合:54.01%。また、上記「(5) 本公開買付け後の対象者の株券等の取得予定」に記載のとおり、本公開買付けが成立し、かつ、本第三者割当増資の払込みが完了した場合においても、本取引後において公開買付者が所有することとなる対象者株式の合計数の増資後完全希薄化ベース株券等所有割合は最大で 50.10%）と設定しているため、本公開買付け後も対象者株式の東京証券取引所マザーズ市場における上場を維持する方針です。

## 2. 買付け等の概要

### (1) 対象者の概要

① 名 称	ハイアス・アンド・カンパニー株式会社
② 所 在 地	東京都品川区上大崎二丁目 24 番 9 号
③ 代表者の役職・氏名	代表取締役 福島 宏人
④ 事 業 内 容	経営コンサルティング事業（住宅・建設・不動産事業のナレッジ開発、財産コンサルティング事業、販売促進支援事業など）
⑤ 資 本 金 (2021 年 1 月 31 日現在)	4 億 3,347 万円
⑥ 設 立 年 月 日	2005 年 3 月 31 日
⑦ 大株主及び持株比率	濱村 聖一 9.47%

(2020年10月31日現在)	柿内 和徳	6.22%
	川瀬 太志	5.28%
	株式会社HAMAMURA HD	5.14%
	株式会社安成工務店	5.13%
	大津 和行	4.63%
	東新住建株式会社	3.08%
	ハイアス・アンド・カンパニー株式会社 従業員持株会	3.00%
	JPMBL RE NOMURA INTERNATIONAL PLC 1 COLL EQUITY (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	2.98%
	中山 史章	2.62%

⑧ 上場会社と対象者の関係

資 本 関 係	該当事項はありません。
人 的 関 係	該当事項はありません。
取 引 関 係	該当事項はありません。
関 連 当 事 者 へ の 該 当 状 況	該当事項はありません。

⑨ 対象者の最近3年間の連結経営成績及び連結財政状態

決 算 期	2018年4月期	2019年4月期	2020年4月期
連 結 純 資 産	1,031,086千円	1,347,992千円	1,291,522千円
連 結 総 資 産	2,540,285千円	3,864,681千円	3,898,817千円
1株当たり連結純資産	45.91円	57.68円	54.34円
連 結 売 上 高	4,660,995千円	6,099,730千円	7,913,602千円
連 結 営 業 利 益	365,777千円	426,377千円	184,410千円
連 結 経 常 利 益	363,082千円	424,032千円	174,428千円
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	200,963千円	234,423千円	17,245千円
1株当たり連結当期純利益	8.98円	10.41円	0.75円
1株当たり配当金	5.33円	3.40円	3.80円

(注)「大株主及び持株比率」における持株比率の記載は、対象者が2020年12月15日に提出した第17期第2四半期報告書の「大株主の状況」より引用しております。

(2) 日程等

① 日程

取 締 役 会 決 議 日	2021年4月14日(水曜日)
本資本業務提携契約締結日	2021年4月14日(水曜日)
公 開 買 付 開 始 公 告 日	2021年4月15日(木曜日) 電子公告を行い、その旨を日本経済新聞に掲載します。 (電子公告アドレス <a href="https://disclosure.edinet-fsa.go.jp/">https://disclosure.edinet-fsa.go.jp/</a> )
公 開 買 付 届 出 書 提 出 日	2021年4月15日(木曜日)
払 込 期 間	本第三者割当増資に関する払込期間は、2021年5月25日(火曜日)から同年6月30日(水曜日)まで。 なお、公開買付者による本第三者割当増資の払込みは、決済の開始日(2021年5月25日)に実施する予定です。(但し、公開買付期間が延長された場合には、延長後の決済の開始日を予定しています。)

② 届出当初の買付け等の期間

2021年4月15日（木曜日）から2021年5月18日（火曜日）まで（20営業日）

③ 対象者の請求に基づく延長の可能性

法第27条の10第3項の規定により、対象者から公開買付け期間の延長を請求する旨の記載がされた意見表明報告書が提出された場合は、公開買付け期間は、2021年6月1日（火曜日）まで（30営業日）となります。

(3) 買付け等の価格

普通株式1株につき、138円

(4) 買付け等の価格の算定根拠等

① 算定の基礎

公開買付者は、公開買付け価格を本公開買付けの実施についての公表日の前営業日である2021年4月13日の対象者株式の東京証券取引所マザーズ市場における終値又は同日までの過去6ヶ月間の終値の単純平均値のいずれか低い価格から10%ディスカウントした価格とすることを基本的な考え方として対象者及び応募予定株主との協議・交渉を行い、上記「1. 買付け等の目的」の「(2) 本公開買付けの実施を決定するに至った背景、目的及び意思決定の過程並びに本公開買付け後の経営方針」に記載のとおり、対象者及び応募予定株主から本第三者割当増資の払込金額により応募予定株主が応募することの合意を得ております。公開買付者としては、公開買付け価格の最終決定を2021年1月中旬から2021年4月上旬の間に実施した対象者に対するデュー・ディリジェンスの結果、対象者取締役会による本公開買付けへの賛同の可否、対象者株式の市場株価の動向及び本公開買付けに対する応募の見通し等を総合的に勘案し、対象者及び応募予定株主との協議・交渉の結果等も踏まえ、更に株式価値算定書の取得後、その内容を確認の上判断することといたしました。

公開買付者は、本公開買付け価格を決定するにあたり、公開買付者、対象者及び応募予定株主から独立した第三者算定機関として東京FAに対して、対象者株式の株式価値の算定を依頼いたしました。なお、東京FAは、公開買付者、対象者及び応募予定株主の関連当事者には該当せず、本公開買付けに関して、重要な利害関係を有しておりません。

東京FAは、複数の株式価値算定手法の中から対象者株式の株式価値の算定にあたり採用すべき算定手法を検討のうえ、対象者が東京証券取引所マザーズ市場に上場しており、市場株価が存在することから市場株価法を、また、将来の事業活動を評価に反映するためにDCF法の各手法を用いて対象者株式の株式価値の算定を行い、公開買付者は東京FAから2021年4月14日付で対象者株式の株式価値に関する本株式価値算定書を取得しました。なお、東京FAによれば、株式価値算定手法のうち過去事例で多く用いられている類似会社比較法については、上記「1. 買付け等の目的」の「(2) 本公開買付けの実施を決定するに至った背景、目的及び意思決定の過程並びに本公開買付け後の経営方針」の「① 本公開買付けの実施を決定するに至った背景、目的及び意思決定の過程」に記載のとおり、対象者が置かれた特殊な状況に鑑みて、対象者株式の価値算定は馴染まないと判断したため採用していないとのこと。また、公開買付者は東京FAから、本公開買付け価格の妥当性に関する意見（フェアネス・オピニオン）を取得しておりません。

東京FAによる対象者株式の1株当たり株式価値の算定結果は以下のとおりです。

市場株価法： 153円～159円

DCF法： 133円～163円

市場株価法では、算定基準日を2021年4月13日として、東京証券取引所マザーズ市場における対

象者株式の算定基準日の終値 153 円、直近 1 ヶ月間（2021 年 3 月 15 日から 2021 年 4 月 13 日まで）の終値の単純平均値 154 円、直近 3 ヶ月間（2021 年 1 月 14 日から 2021 年 4 月 13 日まで）の終値の単純平均値 153 円及び直近 6 ヶ月間（2020 年 10 月 14 日から 2021 年 4 月 13 日まで）の終値の単純平均値 159 円を基に、対象者株式 1 株当たりの株式価値の範囲を 153 円から 159 円までと算定しております。

DCF 法では、対象者から提出された事業計画（2021 年 4 月期から 2023 年 4 月期の 3 年分）に基づき、営業利益（E B I T）から営業利益ベースでの法人税を控除した税引後営業利益（NOPLAT）に減価償却費の増減、運転資本増減額及び設備投資額を加味したものをフリー・キャッシュ・フローとして定義しております。当該事業計画は大幅な増益を見込んでいる事業年度が含まれており、具体的には、対象者が 2020 年 6 月 15 日に公表した「中期経営計画策定 に関するお知らせ」に記載のとおり、2021 年 4 月期から 2023 年 4 月期までを拡大期として、これまで提供してきた商品・サービスのさらなる強化を図り、2023 年 4 月期において営業利益 10 億円超の達成を目指すとのことです（対象者が 2020 年 10 月 26 日に公表した 2021 年 4 月期第 1 四半期 決算短信によれば 2021 年 4 月期の営業利益は 3.8 億円が見込まれるとのことです）。当該事業計画の経営数値目標を参考に、直近までの業績の動向、公開買付者が 2021 年 1 月中旬から 2021 年 4 月上旬の間に対象者に対して行ったデュー・ディリジェンスの結果、想定されるシナジー、一般に公開された情報等の諸要素を考慮して公開買付者において調整を行った対象者の将来の収益予想に基づき、対象者が 2021 年 4 月期第 3 四半期以降において創出すると見込まれるフリー・キャッシュ・フローを、一定の割引率で現在価値に割引くことにより、対象者の企業価値や株式価値を算定し、対象者株式の 1 株当たりの株式価値の範囲を、133 円から 163 円までと算定しております。

公開買付者は、東京 F A から取得した本株式価値算定書の算定結果に加え、公開買付者において 2021 年 1 月中旬から 2021 年 4 月上旬の間を実施した対象者に対するデュー・ディリジェンスの結果、対象者取締役会による本公開買付けへの賛同の可否、対象者株式の市場株価の動向、本公開買付けに対する応募の見通し、及び、本株式価値算定書の算定結果において市場株価法による算定結果の下限は下回るものの、DCF 法による算定結果の範囲内に収まっていること等を総合的に勘案し、対象者及び応募予定株主との協議・交渉の結果等も踏まえ、本第三者割当増資の払込金額により応募予定株主が応募することの合意を得られた価格として、最終的に 2021 年 4 月 14 日の取締役会において、本公開買付け価格を 1 株当たり 138 円とすることを決議いたしました。

本公開買付け価格（138 円）は、本公開買付けの実施についての公表日の前営業日である 2021 年 4 月 13 日の対象者株式の東京証券取引所マザーズ市場における終値 153 円に対して 9.80%（小数点第三位以下を四捨五入しております。以下、ディスカウント率の計算において同じです。）、同日までの過去 1 ヶ月間の終値の単純平均値 154 円（小数点以下を四捨五入。以下、終値単純平均値について同じです。）に対して 10.39%、同日までの過去 3 ヶ月間の終値の単純平均値 153 円に対して 9.80%、同日までの過去 6 ヶ月間の終値の単純平均値 159 円に対して 13.21%のディスカウントをした価格となります。

## ② 算定の経緯

公開買付者は、公開買付者の目指すサービスの付加価値をより高めていくために、対象者のような全国の工務店にネットワークを持つサービス提供事業者との連携を、対象者と面談する以前より模索しており、公開情報を中心に対象者の事業についても認識しておりました。公開買付者は、対象者が 2020 年 12 月 15 日に公表した「代表取締役の異動に関するお知らせ」及び 2020 年 12 月 16 日に公表した「新経営体制に関するお知らせ」を受け、公開買付者の新たな事業パートナー候補として新体制となった対象者との連携の可能性を検討するため、対象者のリーガル・アドバイザーである森・濱田松本法律事務所を通して、対象者へ面談の申し入れを行いました。その後、12 月 22 日付対象者プレスリリースから、公開買付者は対象者が過去の不適切な会計処理に関する再発防止の一環として旧経営陣の影響力の解消のため、旧経営陣が所有する対象者株式について市場外相対取引を前提に複数の事業会社と協議を進める方針であることを知り、2020 年 12 月 25 日に対象者と初めて面談を行った際

に、対象者の事業について理解を深めるとともに、2021年1月13日に再度対象者と面談を行った際に、対象者におけるガバナンスの強化及び公開買付者との事業上のシナジーによる企業価値向上を目指した資本業務提携により、対象者の注文住宅販売に係るノウハウや、全国の約1,400社に及ぶ会員企業とのネットワークを活用することによる公開買付者グループのユーザーに向けたサービスの多様化が期待できるとの考えに至りました。その後、2021年1月中旬から同年3月上旬にかけて、公開買付者と対象者との間で複数回に亘って協議を行い、公開買付者は、柔軟かつ戦略的な施策を迅速に実施していく業務提携を実現すること及び、対象者が上場を維持したまま、特設注意市場銘柄の指定の解除に至るためには、対象者の内部管理体制に係る課題の改善が急務であると認識し、旧経営陣の影響力を早期に排することが必要不可欠であると共に、対象者の自主的な再建を尊重しつつ、より強固なガバナンスの強化を図るためには持分法適用や非公開化ではなく、対象者の議決権の過半数を取得して対象者を公開買付者の連結子会社とすることを前提とすべきと判断し、対象者の議決権の過半数を取得して対象者を公開買付者の連結子会社とすることにより、厳しい競争環境にある住宅・不動産市場動向やユーザーニーズの変化に対して適時適切に対処していくための迅速な意思決定が実現できるのではないかと考えました。公開買付者は、対象者に対し、2021年3月上旬、正式に旧経営陣の所有する対象者株式を可能な限り、公開買付けで取得し、第三者割当増資と共に、対象者の議決権の過半数の取得を前提とした資本業務提携の可能性について検討してほしい旨を打診し、対象者においても2021年3月上旬に公開買付者の提案を受諾することで考えが一致いたしました。

対象者は内部管理体制の改善を急務としており、12月22日付対象者プレスリリースのとおり、本不適切会計に関する再発防止策の一環として、旧経営陣の経営責任及び法的責任を検討する一方、旧経営陣の株主としての対象者への影響力を解消するため、旧経営陣の持株比率を低下させることを試み、旧経営陣のうち対象者の前々代表取締役であった濱村氏及び2020年9月30日まで対象者の取締役であった柿内氏との間で、それぞれ誓約書を締結し、同氏らが所有する対象者株式（濱村氏の間では濱村氏らが所有する対象者株式）を早期に処分するよう努める旨の合意をしており、対象者としては、市場外相対取引による処分が可能となるよう複数の事業会社と協議を進め、早期に濱村氏ら及び柿内氏の持株比率の低下が実現できるよう努めていく方針であったとのことです。かかる方針から、対象者は、濱村氏ら以外の旧経営陣の同意を得られなくとも、濱村氏らの所有する対象者株式を譲渡できれば、少なくとも最低限の目的を達成できるとして、公開買付者に対し、まずは対象者の主要株主兼筆頭株主であり、前々代表取締役であり、対象者が本取引を進めることに対して協力的であった濱村氏らの所有する対象者株式につき可能な限り取得することが最優先事項として提示したとのことです。また、対象者には、共同創業者の一人である濱村氏らが本公開買付けに応じた場合、他の旧経営陣への説明も容易になるとの考えがあったとのことです。対象者からのかかる提示を受け、公開買付者は、2021年3月中旬より、対象者とは別に、濱村氏らとの間で複数回の協議を行い、対象者との資本業務提携に関する基本方針を説明するとともに、公開買付者が対象者株式を過半数取得することの是非及び濱村氏らの所有する対象者株式の譲渡等について交渉を行いました。2021年3月下旬、公開買付者は、本第三者割当増資における引受価格と同一価格にて本公開買付けを実施する予定であることを濱村氏に説明いたしました。濱村氏らは、2021年4月上旬、対象者が前向きに交渉を進めている公開買付者が実施予定の本公開買付けに応募することで対象者に協力したいとの意思を表明しました。2021年4月上旬、本公開買付価格について濱村氏らに打診し、本公開買付価格については、本第三者割当増資における引受価格と同一で、市場株価から一定のディスカウントを行った価格とし、本応募契約に合意する旨の意思を確認いたしました。次に、濱村氏らとの当該交渉を踏まえ、2021年4月上旬より、公開買付者は順次、対象者を通じて、旧経営陣のうち第三者委員会におけるヒアリングにも協力的であり、対象者の再建を後押しする姿勢を示していた川瀬氏及び大津氏に対し、本公開買付けに関する説明の機会を得て、その内容を説明し、川瀬氏及び大津氏から本応募契約に合意する旨の回答を得ました。他方、対象者は、対象者取締役を退任した後、柿内氏が対象者従業員の複数と接触していることが確認されたため、柿内氏に本公開買付けを事前に共有した場合に、対象者従業員に対してインサイダー情報が流出するおそれがあり、また、柿内氏が結果として対象者が上場廃止となることも厭わず、対象者株式を早期に処分するよう努めるという誓約書での合意に反する可能性

があると考え、柿内氏に対しては本公開買付け開始後に、誓約書の履行として、応募の打診をすることにしたとのことです。また、西野氏については、柿内氏と前職において同期という関係にあり、西野氏に本公開買付けを打診した場合、柿内氏に本公開買付けが伝わることを対象者が懸念したため、西野氏に対しても本公開買付け開始後に、誓約書の履行として、応募の打診をすることにしたとのことです。本公開買付け開始後は、柿内氏とは何ら関連がなく柿内氏の影響を受けない公開買付者が対象者の議決権過半数を得ることとなり、柿内氏の影響力は低下することとなるため、柿内氏及び西野氏については、2021年4月14日に、本公開買付けに応じるよう対象者より打診を行う予定とのことです。これと並行して、公開買付者と対象者との間で、緊密に経営戦略・事業戦略についての協議を行い、上記「1. 買付け等の目的」の「(2) 本公開買付けの実施を決定するに至った背景、目的及び意思決定の過程並びに本公開買付け後の経営方針」の「① 本公開買付けの実施を決定するに至った背景、目的及び意思決定の過程」の「(c) 対象者及び応募予定株主との協議・交渉」に記載の事業シナジー及びメリットが見込めることとの考えに至り、公開買付者は、2021年4月14日、本取引により、公開買付者が最終的に対象者の議決権の過半数を取得して対象者を公開買付者の連結子会社とすることで、対象者グループ間におけるガバナンスの再構築及び強化、財務基盤の強化及び新規事業開発の実現ができるものと判断いたしました。

(a) 算定の際に意見を聴取した第三者の名称

公開買付者は、本公開買付け価格を決定するにあたり、公開買付者、対象者及び応募予定株主から独立した第三者算定機関である東京F Aから提出された本株式価値算定書を参考にいたしました。なお、東京F Aは、公開買付者、対象者及び応募予定株主の関連当事者には該当せず、本公開買付けに関して、重要な利害関係を有していません。また、公開買付者は、東京F Aから本公開買付け価格の公正性に関する意見（フェアネス・オピニオン）を取得していません。

(b) 当該意見の概要

東京F Aは、市場株価法及びDCF法の各手法を用いて対象者株式の株式価値の算定を行っており、各手法において算定された対象者株式1株当たりの株式価値の範囲は以下のとおりです。

市場株価法： 153円～159円  
DCF法： 133円～163円

(c) 当該意見を踏まえて本公開買付け価格を決定するに至った経緯

公開買付者は、東京F Aから取得した本株式価値算定書の算定結果に加え、公開買付者において2021年1月中旬から2021年3月下旬の間に実施した対象者に対するデュー・ディリジェンスの結果、対象者取締役会による本公開買付けへの賛同の可否、対象者株式の市場株価の動向及び本公開買付けに対する応募の見通し等を総合的に勘案し、対象者及び応募予定株主との協議・交渉の結果等も踏まえ、最終的に2021年4月14日の取締役会において、本公開買付け価格を対象者株式1株当たり138円とすることを決議いたしました。

③ 算定機関との関係

東京F Aは公開買付者、対象者及び応募予定株主の関連当事者には該当せず、本公開買付けに関して、重要な利害関係を有していません。

(5) 買付予定の株券等の数

株券等の種類	買付予定数	買付予定数の下限	買付予定数の上限
普通株式	12,608,200 (株)	5,746,130 (株)	12,608,200 (株)

合計	12,608,200 (株)	5,746,130 (株)	12,608,200 (株)
----	----------------	---------------	----------------

(注1) 応募株券等の総数が買付予定数の下限 (5,746,130 株) に満たない場合は、応募株券等の全部の買付け等を行いません。応募株券等の総数が買付予定数の上限 (12,608,200 株) を超える場合は、その超える部分の全部又は一部の買付け等を行わないものとし、法第27条の13第5項及び府令第32条に規定するあん分比例の方式により、株券等の買付け等に係る受渡しその他の決済を行います。

(注2) 本公開買付けを通じて、対象者が所有する自己株式を取得する予定はありません。

(注3) 単元未満株式についても、本公開買付けの対象としております。なお、会社法に従って株主による単元未満株式買取請求権が行使された場合には、対象者は法令の手続に従い公開買付け期間中に自己の株式を買い取ることがあります。

(注4) 公開買付け期間の末日までに本新株予約権が行使される可能性があります。当該行使により発行される対象者株式 (最大1,822,200 株) についても本公開買付けの対象となります。

(注5) 買付予定数の下限 (5,746,130 株) は、応募予定株主からの応募を念頭に、応募予定株主が所有する対象者株式数を記載しております。

(注6) 買付予定数の上限 (12,608,200 株) は、公開買付者の本公開買付けにおける取得分及び本第三者割当増資による取得分に関して、仮に本公開買付けに対象者が所有する自己株式を除く発行済株式総数 (23,343,728 株) の全ての応募があった場合においても増資後完全希薄化ベース株券等所有割合が 50.10%となるような株式数に相当する数を記載しております。

#### (6) 買付け等による株券等所有割合の異動

買付け等前における公開買付者の所有株券等に係る議決権の数	一個	(買付け等前における株券等所有割合 一%)
買付け等前における特別関係者の所有株券等に係る議決権の数	一個	(買付け等前における株券等所有割合 一%)
買付け等後における公開買付者の所有株券等に係る議決権の数	126,082 個	(買付け等後における株券等所有割合 54.01%)
買付け等後における特別関係者の所有株券等に係る議決権の数	一個	(買付け等後における株券等所有割合 一%)
対象者の総株主の議決権の数	233,394 個	

(注1) 「買付け等後における公開買付者の所有株券等に係る議決権の数」は、本公開買付けにおける買付予定数 (12,608,200 株) に係る議決権の数です。

(注2) 「対象者の総株主等の議決権の数」は、対象者四半期報告書に記載された2020年10月31日現在の総株主の議決権の数 (1単元の株式数を100株として記載されたもの) です。但し、本公開買付けにおいては単元未満株式 (但し、自己株式を除きます。) についても本公開買付けの対象としているため、「買付予定の株券等に係る議決権の数の総株主等の議決権の数に占める割合」及び「買付け等を行った後における株券等所有割合」の計算においては、対象者四半期報告書に記載された2021年1月31日現在の対象者株式の発行済株式総数 (23,343,900 株) から、対象者四半期報告書に記載された2021年1月31日現在の対象者が所有する自己株式数 (172 株) を除いた対象者株式数 (23,343,728 株) に係る議決権数 (233,437 個) を分母として計算しております。

(注3) 「買付け等後における株券等所有割合」は、小数点以下第三位を四捨五入しております。

(注4) 本日現在の対象者が発行する本新株予約権が行使されることにより発行等される可能性のある対象者株式は最大1,822,200株であり、本新株予約権の行使により対象者株式が発行等された場合には、上記「買付け等後における株券等所有割合」は、54.01%を下回ることであります。

(注5) 対象者有価証券届出書等によれば、対象者は、2021年4月14日開催の対象者取締役会において、本第三者割当増資について決議しているとのことです。公開買付者は、本第三者割当増資に関

して、本公開買付けが成立した場合には、本公開買付けの結果を確認した上で、最大発行株数 13,751,600 株（本公開買付けにおいて応募株券等の総数が 5,746,130 株であった場合）の範囲において発行される、本第三者割当増資における公開買付者に対する募集株式の数の範囲内で、本取引後において公開買付者が所有することとなる対象者株式の合計数の増資後完全希薄化ベース株券等所有割合が最大 50.10%を超えない株式数について払込みを行う予定です。他方、公開買付者は、本公開買付けが成立しなかった場合には、本第三者割当増資に係る払込みの全部を行わない予定です。そのため、公開買付者は、本公開買付けの結果に応じて、本第三者割当増資における公開買付者に対する募集株式の数として対象者が決議した株式数（13,751,600 株）のうち全部又は一部について払込みを行わない可能性があります。なお、上記「1. 買付け等の目的」の「(1) 本公開買付けの概要」]に記載のとおり、本公開買付けが成立し、公開買付者が本第三者割当増資により対象者株式を取得する場合には、本取引により、公開買付者は、会社法第 206 条の 2 第 1 項に規定する特定引受人に該当する可能性があります。この点、対象者有価証券届出書等によれば、2021 年 4 月 14 日開催の対象者取締役会において、独立役員である監査役 3 名（社外監査役 3 名）全員は、本第三者割当増資には必要性及び相当性が認められること、払込金額は特に有利な払込金額には該当しないこと、その他法令上必要な手続を経た上で実施される予定であること等を踏まえて、会社法第 206 条の 2 第 1 項に規定する特定引受人に該当する公開買付者に対する本第三者割当増資による対象者株式の割当ては、適法かつ相当である旨の意見を表明しているとのこと。なお、当該監査役の意見の詳細については、対象者有価証券届出書等をご参照ください。

(7) 買付代金 1,739 百万円

(8) 決済の方法

① 買付け等の決済をする証券会社・銀行等の名称及び本店の所在地  
三田証券株式会社 東京都中央区日本橋兜町 3 番 11 号

② 決済の開始日

2021 年 5 月 25 日（火曜日）

（注）法第 27 条の 10 第 3 項の規定により、対象者から公開買付期間の延長を請求する旨の記載がされた意見表明報告書が提出された場合は、2021 年 6 月 8 日（火曜日）となります。

③ 決済の方法

公開買付期間終了後遅滞なく、本公開買付けによる買付け等の通知書を応募株主等（外国人株主等の場合はその常任代理人）の住所宛に郵送いたします。買付けは、現金にて行います。買付けられた株券等に係る売却代金は、応募株主等（外国人株主等の場合はその常任代理人）の指示により、決済の開始日以後遅滞なく、公開買付代理人から応募株主等（外国人株主等の場合はその常任代理人）の指定した場所へ送金するか、公開買付代理人の応募受けをした応募株主等の口座へお支払いします。

(9) その他買付け等の条件及び方法

① 法第 27 条の 13 第 4 項各号に掲げる条件の有無及び内容

応募株券等の総数が買付予定数の下限（5,746,130 株）に満たない場合は、応募株券等の全部の買付け等を行いません。応募株券等の総数が買付予定数の上限（12,608,200 株）を超える場合は、その超える部分の全部又は一部の買付け等を行わないものとし、法第 27 条の 13 第 5 項及び府令第 32 条に規定するあん分比例の方式により、株券等の買付け等に係る受渡しその他の決済を行います（各応募株券等の数に 1 単元（100 株）未満の部分がある場合、あん分比例の方式により計算される買付株数は各応募株券等の数を上限とします。）。

あん分比例の方式による計算の結果生じる 1 単元未満の株数を四捨五入して計算した各応募株主等

からの買付株数の合計が買付予定数の上限に満たない場合は、買付予定数の上限以上になるまで、四捨五入の結果切捨てられた株数の多い応募株主等から順次、各応募株主等につき1単元（追加して1単元の買付け等を行うと応募株券等の数を超える場合は応募株券等の数までの数）の応募株券等の買付け等を行います。但し、切捨てられた株数の等しい複数の応募株主等全員からこの方法により買付け等を行うと買付予定数の上限を超えることとなる場合には、買付予定数の上限を下回らない範囲で、当該応募株主等の中から抽選により買付け等を行う株主を決定します。

あん分比例の方式による計算の結果生じる1単元未満の株数を四捨五入して計算した各応募株主等からの買付株数の合計が買付予定数の上限を超える場合は、買付予定数の上限を下回らない数まで、四捨五入の結果切上げられた株数の多い応募株主等から順次、各応募株主等につき買付株数を1単元（あん分比例の方式により計算される買付株数に1単元未満の株数の部分がある場合は当該1単元未満の株数）減少させるものとします。但し、切上げられた株数の等しい複数の応募株主等全員からこの方法により買付株数を減少させると買付予定数の上限を下回ることとなる場合には、買付予定数の上限を下回らない範囲で、当該応募株主等の中から抽選により買付株数を減少させる株主を決定します。

## ② 公開買付けの撤回等の条件の有無、その内容及び撤回等の開示の方法

金融商品取引法施行令（昭和40年政令第321号。その後の改正を含みます。以下「令」といいます。）第14条第1項第1号イ乃至ヌ及びワ乃至ツ、第3号イ乃至チ及びヌ、並びに同条第2項第3号乃至第6号に定める事項のいずれかが生じた場合は、本公開買付けの撤回等を行うことがあります。なお、令第14条第1項第3号ヌに定める「イからリまでに掲げる事実に準ずる事実」とは、①対象者が過去に提出した法定開示書類について、重要な事項につき虚偽の記載があり、又は記載すべき重要な事項の記載が欠けていることが判明した場合、及び②対象者の重要な子会社に同号イ乃至トに掲げる事実のいずれかが発生した場合をいいます。

撤回等を行おうとする場合は、電子公告を行い、その旨を日本経済新聞に掲載します。但し、公開買付け期間の末日までに公告を行うことが困難な場合は、府令第20条に規定する方法により公表し、その後直ちに公告を行います。

## ③ 買付け等の価格の引下げの条件の有無、その内容及び引下げの開示の方法

法第27条の6第1項第1号の規定により、対象者が公開買付け期間中に令第13条第1項に定める行為を行った場合は、府令第19条第1項に定める基準により買付け等の価格の引下げを行うことがあります。

買付け等の価格の引下げを行おうとする場合は、電子公告を行い、その旨を日本経済新聞に掲載します。但し、公開買付け期間の末日までに公告を行うことが困難な場合は、府令第20条に規定する方法により公表し、その後直ちに公告を行います。買付け等の価格の引下げがなされた場合、当該公告が行われた日以前の応募株券等についても、引下げ後の買付け等の価格により買付け等を行います。

## ④ 応募株主等の契約の解除権についての事項

応募株主等は、公開買付け期間中においては、いつでも本公開買付けに係る契約を解除することができます。契約の解除をする場合は、公開買付け期間末日の15時30分までに、以下に指定する者の本店に「公開買付け応募申込受付票」を添付の上、「本公開買付けに係る契約の解除を行う旨の書面（以下「解除書面」といいます。）」を交付又は送付してください。但し、送付の場合は、解除書面が公開買付け期間末日の15時30分までに、以下に指定する者の本店に到達することを条件といたします。従って、解除書面を送付する場合は、解除書面が公開買付け期間末日の15時30分までに公開買付け代理人に到達しなければ解除できないことにご注意ください。なお、解除書面は、下記に指定する者の本店に備え置いていますので、契約の解除をする場合は、下記に指定する者にお尋ねください。なお、公開買付け者は応募株主等による契約の解除があった場合においても、損害賠償又は違約金の支払いを応募株主等に請求しません。また、応募株券等の返還に要する費用も公開買付け者の負担とします。解

除を申し出られた場合には、応募株券等は当該解除の申出に係る手続終了後速やかに返還します。

解除書面を受領する権限を有する者

三田証券株式会社 東京都中央区日本橋兜町3番11号

⑤ 買付条件等の変更をした場合の開示の方法

公開買付者は、公開買付期間中、法第27条の6第1項及び令第13条により禁止される場合を除き、買付条件等の変更を行うことがあります。買付条件等の変更を行おうとする場合は、その変更内容等につき電子公告を行い、その旨を日本経済新聞に掲載します。但し、公開買付期間の末日までに公告を行うことが困難な場合は、府令第20条に規定する方法により公表を行い、その後直ちに公告を行います。買付条件等の変更がなされた場合、当該公告が行われた日以前の応募株券等についても、変更後の買付条件等により買付け等を行います。

⑥ 訂正届出書を提出した場合の開示の方法

訂正届出書を関東財務局長に提出した場合（但し、法第27条の8第11項但書に規定する場合を除きます。）は、直ちに訂正届出書に記載した内容のうち、公開買付開始公告に記載した内容に係るものを府令第20条に規定する方法により公表します。また、直ちに公開買付説明書を訂正し、かつ、既に公開買付説明書を交付している応募株主等に対しては、訂正した公開買付説明書を交付して訂正します。但し、訂正の範囲が小範囲に止まる場合には、訂正の理由、訂正した事項及び訂正後の内容を記載した書面を作成し、その書面を応募株主等に交付する方法により訂正します。

⑦ 公開買付けの結果の開示の方法

本公開買付けの結果については、公開買付期間の末日の翌日に、令第9条の4及び府令第30条の2に規定する方法により公表します。

⑧ その他

本公開買付けは、直接間接を問わず、米国内において若しくは米国に向けて行われるものではなく、また米国の郵便その他の州際通商若しくは国際通商の方法・手段（ファクシミリ、電子メール、インターネット通信、テレックス及び電話を含みますが、これらに限りません。）を利用して行われるものでもなく、更に米国の証券取引所施設を通じて行われるものでもありません。上記方法・手段により、若しくは上記施設を通じて、又は米国内から本公開買付けに応募することはできません。

また、本書又は関連する買付書類は、米国内において若しくは米国に向けて、又は米国内から、郵送その他の方法によって送付又は配布されるものではなく、かかる送付又は配布を行うことはできません。上記制限に直接又は間接に違反する本公開買付けへの応募はお受けできません。

本公開買付けへの応募に際し、応募株主等（外国人株主等の場合は常任代理人）は公開買付代理人又は復代理人に対し、以下の表明及び保証を行うことを求められることがあります。

応募株主等が応募の時点及び公開買付応募申込書送付の時点のいずれにおいても米国に所在していないこと。本公開買付けに関するいかなる情報（その写しを含みます。）も、直接間接を問わず、米国内において若しくは米国に向けて、又は米国内から、これを受領したり送付したりしていないこと。買付け等若しくは公開買付応募申込書の署名交付に関して、直接間接を問わず、米国の郵便その他の州際通商若しくは国際通商の方法・手段（ファクシミリ、電子メール、インターネット通信、テレックス及び電話を含みますが、これらに限りません。）又は米国内の証券取引所施設を使用していないこと。他の者の裁量権のない代理人又は受託者・受任者として行動する者ではないこと（当該他の者が買付け等に関する全ての指示を米国外から与えている場合を除きます。）。

(10) 公開買付開始公告日

2021年4月15日（木曜日）

(11) 公開買付代理人

三田証券株式会社 東京都中央区日本橋兜町3番11号

3. 公開買付け後の方針等及び今後の見通し

(1) 本公開買付け後の方針

本公開買付け後の方針等及び今後の見通しについては、上記「1. 買付け等の目的」の「(2) 本公開買付けの実施を決定するに至った背景、目的及び意思決定の過程、並びに本公開買付け後の経営方針」の「③ 本公開買付け後の経営方針」をご参照ください。

(2) 今後の連結業績への影響及び見通し

本公開買付けによる公開買付者の業績への影響については、現在精査中であり、今後、業績予想の修正の必要性及び公表すべき事実が生じた場合には、速やかに公表いたします。

4. その他

(1) 公開買付者と対象者又はその役員との間の合意の有無及び内容

① 本公開買付けに対する賛同

対象者プレスリリースによれば、対象者は、本取引の実施を通じて、公開買付者が対象者の議決権の過半数を取得して対象者を公開買付者の連結子会社とすることで、公開買付者と対象者との間で安定的かつ強固な関係を構築することが、対象者の財務基盤の強化及びガバナンスの強化を可能にするとともに、対象者の収益力の強化については対象者の企業価値向上に資するとの判断に至ったことから、2021年4月14日開催の対象者取締役会において、本公開買付けへの賛同の意見を表明するとともに、対象者株主の皆様が本公開買付けに応募するか否かについては、中立の立場を採り、対象者株主の皆様のご判断に委ねる旨を決議したとのことです。対象者取締役会決議の詳細は、対象者プレスリリース及び上記「1. 買付け等の目的」の「(4) 本公開買付け価格の公正性を担保するための措置及び利益相反を回避するための措置等、本公開買付けの公正性を担保するための措置」の「③ 対象者における利害関係を有しない取締役全員による決議及び監査役全員による異議のない旨の意見」をご参照ください。

② 本資本業務提携契約

公開買付者は、対象者との間で、2021年4月14日付で、本資本業務提携契約を締結いたしました。本資本業務提携契約の概要については、上記「1. 買付け等の目的」の「(3) 本公開買付けに係る重要な合意に関する事項」の「① 本資本業務提携契約の概要」をご参照ください。

③ 本第三者割当増資

対象者有価証券届出書等によれば、対象者は、2021年4月14日開催の対象者取締役会において、公開買付者を割当予定先とし、払込期間を本公開買付けに係る決済の開始日である2021年5月25日から同年6月30日までとする本第三者割当増資について決議しているとのことです。公開買付者は、本第三者割当増資に関して、本公開買付けが成立した場合には、本公開買付けの結果を確認した上で、最大発行株式数13,751,600株（本公開買付けにおいて応募株券等の総数が5,746,130株であった場合）の範囲において発行される、本第三者割当増資における公開買付者に対する募集株式の数の範囲内で、本取引後において公開買付者が所有することとなる対象者株式の合計数の増資後完全希薄化ベース株券等所有割合が最大50.10%を超えない株式数について払込みを行う予定です。他方、公開買付者は、本公開買付けが成立しなかった場合には、本第三者割当増資に係る払込みの全部を行わない予定です。そのため、公開買付者は、本公開買付けの結果に応じて、本第三者割当増資における公

公開買付者に対する募集株式の数として対象者が決議した株式数（13,751,600株）のうち全部又は一部について払込みを行わない可能性があります。本第三者割当増資の詳細につきましては、対象者有価証券届出書等、上記「1. 買付け等の目的」の「(3) 本公開買付けに係る重要な合意に関する事項」の「① 本資本業務提携契約の概要」の「(iii) 本第三者割当増資に関する事項」及び「(5) 本公開買付け後の対象者の株券等の取得予定」をご参照ください。

- (2) 投資者が買付け等への応募の是非を判断するために必要と判断されるその他の情報  
該当事項はありません。

## 5. 支配株主との取引等に関する事項

- (1) 支配株主との取引等の該当性及び少数株主の保護の方策に関する指針への適合状況

公開買付者は、本公開買付け及び本第三者割当増資において、買付資金の一部を公開買付者の支配株主である穂田誉輝氏（以下、「穂田氏」）より借入れるため（以下「本借入れ」といいます。）、支配株主との取引等に該当します。

公開買付者は、2020年12月23日に開示したコーポレート・ガバナンス報告書で示している「支配株主との取引等を行う際における少数株主の保護の方策に関する指針」において、「独立当事者間取引を前提として、一般取引と同様に取引条件を交渉し、取締役会の事前承認及び事後報告（一度承認を得た通例取引については事後報告）を得ます。」と定めております。

公開買付者は、後記「(2) 公正性を担保するための措置及び利益相反を回避するための措置に関する事項」及び「(3) 当該取引等が少数株主にとって不利益なものではないことに関する、支配株主と利害関係のない者から入手した意見の概要」に記載の各事項に加えて、本借入の取引条件について、本借入を行うことの合理性及び本借入の取引条件について十分な検討を行った上で本借入の実行を決定していることから、公開買付者の「支配株主との取引等を行う際における少数株主の保護の方策に関する指針」に適合していると判断しております。

- (2) 公正性を担保するための措置及び利益相反を回避するための措置に関する事項

前記「(1) 支配株主との取引等の該当性及び少数株主の保護の方策に関する指針への適合状況」のとおり、本借入は、公開買付者にとって支配株主との取引等に該当することから、公開買付者は、後記「(3) 当該取引等が少数株主にとって不利益なものではないことに関する、支配株主と利害関係のない者から入手した意見の概要」に記載の各事項を講じております。

さらに、利益相反を回避するための措置として、穂田氏は、本借入に係る公開買付者の取締役会の審議及び決議に参加しておらず、公開買付者の立場において、本借入に関する検討、協議及び交渉にも参加しておりません。

- (3) 当該取引等が少数株主にとって不利益なものではないことに関する、支配株主と利害関係のない者から入手した意見の概要

公開買付者は、本借入の公正性を担保し利益相反を回避する観点から、支配株主との間に利害関係を有しない公開買付者の社外取締役（監査等委員）である田丸正敏氏、西村清彦氏及び飯田耕一郎氏の3名から構成される特別委員会を2021年3月19日に取締役会決議をもって設置し、特別委員会の判断の取扱いについては最大限尊重して意思決定を行う旨の決議した上で、特別委員会に対して、公開買付者による本借入を行うことについての決定が、公開買付者の少数株主にとって不利益なものでないかについて諮問いたしました。

特別委員会は、本日までの間に合計3回開催され、公開買付者は、特別委員会から、①公開買付者によるハイアス・アンド・カンパニー株式会社の買収のために穂田氏から資金調達を行うという目的は正当であること、②独立役員を含む、支配株主から独立した社外取締役3名から構成される特別委員会を設置され、特別委員会において、案件詳細の聴取、取引条件及びその決定過程等に関する質疑がなされ、

金融機関からの借入の条件等との比較を行い、十分な審議を行って、少数株主の利益を確保するための公正な手続きが実施されていること、③本借入の取引条件は、金融機関との取引条件を考慮して合理的に決定された条件であり、妥当であることから、公開買付者による本借入を行うことの公開買付者取締役会における決定は、公開買付者の少数株主にとって不利益なものではないと考える旨の答申書を2021年4月13日付で入手しております。

## II 資本業務提携について

### 1. 業務提携の理由

上記「I 公開買付けについて」の「1. 買付け等の目的等」をご参照ください。

### 2. 提携の内容等

本資本業務提携の内容は、上記「I 公開買付けについて」の「1. 買付け等の目的等」の「(3) 本公開買付けに係る重要な合意に関する事項」の「① 本資本業務提携契約の概要」をご参照ください。

また、新たに取得する対象者株式の取得価額は、「I 公開買付けについて」の「2. 買付け等の概要」の「(7) 買付代金」をご参照ください。

### 3. 提携の相手先の概要

上記「I 公開買付けについて」の「2. 買付け等の概要」の「(1) 対象者の概要」をご参照ください。

### 4. 日程

取締役会決議日	2021年4月14日(水曜日)
資本業務提携契約の締結	2021年4月14日(水曜日)
本公開買付けの開始日	2021年4月15日(木曜日)
本公開買付けの終了日	2021年5月18日(火曜日)
本公開買付けの決済の開始日	2021年5月25日(火曜日)

### 5. 今後の見通し

上記「I 公開買付けについて」の「3. 公開買付け後の方針等及び今後の見通し」をご参照ください。本公開買付け及び本第三者割当増資により公開買付者は対象者の親会社に該当する見込みですが、同社の異動後の議決権の数及び議決権所有割合は本公開買付け及び本第三者割当増資の結果により変動するため、当該異動については確定次第お知らせいたします。

以上